

山梨県北巨摩郡高根町

藤林寺跡遺跡
八ツ井牛北北北
持八ツ牛北北北
下風呂田北北北
米田北北北北
米

県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997. 3

高根町教育委員会
山梨県峡北土地改良事務所

山梨県北巨摩郡高根町

藤	林	寺	跡	遺	跡	跡	跡	跡
八	ツ	牛	北	遺	跡	跡	跡	跡
持	井	牛	北	遺	跡	跡	跡	跡
八	ツ	風	呂	遺	跡	跡	跡	跡
下	田	田	北	遺	跡	跡	跡	跡
米	田	田	北	遺	跡	跡	跡	跡
米								

県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997. 3

高根町教育委員会
山梨県峡北土地改良事務所

序 文

八ヶ岳の豊かな自然に育まれた高根町は、広大な裾野の南に緩やかに傾斜した青空と水と緑の高原の町として今日まで発展しております。

この発展の基盤には永い歴史と人類のたゆまぬ努力の蓄積があり、その歴史も時代の推移とともに忘れられた部分が多いと思われます。

当町では昭和53年から農林水産省から補助金をいただき農業基盤整備を行い、この事業の一環としては場整備事業を行ってまいりました。

これに伴い土地に埋もれた歴史・埋蔵文化財の調査が数多く行われ、大きな成果を上げております。

これらは、先人たちが大地に残してくれた歴史・文化のメッセージであり、昨日から明日へ向けての基礎資料となっております。

今回報告されるのは村山北割西工区から藤林寺跡遺跡・持井北遺跡・八ツ牛遺跡・八ツ牛北遺跡・米田遺跡・米田北遺跡、村山東割工区から下風呂遺跡の7遺跡で、調査された内容は縄文時代前期からで断続的ではありますが近世までの、先人の生活の知恵・営みなどの遺跡に触れることにより、私たちの住む高根町の歴史の一端が記録保存というかたちではありますが、それぞれについて記述されておりますので、御高覧いただき活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、この事業に御協力いただきました地元の方々をはじめ、山梨県狭北土地改良事業所・山梨県教育委員会学術文化課・山梨県埋蔵文化財センター等の関係各位に深く感謝申し上げます。

平成9年3月31日

高根町教育委員会

教育長 坂 本 基 可

例 言

1. 本書は、山梨県北巨摩郡高根町地内の埋蔵文化財の発掘調査報告である。報告する遺跡は、下記のとおりである。
 1. 藤林寺跡遺跡 昭和63年度調査
 2. ハツ牛遺跡 平成元年度調査
 3. 持井北遺跡 平成2年度調査
 4. ハツ牛北遺跡 平成2年度調査
 5. 下風呂遺跡 平成2年度調査
 6. 米田遺跡 平成4年度調査
 7. 米田北遺跡 平成5年度調査
2. 発掘調査は、高根町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査によって得られた出土遺物・記録図面及び写真等は、高根町教育委員会で保管している。
4. 発掘調査組織
調査主体 …… 高根町教育委員会
5. 発掘調査参加者（順不同・敬称略）
榎本 勝、植松 種三、川端下圭子、清水すみか、植松 幸子、原藤まさみ、浅川えみ子、白倉カッ子、原藤 栄、八巻 栄、八巻 久子、田中 恒子、植松志げ子、吉沢とみ子、中嶋 英子、浅川 浅江、赤岡 里子、浅川 春枝、浅川今朝美、浅川 花子、植松 啓子、植松 小菊、三澤ふみ江、仲嶋まゆみ、大柴 芳子、菊原 幸男、菊原すえ子、清水よ志み、新海 登子、窪田 金博、浅川 利一、清水 貞子、小林 昭子、中嶋 當子、高柳 静香、輿水 良牧、清水まさ子、清水 島子、小林 文治、半田 初子、菊原はつよ、八巻 知子、日向たまの、田中 昭子、古屋 房子、永闌富貴男、小宮山きよ、吉田加代子
6. 遺物整理参加者（順不同・敬称略）
榎本 勝、高柳 静香、仲島まゆみ、川端下圭子、植松 梅子、白倉カッ子、原藤 栄、小池 澄子、原藤まさみ

凡 例

1. 遺構エレベーション・セクション図において、水平線横の数字は海拔高度（m）を示す。
2. 縮尺は、各挿図ごとに示してある。
3. 方位は、磁北を示している。
4. 土器断面の塗装は須恵器、斜線は灰袖陶器を示す。

目 次

序 文

例 言・凡 例

第Ⅰ章 調査状況	1
i 調査の経過	1
ii 周辺の地形	1
iii 周辺の地質	2
iv 遺跡の立地	2
v 周辺の遺跡	2
vi 調査の方法	4
第Ⅱ章 蘭林寺跡遺跡	10
i 遺跡の環境	10
ii 検出された遺構	11
iii 出土した遺物	20
第Ⅲ章 ハツ牛遺跡	24
i 遺跡の環境	24
ii 検出された遺構	25
iii 出土した遺物	31
第Ⅳ章 持井北遺跡	36
i 遺跡の環境	36
ii 検出された遺構	37
iii 出土した遺物	37
第Ⅴ章 ハツ牛北遺跡	42
i 遺跡の環境	42
ii 検出された遺構	43
iii 出土した遺物	46
第Ⅵ章 下風呂遺跡	48
i 遺跡の環境	48
ii 検出された遺構	49
iii 出土した遺物	50
第Ⅶ章 米田遺跡	58
i 遺跡の環境	58
ii 検出された遺構	58
iii 出土した遺物	82
第Ⅷ章 米田北遺跡	91
i 遺跡の環境	91
ii 検出された遺構	91
iii 出土した遺物	96

第Ⅰ章 調査状況

i 調査の経過

高根町では、水田の有効利用・高効率化等を図るために昭和53年度より国の補助を得ながら農地の区画整理事業＝基盤整備事業を積極的に実施している。のことにより、山梨県峡北土地改良事務所及び町振興課・産業観光課より埋蔵文化財の有無についての問い合わせがあり、当教育委員会で確認調査を行った。確認された遺跡は、昭和63年度が藤林寺跡遺跡、平成元年度がハツ牛遺跡、平成2年度が持井北遺跡・ハツ牛北遺跡、平成4年度が米田遺跡、平成5年度が米田北遺跡があることが判明し、記録保存を目的とした緊急発掘調査を当教育委員会が主体となり実施した。実施した遺跡の調査期間は、次のとおりである。

藤林寺跡遺跡	昭和63年9月10日～昭和63年12月25日
ハツ牛遺跡	平成元年11月1日～平成元年12月20日
下風呂遺跡	平成2年7月20日～平成2年8月31日
持井北遺跡	平成2年9月1日～平成2年9月11日
ハツ牛北遺跡	平成2年9月12日～平成2年9月30日
米田遺跡	平成4年9月1日～平成4年11月30日
米田北遺跡	平成5年8月1日～平成5年12月20日

ii 周辺の地形

高根町は、山梨県の北西部に県境として聳えている八ヶ岳の南麓に広がる高原の町である。この山は、日本列島を東西に二分する大地溝帯上（フォッサマグナ）に噴火した火山性の山であり、噴出物の特性のため裾野は比較的なだらかな地形（台地状を呈する）であるが、町内東部は飯盛山火山群に属するため、この周辺はやや急峻である。

八ヶ岳からつづくこの台地は、国道141号線の董崎から小諸へ抜ける途中の弘法坂付近で合流する大門川と川俣川によって2つに区分することができ、北側は標高約1,000m以上の亜高山帯に属し、南側は標高約600mから約900mの範囲で高根町の主要部を占め、基幹作物は水稻等を主としている。

町の東は、八ヶ岳の赤岳を水源とし南流する川俣川・大門川（須玉川）によって浸食された比高差約100mを測る垂直に立った崖が20数km南北につづき、北は前述の南北に折り重なるように列になつた八ヶ岳連峰によって隔離された地域となっている。唯一開けた西側も隣町である長坂町及び小淵沢町の西側を南流する釜無川（富士川）によって隔離されているが、この両河川に挟まれた台地は、南北20数km、東西の最大幅10数kmを測り、台地上を流れる小河川は南流し、前述の両大河川に合流している。

Ⅲ 周辺の地質

八ヶ岳は、本州を中央で二分する大地溝帯=糸魚川静岡構造線上に噴火した火山群で、その生成時期は地質年代で第三紀末から第四紀の洪積世前期といわれ、形成している溶岩はいわゆる輝石安山岩類で標高1,000m以上に分布し、それ以下の広大な山麓の斜面は、熔岩の粉碎物や、噴火による堆積物からなる火山質腐植土の黒褐色をした表土が覆っている。

標準的な土層堆積状態は上から、黒色土（20～40cm）、ローム層（3～4m）、御岳山を起源とする細粒軽石層いわゆる鹿沼土（40～60cm）、白色系粘土層（10～20cm）、暗赤褐色疊粘土層（八ヶ岳火碎泥流）となる。

iv 遺跡の立地

遺跡群は、県道長坂高根線の北側に所在する高根町役場の西側一帯が村山北割西工区である。

藤林寺跡遺跡は、標高約738mを測る水田中の未開墾地に所在した。当遺跡は、『甲斐国誌』の社記寺記によれば東蓮寺と表記され、現地に五輪塔の石材が散乱すると記入されており、当該地周辺で踏査を行ったところ水田の土手の石垣中より墓石の一部と思われる石材が見受けられたが、現地の小高い部分は水稻の苗床用の土取場となっており、一面に鹿沼土が露出していた。

ハツ牛・ハツ牛北遺跡は、標高約750m前後を測り、八ヶ岳山麓に数多くみられる浮島状に南北に延びる台地上から続く西側斜面にあり、1つの遺跡であり、調査年度が複数年度にわたったため便宜的に分けただけである。

持井北遺跡は、上記のハツ牛遺跡と対峙する浮島状に南北に延びる標高約760mを測る台地の東斜面に所在した。

下風呂遺跡は、標高約700m前後を測り、高根中学校のすぐ南の低位の微高地上に立地している。

米田・米田北遺跡は、ハツ牛・ハツ牛北遺跡と持井北遺跡が所在した尾根と尾根の間に挟まれた比較的広い沢の部分に深く舌状に南北に延びる標高約775m前後を測る台地上に所在した。

v 周辺の遺跡

八ヶ岳南麓の台地上には南流する小河川が数条あり、この小河川によって開析され、肥沃化された大地は古くから開拓されて現在にいたっている。村山北割西工区は持井・於小路・ハツ牛の三つの集落を指している。この地域は、周辺は小河川が南流するに従い水量が増えることにより、浸食が激しく遺跡の存在する台地は広いところもあれば、馬の背状にやせている場所もある。昭和37年に作成された県下の埋蔵文化財分布調査台帳によれば、高根町内では42ヶ所の遺跡が記載され、昭和61年に高根町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査では142ヶ所の遺跡が確認されている。この分布状況によれば、村山北割西工区一帯は遺跡が非常に濃い状態で確認されている。

これらの遺跡の多くは、縄文時代中期、平安時代、中世を中心としているが、昭和62年度に発掘調

査が行われた当町遺跡からは、縄文時代前期の遺物の散布のはかに中世の陶磁器が出土していることから、中世にはこの地域一帯を治めていた土豪の居住域を示す資料である。

以下にこの周辺で発掘調査及び踏査によって確認された遺跡について若干の説明をしてみたい。

「当町遺跡」は昭和62年に県営は場整備事業に伴う発掘調査が行われ、縄文時代前期の遺物、中世の陶磁器、近世の土壙墓4基が検出され、近世の葬送儀礼・墓の在り方を示す遺跡であると思われる。

「持井遺跡」は平成元年度に県営は場整備事業に伴う発掘調査が行われ、縄文時代中期の住居址1軒、埋甕2基、土壙11基（中世の土壙墓1、時期不明10）、時期不明の溝1条が検出され、中世の葬送儀礼・墓の在り方を示す遺跡である。

「於小路遺跡」は高根町村山北割3160番地外を中心に存在し、平安時代の土器が分布調査によって確認されている。

「椎現の木遺跡」は高根町村山西割2784番地外を中心に存在し、縄文時代中期、平安時代、中世の土器が分布調査によって確認されている。

調査された周辺の遺跡は次の通りである。

- 1、米田・米田北遺跡－縄文前期・中期・中世・近世時代
- 2、八ツ牛・八ツ牛北遺跡－平安時代・中世
- 3、持井北遺跡－縄文前期
- 4、藤林寺跡遺跡－縄文中期・平安時代・中世
- 5、下風呂遺跡－縄文中期・後期
- 6、旭山墨跡－中世
- 7、持井遺跡－縄文中期・中世
- 8、西原遺跡－平安
- 9、当町遺跡－近世
- 10、旭東久保遺跡－平安時代
- 11、東久保遺跡－縄文中期・平安時代
- 12、社口遺跡－縄文中期・平安時代
- 13、川又坂上遺跡－縄文中期・後期・平安時代
- 14、次郎構遺跡－縄文中期
- 15、妻の神B遺跡－縄文後期
- 16、柳坪遺跡－縄文中期・弥生時代・平安時代
- 17、頭無遺跡－縄文中期
- 18、城下遺跡－平安時代
- 19、金生遺跡－縄文後期・晚期・中世
- 20、谷戸城址－中世
- 21、日影田遺跡－縄文中期

vi 調査方法

調査対象面積は、年度によって工事実施面積が異なるが平均的には約5ha実施しているため、全体的な工程の土の切り盛りがあり、切り土される場所を中心に試掘調査を行い造構の確認を行った。重機によって表土を除去し、造構の確認及び掘り下げは人力によって行った。

造構内に任意で10~20m四方のグリッドを設定し、その中を4等分してサブグリッドを設定して造構の確認状況に合わせて調査を行った。



- | | | | |
|-----------------|-------------------|-------------------|---------|
| ① 米田遺跡
米田北 | ⑥ 旭山遺跡
持井遺跡 | ⑪ 川又坂上遺跡
次郎構遺跡 | ⑯ 谷戸城址 |
| ② 八ツ牛遺跡
八ツ牛北 | ⑦ 西原遺跡
当町遺跡 | ⑫ 妻の神B遺跡
柳坪遺跡 | ⑰ 日影田遺跡 |
| ③ 持井北遺跡 | ⑧ 旭東久保遺跡
東久保遺跡 | ⑬ 頭無遺跡
城下遺跡 | |
| ④ 薩林寺跡遺跡 | ⑨ 下風呂遺跡
社口遺跡 | ⑮ 金生遺跡 | |
| ⑤ 下風呂遺跡 | | | |

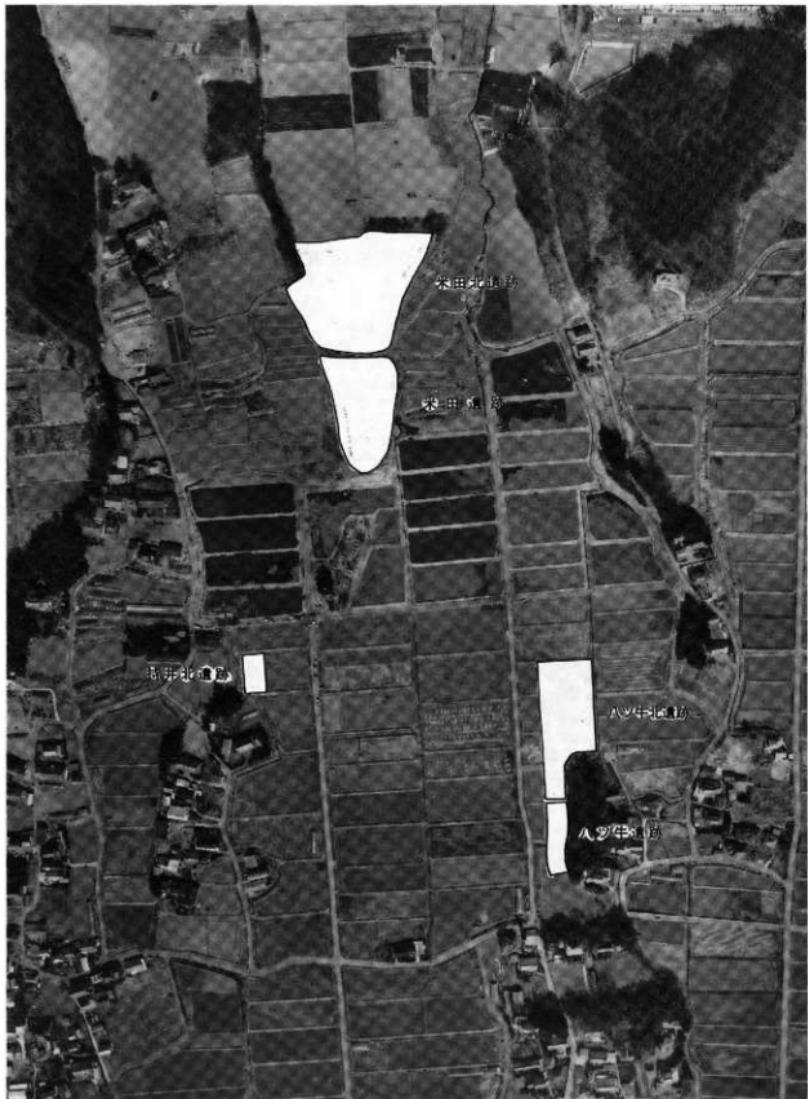
第1図 遺跡位置図 (1/50,000)



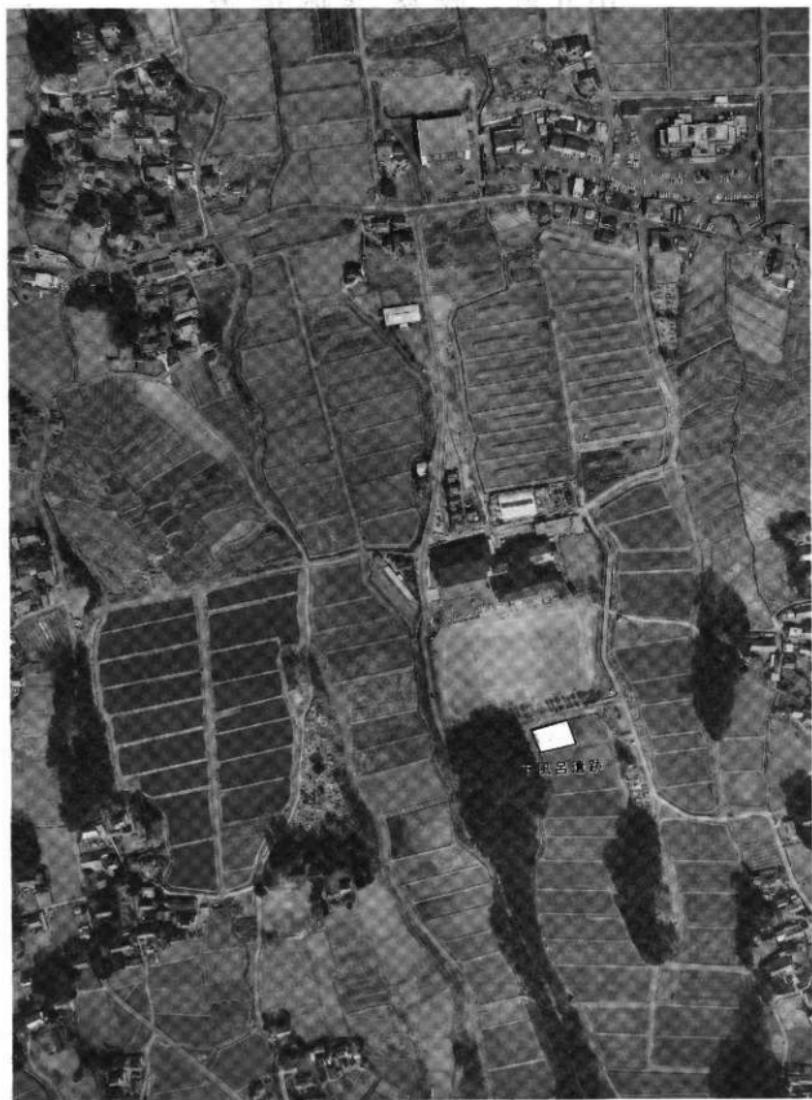
第2図 調査遺跡位置図 (1/5,000)



図版1 遺跡位置（1）



図版2 遺跡位置(2)

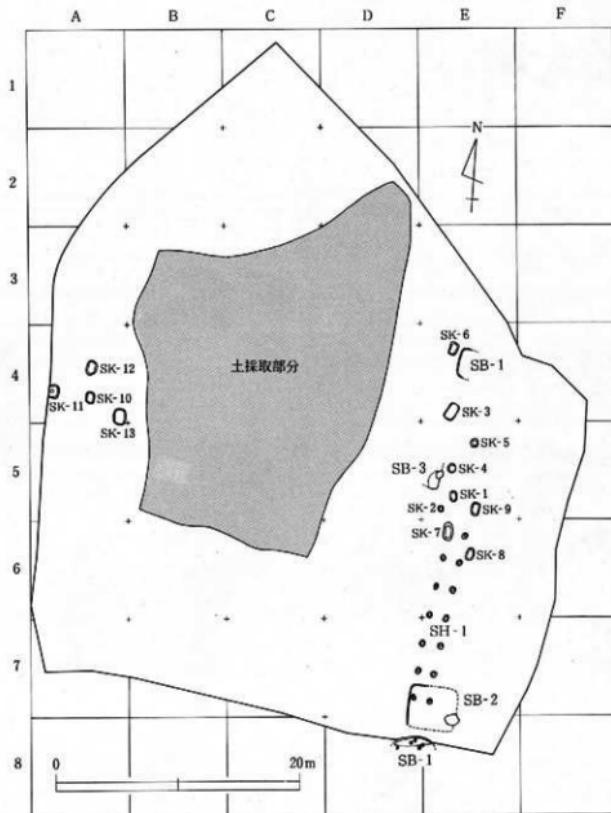


図版3　遺跡位置（3）

第Ⅱ章 藤林寺跡遺跡

i 遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山西割字赤羽根地内に所属し、標高約738mを測り、緩やかな尾根の東斜面に位置する。本遺跡は廃寺跡地であったので、農地化されず、浮島状に残された場所であった。周辺の水田化に伴い土取りが行われた。そのため、遺跡中央の高い部分は凹地状となり、東西に分割された結果になっていた。また、遺跡の東側は水田耕作のため遺構が破損し、南側は調査外のため遺構が切断されているが、本遺跡は南向きに舌状に延びていたと推測される。



第1図 藤林寺跡遺跡遺構分布図 (1/400)

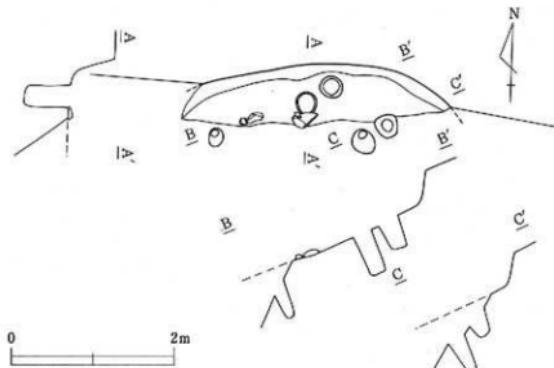
ii 検出された遺構

検出された遺構は、縄文時代中期の住居址1軒、平安時代の住居址3軒、掘建柱建物址1棟、中世の遺構と推測される土壙13基・配石遺構が検出された。

(1) 堅穴住居址

1号住居址（SB-1）第2図

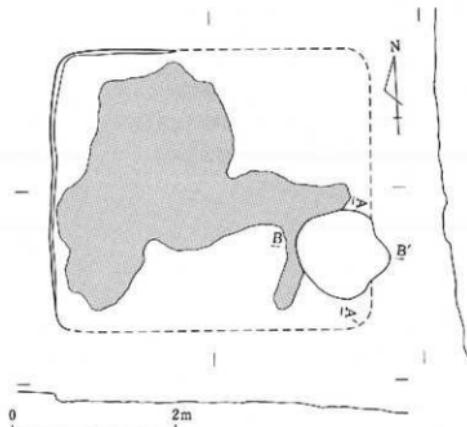
本遺跡の南端に位置し、調査以前に削除されていたため、全体は確認できないが、ほぼ円形と思われる。壁の高さ30cm。



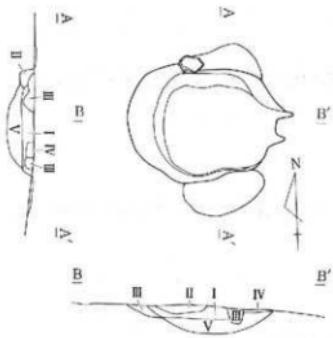
第2図 1号住居址実測図（1/60）

2号住居址（SB-2）第3図

本遺跡の東南隅に位置し、カマドと張床の存在によって、住居址であることを確認できる。平安時代の住居址と見られる。黒色土中より確認されたためプランの断定はできないが4m前後の隅丸方形と思われる。カマドは東壁の南側よりに構築された石組カマドである。袖石は左に1個見られた。壁高は17cmを測る。

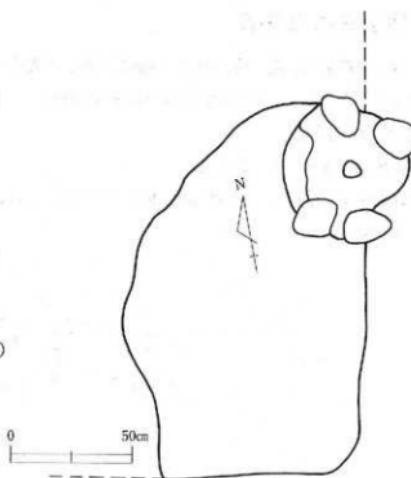


第3図 2号住居址実測図（1/60）



第4図 2号住居址カマド実測図(1/30)

第I層(灰褐色土層) ローム粒を含む
第II層(茶褐色土層) ローム粒を含む
第III層(黒褐色土層) ローム粒を含む
第IV層(茶褐色土層) ローム粒を含む
第V層(赤褐色土層) 焼土層



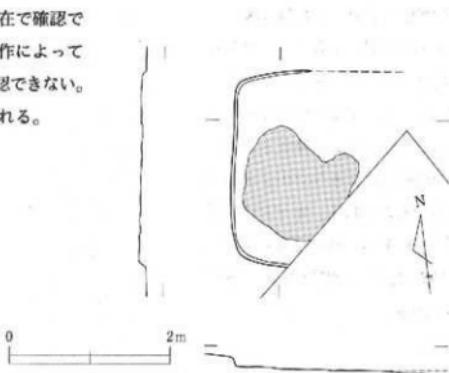
第5図 3号住居址カマド実測図(1/20)

3号住居址(SB-3) 第5図

本遺跡の東端に位置し、張床とカマドの存在によって平安時代の住居址であることが確認できる。住居址は耕作等の破壊によって、遺存状態は悪く、周溝は確認できなかった。カマドの残存石はなく、4個の袖石跡、支脚石の穴が確認された。直径約52cmの円形である。

4号住居址(SB-4) 第6図

本遺跡の東端に位置し、張床の存在で確認できる。平安時代の住居址である。耕作によって住居址の東側は破損され、周溝は確認できない。約2m×40cm四方の隅丸方形と推測される。

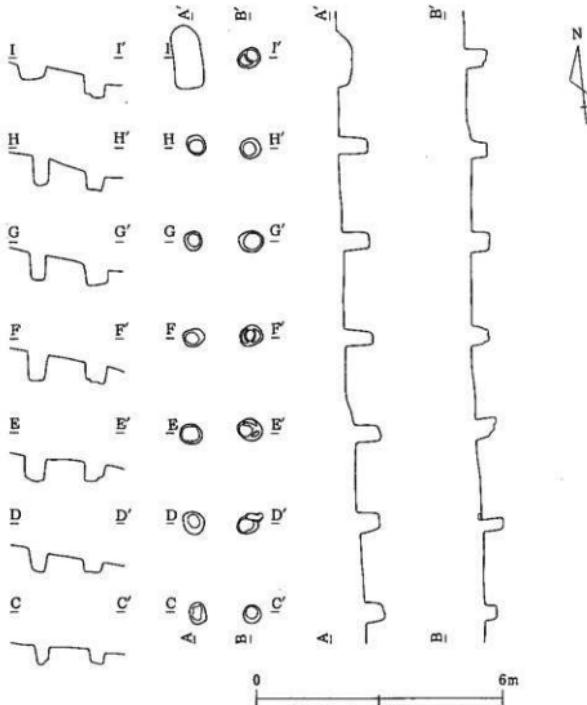


第6図 4号住居址実測図(1/60)

(2) 掘建柱建物址

1号掘建柱建物址 (SH-1) 第7図

本遺構は、遺跡の東辺に位置し、南北に1間（1m80cm）×9間（14m）の掘建柱建物址である。柱穴は直径約52cm、深さ24～72cmの円形である。東傾斜になっているため、柱穴は東側が浅くなっている。さらに東側は、沢の部分に入るため、黒色土の堆積が認められることにより、精査を行ったが柱穴は確認されなかった。



第7図 1号掘建柱建物址実測図 (1/120)

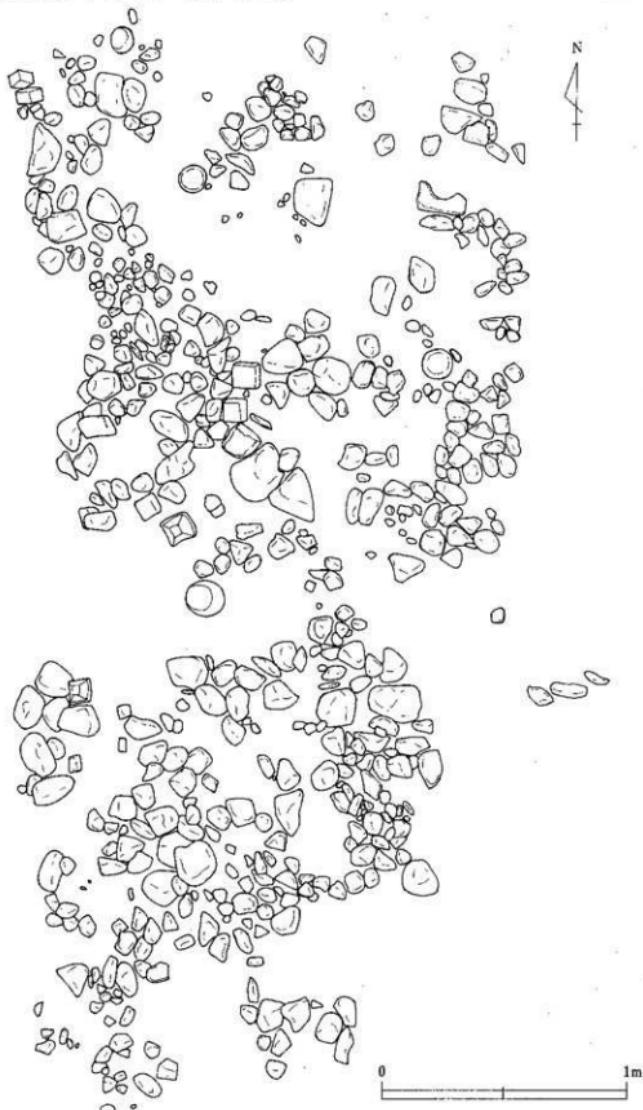
(3) 集石配石遺構 第8図

本遺跡の西辺のグリッド4-Aの12号土壇を中心、南北5m、東西2.5mの範囲に、拳・人頭大の多数の石が配石されていた。2～3の墓地群の存在を確認できる。遺構内から五輪塔が出土した。空輪・風輪の合体（13基）、火輪（6基）、水輪（12基）、地輪（18基）である。（図版4・5・6参照）。

これらの配石は耕作による影響を受けてはいるものの、その状況により中世（南北朝期）の墓地あるいは墓域を示すものであろう。この規模は未確定ではあるが1m四方前後であろう。

五輪塔の石材は、角礫岩と思われ、ほぼ同一規格で整形されていた。

五輪塔の計測結果は、次の表1の通りである。



第8図 集石配石遺構実測図 (1/20)

藤林寺跡遺跡出土五輪塔計測表(表1)

(単位 cm)

遺物番号	法										備考	
	直	横	底	さ	くびれ	横	底	さ	くびれ	高		
S-5	13.6	103	9.3	2.0	12.6	5.5	7.5	5.5	7.5	17.8		
S-6	11.1	6.1	8.5	1.8	11.3	5.0	7.6	5.0	7.6	12.9		
S-7	12.1	6.7	9.0	1.8	11.4	4.7	8.5	4.7	8.5	1302		
S-20	12.4	8.0	10.9	1.0	11.5	5.2	7.2	5.2	7.2	14.2		
S-23	10.5	6.2	8.0	1.3	10.0	5.0	7.0	5.0	7.0	12.5		
S-24	9.1	7.0	7.5	1.5	9.8	3.5	4.5	3.5	4.5	12.0		
S-26	11.7	5.9	9.0	2.0	10.7	5.0	6.8	5.0	6.8	12.9		
S-26	10.4	5.6	8.5	1.3	9.4	4.2	5.5	4.2	5.5	11.1		
S-29	12.5	7.8	10.4	1.7	12.0	6.3	9.2	6.3	9.2	15.8		
S-34	11.0	6.0	8.8	1.5	10.4	4.5	7.1	4.5	7.1	12.0		
S-35	10.7	5.1	8.1	2.0	9.4	5.0	7.5	5.0	7.5	12.1		
S-36	14.7	10.3	12.2	1.6	13.4	6.8	10.9	6.8	10.9	18.7		
S-37	12.7	6.4	8.7	2.0	11.8	6.0	6.7	6.0	6.7	14.4	上部欠損	
遺物番号	水										備考	
	上	辺	中	辺	下	底	横	高	さ	軸		
S-1	8.2	17.0	18.8	6.0	4.0	39.5°	41.0°	0.8	0.8	6.0°	5.0°	10.0
S-3	7.8	22.2	23.2	10.7	3.6	53.0°	48.5°	0.9	1.1	11.5°	11.0°	14.3
S-38	11.7	32.6	35.5	18.6	5.0	49.0°	52.5°	2.7	2.0	9.5°	5.0°	23.6
S-39	11.4	35.3	35.8	20.7	7.9	59.0°	55.5°	0.6	0.5	12.0°	15.0°	28.6
S-49	8.4	18.5	15.4	8.3	3.0	47.0°	48.0°	0.8	0.7	0°	0°	11.3
S-50	8.1	20.7	19.3	9.4	4.5	53.5°	54.0°	1.3	2.6	27°	26°	13.9
遺物番号	水										備考	
	上	径	中	徑	底	横	高	さ	張出	度		
S-2	21.6	32.7	24.4	18.8	18.7	4.2	4.9				4.4	4.5
S-4												
S-8												
S-9												
S-10	14.0	17.2	13.5	9.5	9.5	1.9	1.5				1.2	1.0
S-11	16.1	20.7	17.8	9.6	8.9	1.7	1.4				0.8	0.5
S-12	16.7	22.0	17.5	13.1	13.0	2.2	2.4				2.3	2.6
S-13	20.1	24.8	19.3	14.7	15.4	2.2	2.6				1.2	0.7
S-14(1)												
S-14(2)												
S-15												
S-16	16.1	21.1	15.5	11.6	12.7	2.0	3.0				1.9	1.7
S-17												欠損している
S-19	10.7	19.3	10.5	12.4	12.4	4.5	4.0				0.7	0.8
S-21												
S-22	13.3	16.4	13.5	7.2	7.0	1.3	1.4				0.9	0.5
S-27												
S-28												既存の範囲?
S-30	15.0	18.1	14.0	11.6	11.2	1.3	1.8				0.6	0.7
S-31	15.3	19.7	14.3	11.3	11.3	2.4	2.0				1.6	0.8
S-32	14.0	23.5	15.9	16.9	16.9	3.1	4.5				0.7	上部欠損の為推定
S-33												※
S-40												
S-41												
S-42												凹上5.0 下5.2
S-43												欠損の為実測不可
S-44												*
S-45												
S-46												
S-47												凹下15
S-48												

(4) 土 壤

1号土壤 (SK-1) 第9図

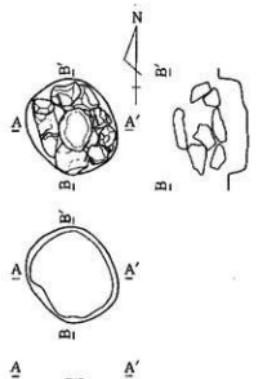
位置グリッドE-5。形状-橢円形、長径78cm・短径68cm・深さ20cm。集石あり。出土物-北宋錢6枚。のことにより墓壙と思われる。

2号土壤 (SK-2) 第11図

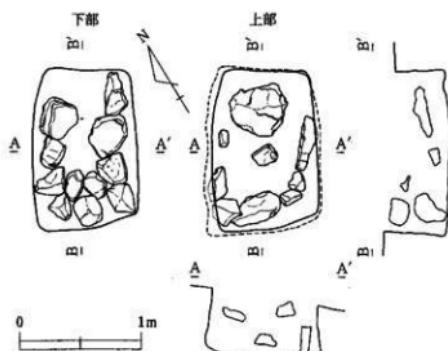
位置-グリッド(E-5)。形状-橢円形。長径54cm・短径48cm・深さ20cm。錢1枚が出土。

3号土壤 (SK-3) 第12図

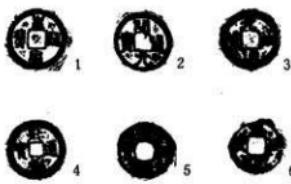
位置-グリッドE-4。形状-隅丸方形、長軸1m30cm・短軸86cm・深さ46cm。集石あり。



第9図 1号土壤実測図 (1/40)

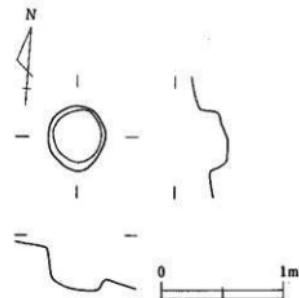


第12図 3号土壤実測図 (1/40)



第10図 1号土壤出土古錢折影 (1/2)

- 1. 皇宋通寶(1039年)北宋
- 2. 開元通寶(621年)唐
- 3. 元祐通寶(1093年)北宋
- 4. 洪德通寶(1470年)安南
- 5. 元祐通寶(1093年)北宋
- 6. 不詳



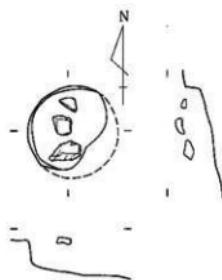
第11図 2号土壤実測図 (1/40)

4号土壤 (SK-4) 第13図

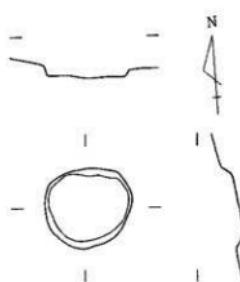
位置—グリッドE-5。形状—円形、直径70cm・深さ20cm。1部破損あり。集石3個あり。

5号土壤 (SK-5) 第14図

位置—グリッドE-5。形状—ほぼ円形、直径68cm・深さ8cmを測る。



第13図 4号土壤実測図 (1/40)



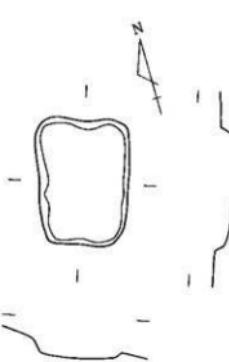
第14図 5号土壤実測図 (1/40)

6号土壤 (SK-6) 第15図

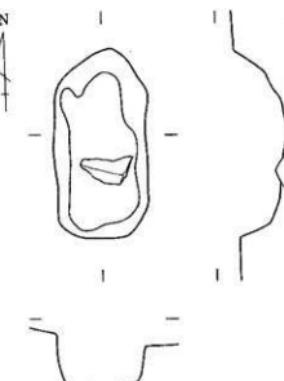
位置—グリッドE-4。形状—隅丸方形、長軸1m40cm・短軸74cm・深さ12cmを測る。

7号土壤 (SK-7) 第16図

位置—グリッドE-6。形状—楕円形、長径1m56cm・短径76cm・深さ40cm。集石1個あり。



第15図 6号土壤実測図 (1/40)



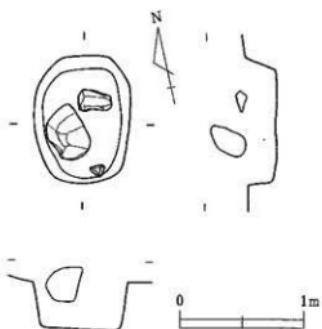
第16図 7号土壤実測図 (1/40)

8号土壤 (SB-8) 第17図

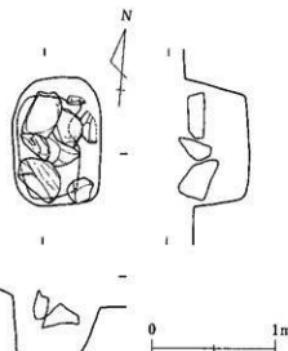
位置—グリッドE-6。形状—橢円形、長軸1m 16cm・短軸78cm・深さ40cm。集石3個あり。

9号土壤 (SK-9) 第18図

位置—グリッドE-6。形状—隅丸方形、長軸1m 4cm・短軸74cm・深さ48cm。集石あり。



第17図 8号土壤実測図 (1/40)



第18図 9号土壤実測図 (1/40)

第10号土壤 (SK-10) 第19図

位置—グリッドA-4。形状—隅丸方形、長径92cm・短径72cm・深さ6～27cm。出土物—短刀。



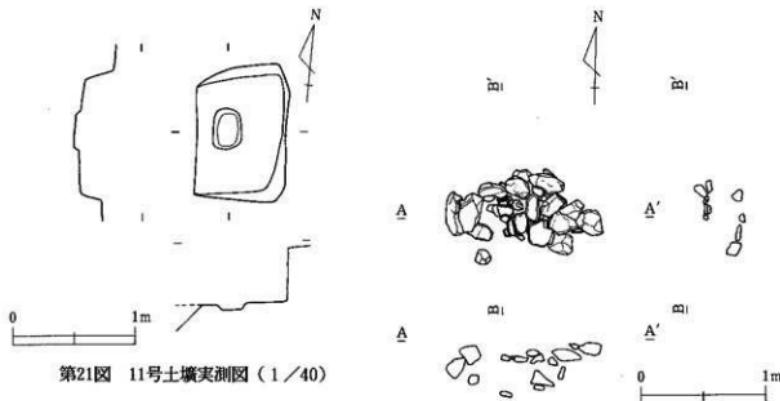
第19図 10号土壤実測図(1/40)

11号土壌 (SK-11) 第21図

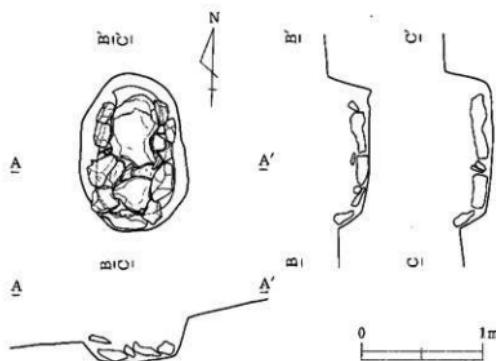
位置 - グリッド A-4。形状 - 圓角方形、南北 1m × 10cm。西側は破損している。

12号土壌 (SK-12) 第22、23図

位置 - グリッド A-4。形状 - 楕円形、長径 1m × 30cm・短径 90cm・深さ 22~44cm。集石あり。12号土壌上部に集石遺構 (第8図) が存在し、焼土・焼石・骨片が確認された。この場所で火葬がなされ、骨を土壌に埋葬し、この上に五輪塔を建立したものと推測される。



第22図 12号土壌上部構造実測図 (1) (1/40)



第23図 12号土壌下部構造実測図 (2) (1/40)

13号土壤 (SK-12) 第24図

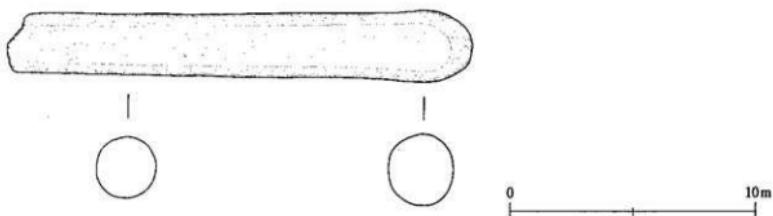
位置—グリッド A-4。形状—隅丸長方形、長軸 2m50cm・短軸88cm・深さ18~34cm。集石あり。



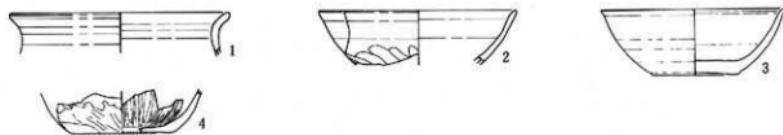
第24図 13号土壤実測図 (1/40)

iii 出土した遺物

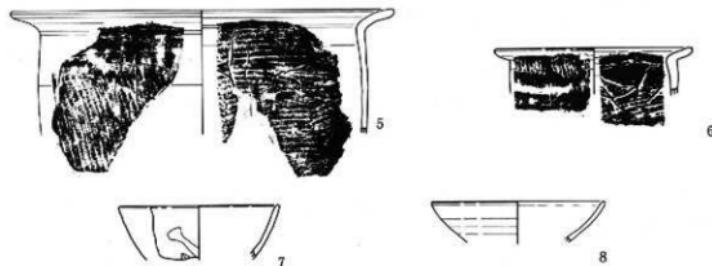
出土した遺物は縄文時代の土器片・石鎌が覆土中より、また1号住居址より小型石棒が出土した。また、平安時代の土師器・須恵器（土器所見表参照）、中世の集石配石造構から五輪塔、土壤より土師器・北宋錢・短刀、近世の陶磁器・キセルなどが出土した。



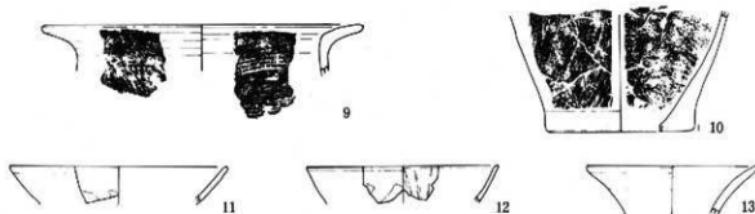
第25図 1号住居址出土小型石棒実測図 (1/23)



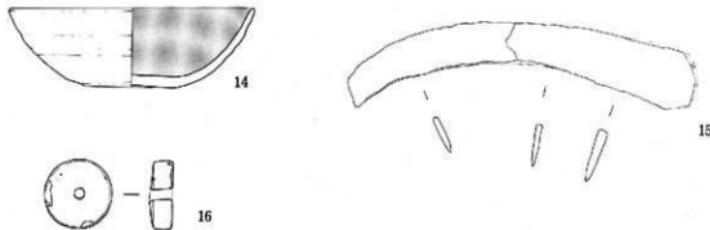
第26図 2号住居址出土土器実測図（1／3）



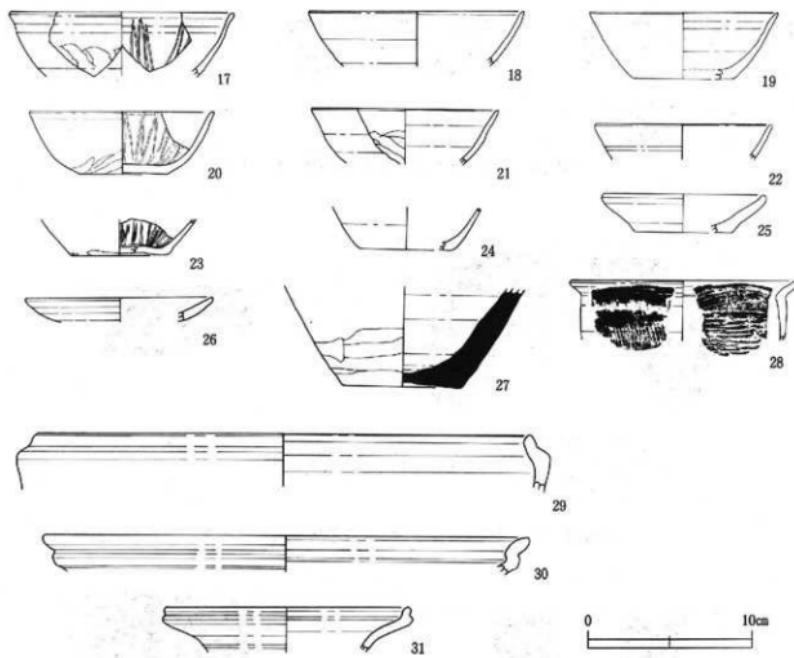
第27図 2号住居址カマド内出土土器実測図（1／3）



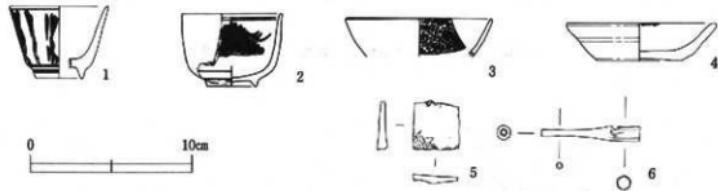
第28図 3号住居址出土土器実測図（1／3）



第29図 4号住居址出土土器・鉄器(鎌)・紡錘車実測図（1／3）



第30図 遺構外出土土器実測図（1／3）



第31図 遺構外出土土器実測図（近世）（1／3）

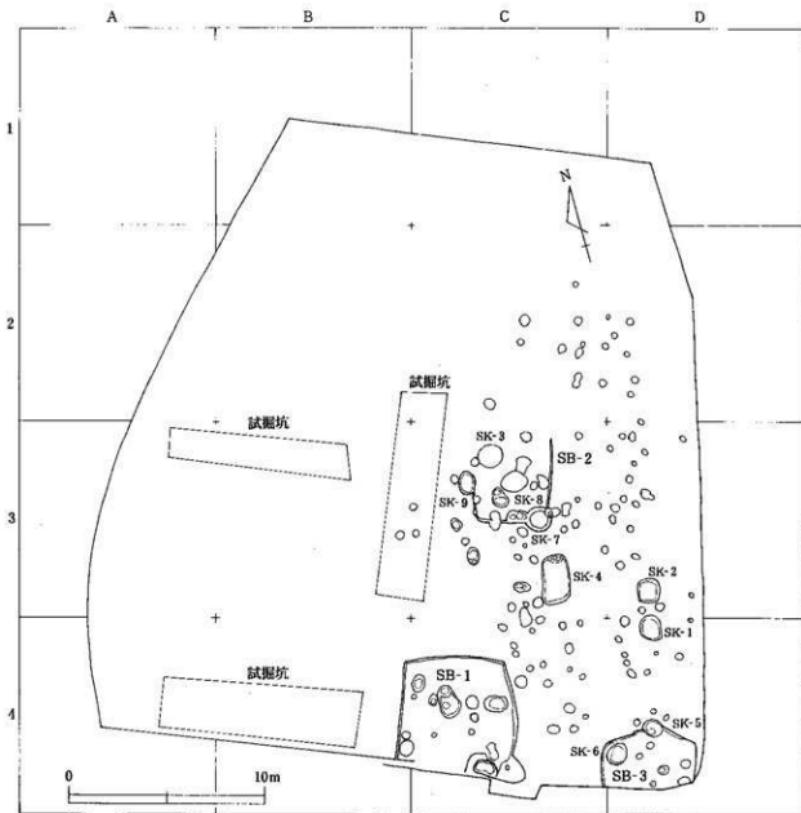
土器所見表(表2)

図面 番号	種類	器形	法量			整 形 方 法				色・調		
			口径	器高	底径	口縁	肩 外	部 内	底 外	部 内	色 外	調 内
2号住居址												
1	土師	壺	13.6	2.7	-	外反	輪積み 継方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目	-	-	茶褐色	茶褐色
2	土師	杯	12.2	3.4	-	外傾	ロクロ横ナデ 1/3へラ削り	ロクロ横ナデ	-	-	茶褐色	茶褐色
3	土師	杯	11.4	4.1	5.4	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ横ナデ	側茶褐色	(側)茶褐色
4	土師	杯	-	2.7	6.0	-	ロクロ横ナデ 1/2へラ削り	ロクロ横ナデ	-	-	茶褐色	茶褐色
5	土師	壺	23.6	7.7	-	外反	輪積み 継方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目	-	-	茶褐色	茶褐色
6	土師	壺	10.2	3.0	-	外反	輪積み 継方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目	-	-	茶褐色	茶褐色
7	土師	杯	10.0	3.3	-	外傾	ロクロ横ナデ 1/2へラ削り	ロクロ横ナデ	-	-	茶褐色	茶褐色
8	土師	杯	10.6	2.6	-	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	-	-	茶褐色	茶褐色
3号住居址												
9	土師	壺	19.8	3.2	-	外反	輪積み 継方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目	-	-	黒華燐	黒褐色
10	土師	壺	-	7.4	8.4	外傾	ロクロ横ナデ 継方向ハケ目	ロクロ横ナデ 横方向ハケ目	回転糸切り	ロクロ整形	暗褐色	暗褐色
11	土師	杯	13.4	2.4	-	外傾	ロクロ横ナデ 1/3へラ削り	ロクロ横ナデ	-	-	茶褐色	茶褐色
12	土師	杯	11.8	2.3	-	外傾	ロクロ横ナデ 2/3へラ削り	ロクロ横ナデ	-	-	茶褐色	茶褐色
13	土師	壺	10.6	3.0	-	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	-	-	暗黄褐色	黄褐色
4号住居址												
14	土師	杯	15.4	4.8	7.0	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨き	回転糸切り	ロクロ横ナデ	暗褐色	黑色
通 橋 外												
17	土師	杯	13.8	4.0	-	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ 1/2へラ削り	-	-	茶褐色	茶褐色
18	土師	杯	13.2	3.4	-	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	-	-	黄褐色	黄褐色
19	土師	杯	11.6	4.1	6.0	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ整形	茶褐色	茶褐色
20	土師	杯	11.4	3.9	5.6	外傾	ロクロ横ナデ 1/4へラ削り	ロクロ横ナデ	ヘラ削り後 ヘラ削り	ロクロ横ナデ	茶褐色	茶褐色
21	土師	杯	11.4	3.4	-	外傾	ロクロ横ナデ 2/3へラ削り	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ横ナデ	茶褐色	茶褐色
22	土師	杯	10.8	2.2	-	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	-	-	茶褐色	茶褐色
23	土師	杯	-	2.2	5.8	外傾	ロクロ横ナデ 1/4へラ削り	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ横ナデ	-	-
24	土師	杯	-	2.7	5.6	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ横ナデ	茶褐色	茶褐色
25	土師	杯	10.0	2.4	6.0	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ横ナデ	茶褐色	茶褐色
26	土師	杯	11.4	1.5	-	-	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	-	-	茶褐色	茶褐色
27	須恵	壺	-	6.1	7.2	-	ロクロ横ナデ ヘラ整形	ロクロ横ナデ	ヘラ整形	ヘラ整形	灰白色	青白色
28	土師	壺	14.0	3.7	-	外反	輪積み 継方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目	-	-	-	-
29	-	浅鉢	30.4	3.5	-	-	輪積み横ナデ	輪積み横ナデ	-	-	灰褐色	灰褐色
30	-	浅鉢	30.0	2.4	-	-	輪積み横ナデ	輪積み横ナデ	-	-	灰褐色	黄褐色
31	陶器	壺	15.0	2.8	-	-	輪積み横ナデ	輪積み横ナデ	-	-	暗褐色	赤褐色

第Ⅱ章 八ツ牛遺跡

i 遺跡の環境

本遺跡は山梨県北巨摩郡高根町村山北割字八ツ牛地内に所在し、標高755mを測り、緩やかな尾根の南西斜面に位置する。造構は耕作により破損され、遺存状態はあまり良くなく、十分な調査はできなかった。柱穴が多数検出され、2軒以上の平安時代以降の掘建柱建物址の存在が推測される。本遺跡周辺に、応仁元年（1467）の六地蔵幢、板碑の残欠、日向山光村寺開基（天正8年）の日向大和守昌時の屋敷跡があり、掘建柱建物址群との関連性が考えられる。



第1図 八ツ牛遺跡造構分布図 (1/250)

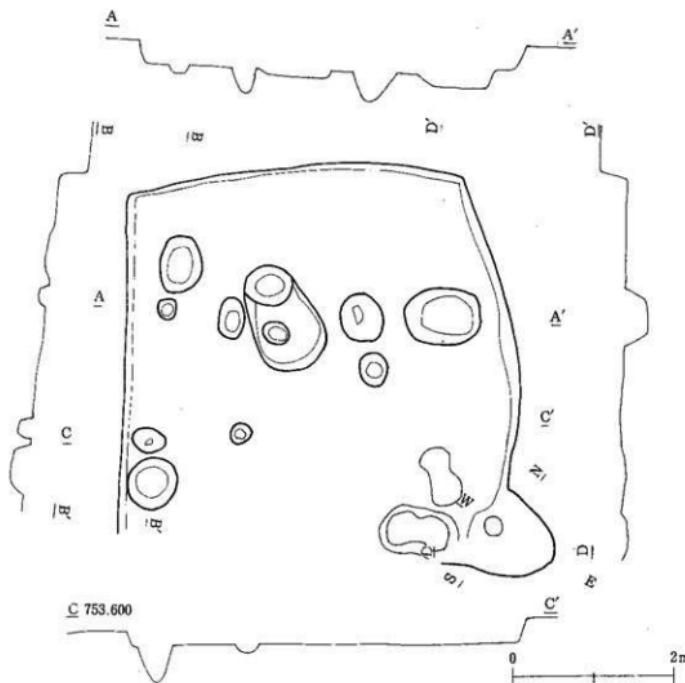
ii 検出された遺構

検出された遺構は、平安時代の住居址が3軒、時期不明の土壙9基である。掘建柱建物址については、2軒の掘建柱建物址を示した。遺跡内で他に土壙と見られる遺構もあるが、7基の土壙について報告する。3号土壙のみ集石があった。

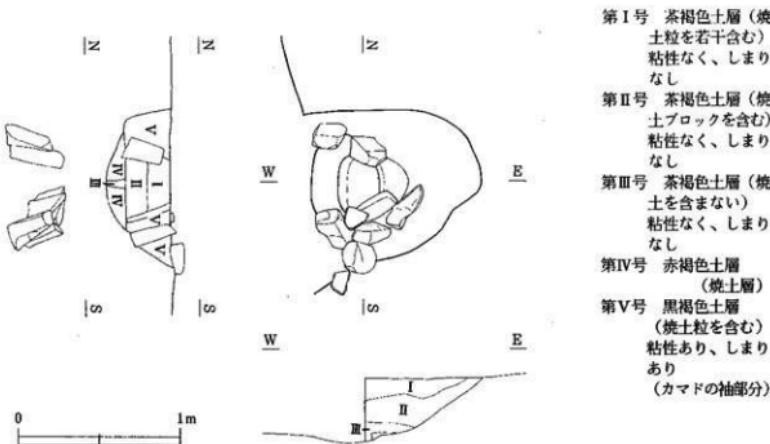
(1) 堅穴住居址

1号住居址 (SB-1) 第2図

本遺跡の東南の調査区域の境 (グリッドC-4) に位置し、住居址の南壁は調査区域外で確認できなかった。残存の壁で周壁を見ると、1辺4m 80cmの変形の隅丸方形で、北壁15cm、東壁30cm、西壁30cmを測る。南東隅にカマドがあり、左袖石が2個、右袖石が3個の石組カマドである。地表面からの遺構確認面が浅いにもかかわらず、カマドは比較的保存状態は良好である。全長1m 8cm・幅1m 13cmを測る。



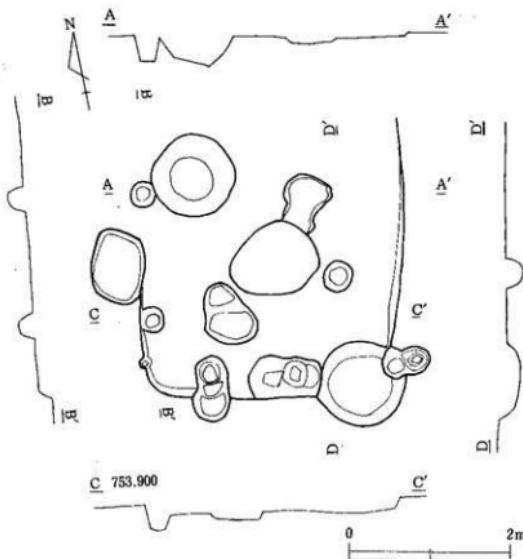
第2図 1号住居址実測図 (1/60)



第3図 1号住居址カマド実測図 (1/30)

2号住居址 (SB-2)
第4図

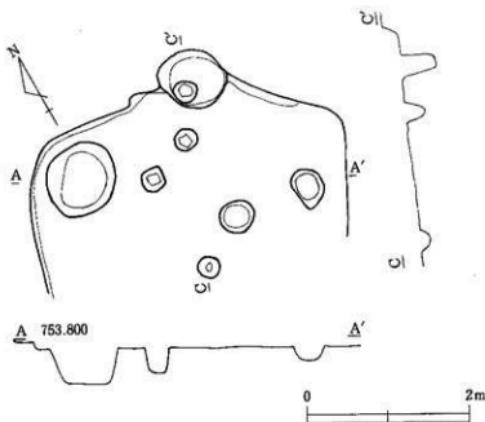
本遺跡の中央東より(グリッドC-3)に位置し、住居址の北壁は破損されていたが、形状は隅丸方形と推測される。東西3m21cmを測る。カマドは東南隅に推定されるが、傾斜地であったり、耕作や土壤のより破損され、保存状態は悪い。中央部に浅い掘り込みがある。



第4図 2号住居址実測図 (1/60)

3号住居址 (SB-3) 第5図

本遺跡の東南隅 (グリッドD-4) に位置し、住居址の南壁は調査区域外にあり、確認できなかつた。東西3m90cmを測る。東壁の掘込みは確認できなかつた。またカマドも調査区域外のため確認できなかつた。



第5図 3号住居址実測図 (1/60)

(2) 堀建柱建物址

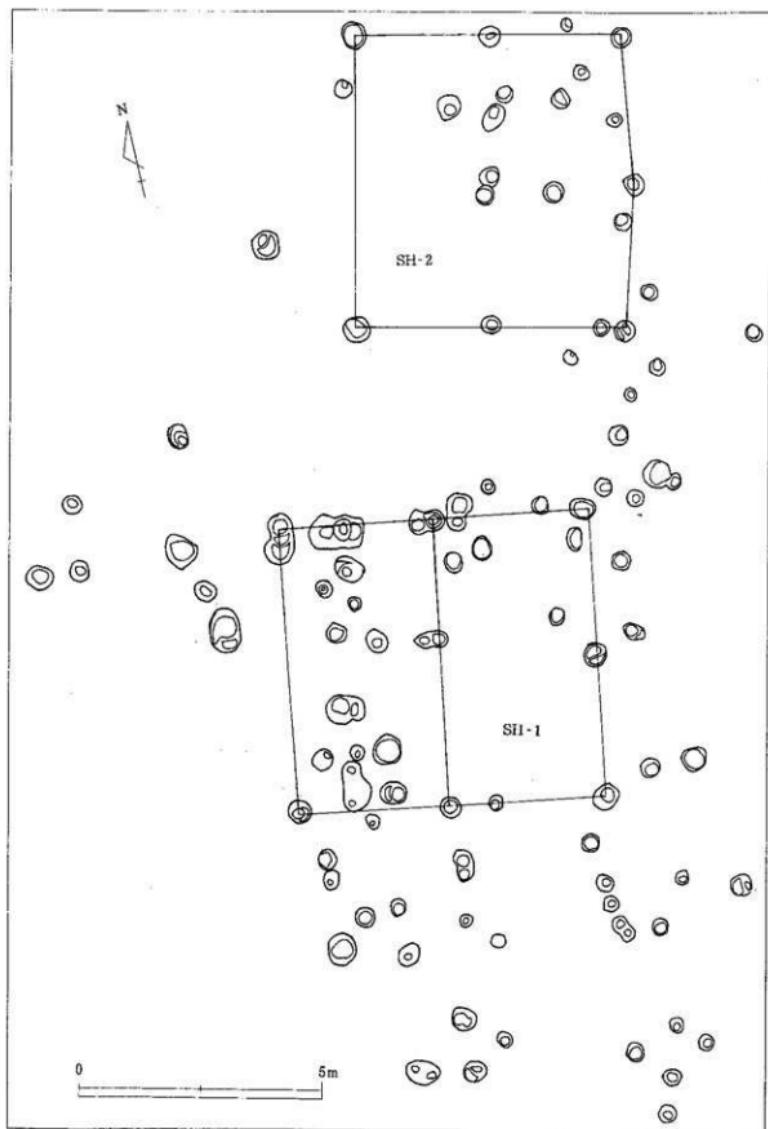
本遺跡内に多数の柱穴が検出された。その柱穴の配列から数軒の掘建柱建物址を推測できるが、その中で推定できる2軒の掘建柱建物址を図示した。いずれも推定であり、断定されたものではない。検出された柱穴群は100本を数え、複数の建物や建替が行なわれたと思われる。出土遺物等より、15世紀以降の所産と思われる。

1号掘建柱建物址 (SH-1) 第6図

東西2間 (2m97cm)、南北2間 (3m3cm)

2号掘建柱建物址 (SH-2) (第6図)

東西2間 (2m83cm)、南北2間 (3m13cm)



第6図 掘建柱建物址推定模式図 (1/100)

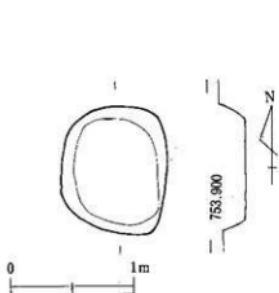
(3) 土 壤

1号土壤 (SK-1) 第7図

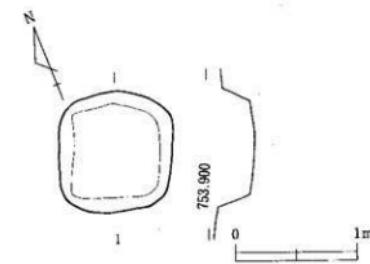
位置—グリッド D-4。形状—梢円形、長径 1m 4 cm・短径 86 cm・深さ 28 cm を測る。

2号土壤 (SK-2) 第8図

位置—グリッド D-3。形状—梢円形、長径 1 m・短径・深さ 26 cm を測る。



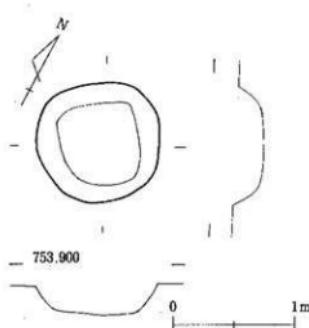
第7図 1号土壤実測図 (1/40)



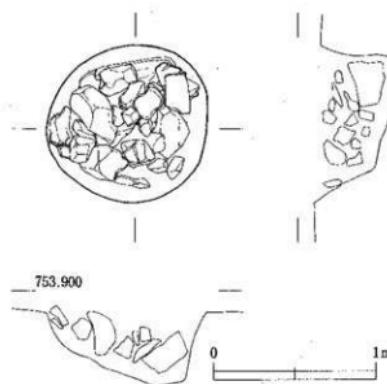
第8図 2号土壤実測図 (1/40)

3号土壤 (SK-3) 第9、10図

位置—グリッド C-3。形状—円形、直径 98 cm、深さ 46 cm を測る。



第9図 3号土壤実測図 (1/40)



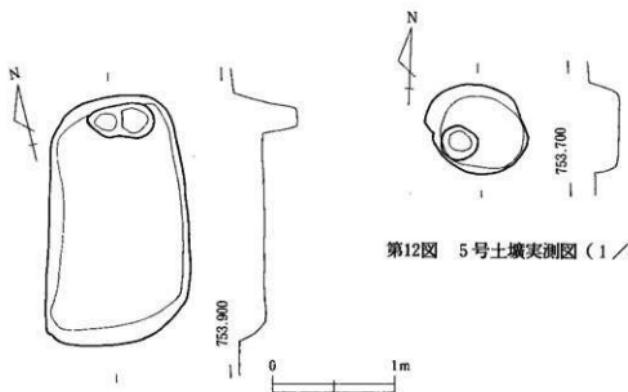
第10図 3号土壤微細実測図 (1/30)

4号土壤 (SK-4) 第11図

位置グリッドC-4。形状—隅丸方形、長径2m12cm・短径1m12cm・深さ22cmを測る。

5号土壤 (SK-5) 第12図

位置—グリッドD-4 (3号住居址内)。形状—楕円形、長径86cm・短径72cm・深さ26cm。土壤内に円形の直径28cmのピットがある。



第12図 5号土壤実測図 (1/40)

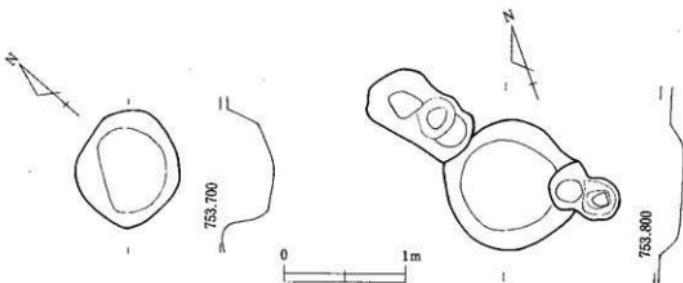
第11図 4号土壤実測図 (1/40)

6号土壤 (SK-6) 第13図

位置—グリッドD-4 (3号住居址内)。形状—楕円形、長径98cm・短径86cm・深さ38cmを測る。

7号土壤 (SK-7) 第14図

位置—グリッドC-3。形状—楕円形、長径1m10cm・短径1m4cm・深さ14cm。2号住居址内にあり、カマドに接する。



第13図 6号土壤実測図 (1/40)

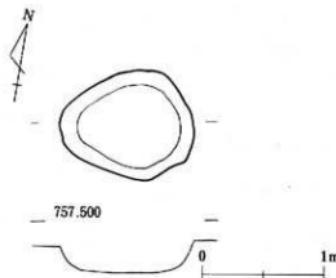
第14図 7号土壤実測図 (1/40)

8号土壤(SK-8)第15図

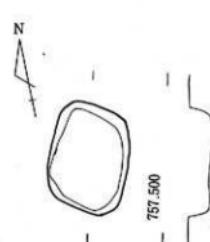
位置—グリッドC-3(3号住居址内)。形状—梢円形、長径1m10cm・短径90cm・深さ26cmを測る。

9号土壤(SK-9)第16図

位置—グリッドC-3。3号住居址西壁に接する。形状—円形、直径1m2cm・深さ18cmを測る。



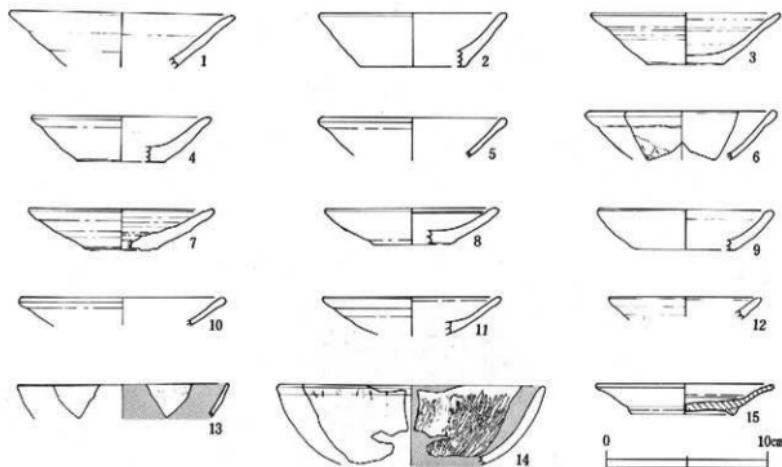
第15図 8号土壤実測図 (1/40)



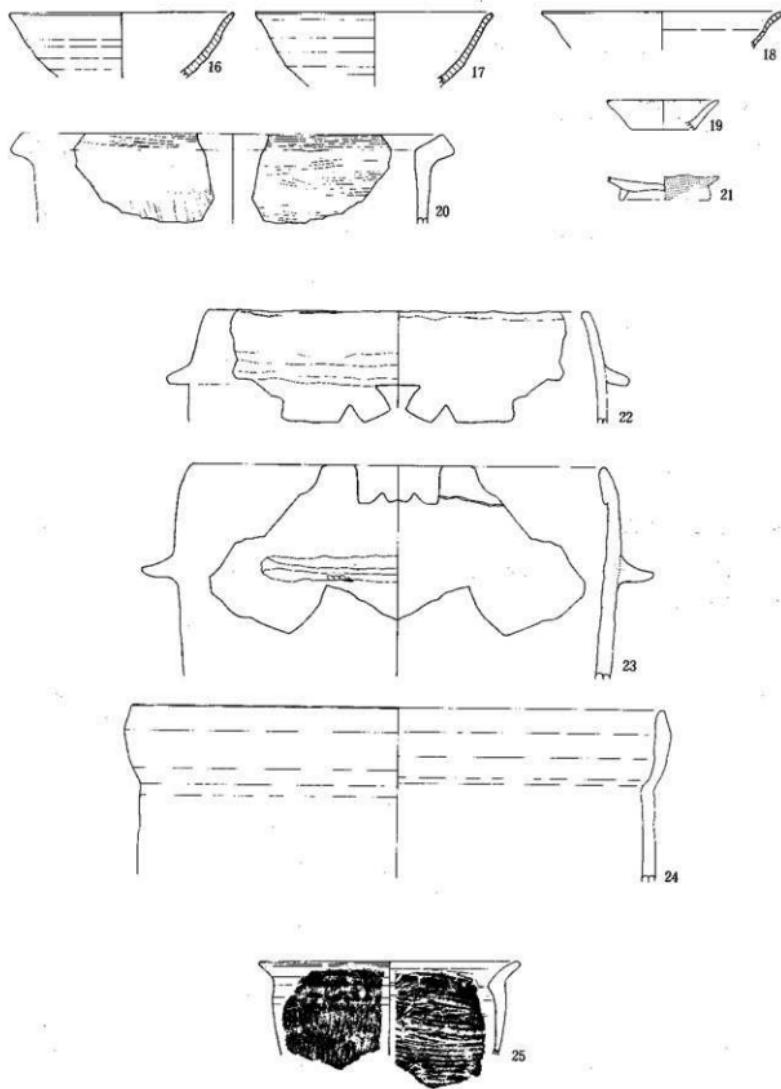
第16図 9号土壤実測図 (1/40)

iii 出土した遺物

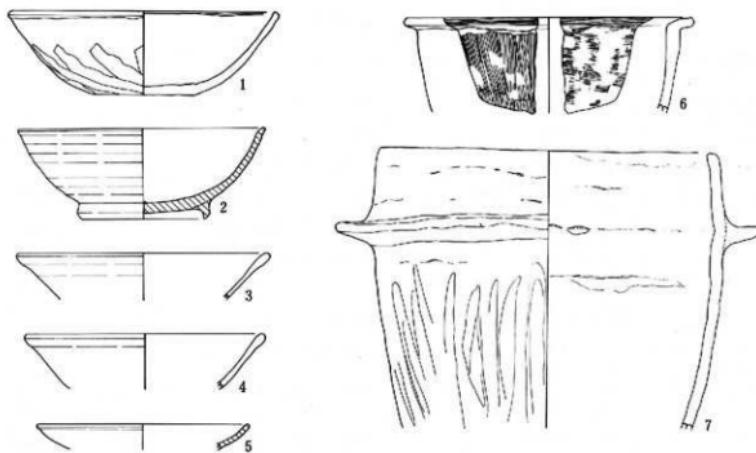
出土遺物は、縄文時代の若干の土器、平安時代の土師器・内黒土器・灰釉陶器・中世の羽釜・内耳土器・砥石などがある。



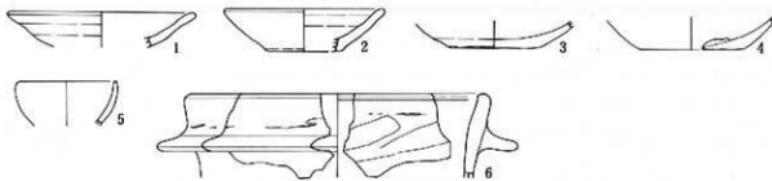
第17図 1号住居址出土土器実測図 (1) (1/3)



第18図 1号住居址出土土器実測図(2)



第19図 2号住居址出土土器実測図（1／3）



第20図 3号住居址出土土器実測図（1／3）



第21図 3号土壤、造構外出土土器実測図（1 - 3号土壤、2・3 - 造構外）（1／3）

八ツ牛遺跡出土土器所見表(表1)

図面番号	種類	器形	整 形	胎 土	焼 成	色 調
1号住居址						
1	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ	精製、スコリアを含む	軟質	黄褐色
2	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ	砂粒、小石を含みやや粗い	良好	黄褐色
3	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り	精製、スコリアを含む	軟質	黄褐色
4	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り	砂粒、小石を含みやや粗い	軟質	黒褐色
5	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ	砂粒を多く含む	良好	明褐色
6	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、後脚部下半ヘラ削り	砂粒、スコリアを含む	良好	白褐色
7	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部会員回転糸切り	金雲母を多く含む	良好	明褐色
8	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り	金雲母を多く含む	良好	明褐色
9	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ	砂粒、金雲母を多く含む	良好	白褐色 一部赤褐色 と黒灰色
10	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ	砂粒、金雲母を多く含む	良好	外、明褐色 内、白褐色
11	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ	散砂粒、スコリア若干含む	良好	明褐色
12	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ	金雲母を多く含む	良好	黄褐色
13	土師 (内墨土器)	内、横方向のヘラ磨き、外、ロクロ横ナデ	砂粒、スコリアを多く含む 外口縁部より約1cm黒色	良好	内、内 他、白褐色	
14	土師	内窓 黑柄	内面縦方向の磨き(輪文) 外面縦方向のナデ(棒状工具)	砂粒、小石、金雲母を多く含み やや粗い	良好	内、黒 色外、黒褐色
15	灰油	皿	ロクロ横ナデ、後付高台、内・外面自然袖付	緻密	良好	明灰色
16	灰油	杯	ロクロ横ナデ、後付高台、内・外面自然袖付	緻密、若干の小石を含む	良好	灰白色
17	灰油	杯	ロクロ横ナデ、後付高台、内・外面自然袖付	緻密、若干の小石を含む	良好	灰白色
18	灰油	杯	ロクロ横ナデ、後付高台、内面みこみ部に自然袖	緻密、若干の小石を含む	良好	明白色
19	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ、内外面口縁部に媒付 着	砂粒、スコリア、若干の金雲母 を多く含む	良好 剥落あり	白褐色
20	土師		外面・肩部綴刷毛、口唇部横刷毛 内面・肩部、口唇部横刷毛	砂粒、金雲母を含む	良好	暗褐色
21	土師	皿 (内墨土器)	内、外面ロクロ横ナデ、後付高台 (台部の二次利用)	砂粒、スコリアを含む	良好	内、黒 色外、白褐色
22	土師	羽釜	内、外面ナデ整形、鉗部指頭圧痕あり	砂粒、スコリアを含む	軟質	暗褐色
24	土師	内耳	ロクロ	砂粒を多く含む	良好	明灰褐色
23	土師	釜	内、外面ナデ整形、把手に一部範状工具による圧痕あり	砂粒、小石を含みやや粗い	良好	白褐色
25	土師	羽釜	外面鉗部上部縦方向の指ナデ、鉗部後付の際 の爪製あり、内面粗いナデ整形	砂粒を多く含みやや粗い	良好	暗白褐色

面番号	種類	型形	整 形	胎 土	焼成	色 調
-----	----	----	-----	-----	----	-----

2号住居址

1	土師	杯	ロクロ横ナデ、外面ヘラ削り、底部糸切り後 籠削り	精製、スコリアを多く含む	良 好	暗褐色
2	灰袖	杯	ロクロ横ナデ、付高台、内・外面自然袖	緻密、若干の小石を含む	良 好	灰褐色
3	土師	杯	ロクロ横ナデ	砂粒、スコリアを含む	良 好	茶褐色
4	土師	杯	ロクロ横ナデ	精製、微砂粒含む	良 好	灰褐色
5	灰袖	皿	ロクロ横ナデ、内・外面自然袖	緻密	良 好	白灰色
6	土師		外面縦方向の刷毛整形、内面横方向の細かい 刷毛(ナデ?)整形、口縁部内外面横方向の 刷毛整形	砂粒を多く含み若干の金雲母も 含む	良 好	赤褐色
7	土師	羽釜	輪積み、外面指整形後縦方向のナデ、内面指 整形後縦方向のナデ(刷毛?)	砂粒、小石を含み粗い	良 好	外、明黄褐色 内、暗褐色

3号住居址

1	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ、内外面口縁部に	スコリアを含む	軟質	明褐色
2	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り手程 ね	微砂粒を多く含む 砂粒を多く含む	良 好 (良 好 (やや軟質))	明黄褐色 白褐色 (一部灰褐色)
3	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り 内面剥落あり	砂粒、スコリアを多く含む	良 好	黑灰色
4	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り 内面に境付着	砂粒、若干のスコリアを多く含 む	良 好	明褐色
5	陶製	小型碗	ロクロ、全面に施袖	若干の砂粒を含む	良 好	明褐色 (褐色)
6	土師	羽釜	内面横方向の(ヘラ?)、外面ロクロ横ナデ	精製、微砂粒を含む	良 好	暗褐色

土壞 (SK-3)

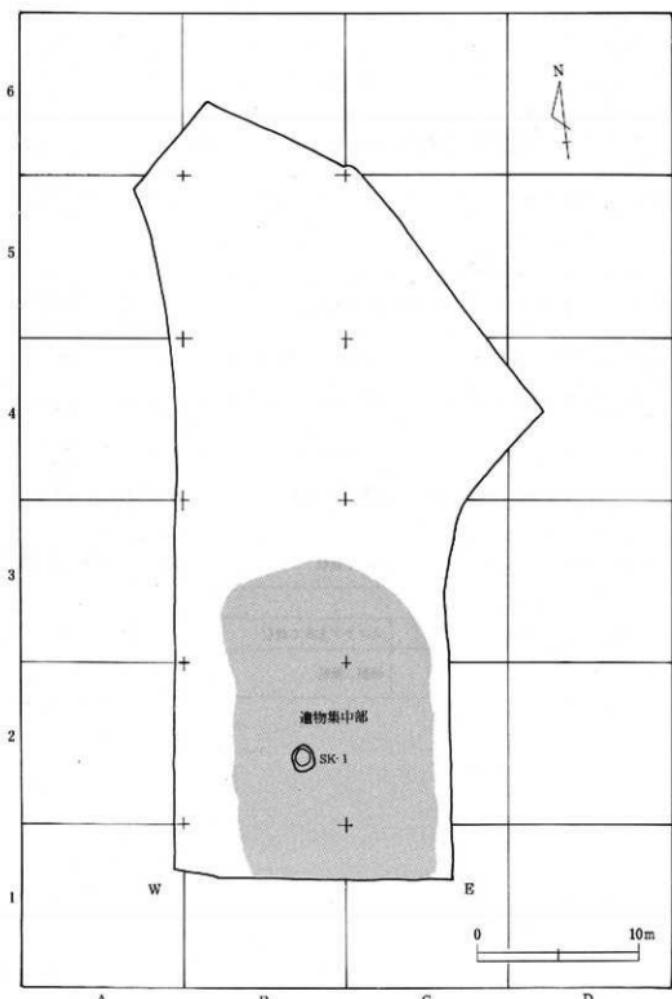
1	土師	杯	ロクロ横ナデ内面、縦横の磨き	砂粒を含む	良 好	内、黒 色 外、暗黄褐色
---	----	---	----------------	-------	-----	-----------------

造構外

2	土師	杯	ロクロ横ナデ、内面剥落多し	スコリアを多く含む	良 好	明褐色
3	青磁	碗	削り高台	精製、緻密	良 好	青灰色

第IV章 持井北遺跡

i 遺跡の環境



本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山北割字持井地内に所在し、標高約761mを測る。地形が南傾斜する尾根の東端に位置する。平成元年発掘調査した持井遺跡の北方約750mにある。

第1図 持井北遺跡遺構分布図 (1/300)

ii 検出された遺構

検出された遺構は、耕作により土が掘り動かされており、出土遺物により縄文時代前期の土壌1基のみであった。

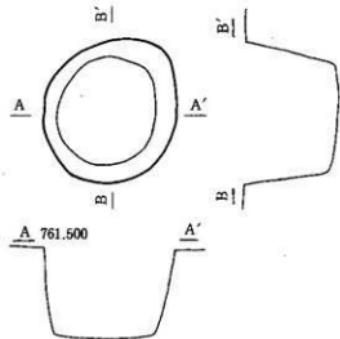
(1) 土 壤

1号土壤 (SK-1) 第2図

本遺跡内での土壤1基のみである。位置—グリッドB-2。形状—橢円形、長径58cm・短径53cm・深さ38cmを測る。

南壁セクション

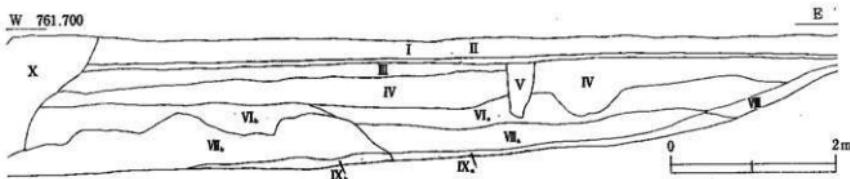
本遺跡調査区の南壁に、基本土層を把握するためにトレンチを行い、調査を実施した。



第2図 1号土壤 (1/40)

土層説明

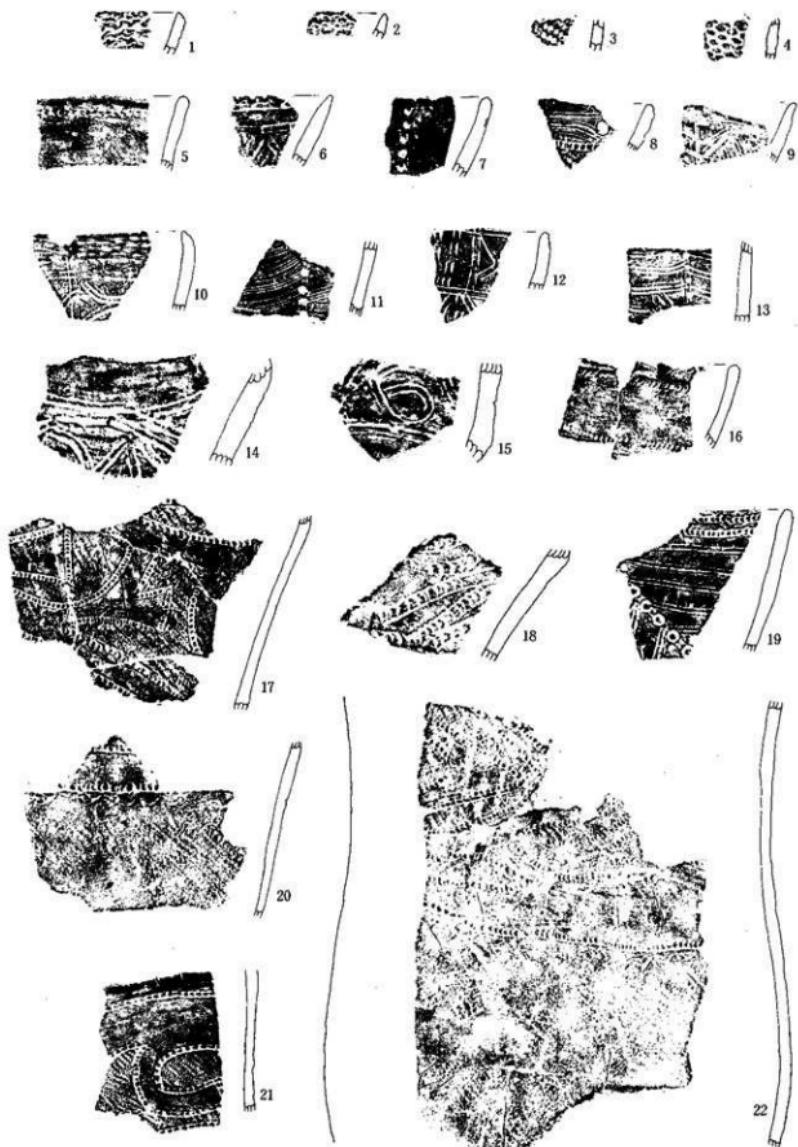
- I 層 耕作土
- II 層 不透水層 (水田床土)
- III 層 黄褐色土層、粘性弱、しまりあり (ローム粒子を含む)
- IV 層 茶褐色土層、粘性弱、しまりあり (ローム粒子、カーボンを含む)
- V 層 黄褐色土層、粘性弱、しまり弱 (ローム粒、カーボン、焼土粒子を含む)
- VI 層 暗褐色土層、粘性ややあり、しまりあり (ローム粒子、若干のカーボンを含む)
- VI_a 層 暗褐色土層、粘性ややあり、しまりあり (ローム粒子、若干のカーボン、拳大の礫を含む)
- VII 層 黒色土層、粘性あり、しまりあり (ローム粒子を含む)
- VII_a 層 黑色土層、粘性あり、しまりあり (ローム粒子、大小の礫を多量に含む)、礫層
- VIII 層 暗黄褐色土層、ローム層
- IX 層 灰褐色土層、粘性強、はりあり
- X 層 灰褐色土層、粘性強、はりあり (小礫を含む)
- X 層 埋土 (水田畔土)、どて



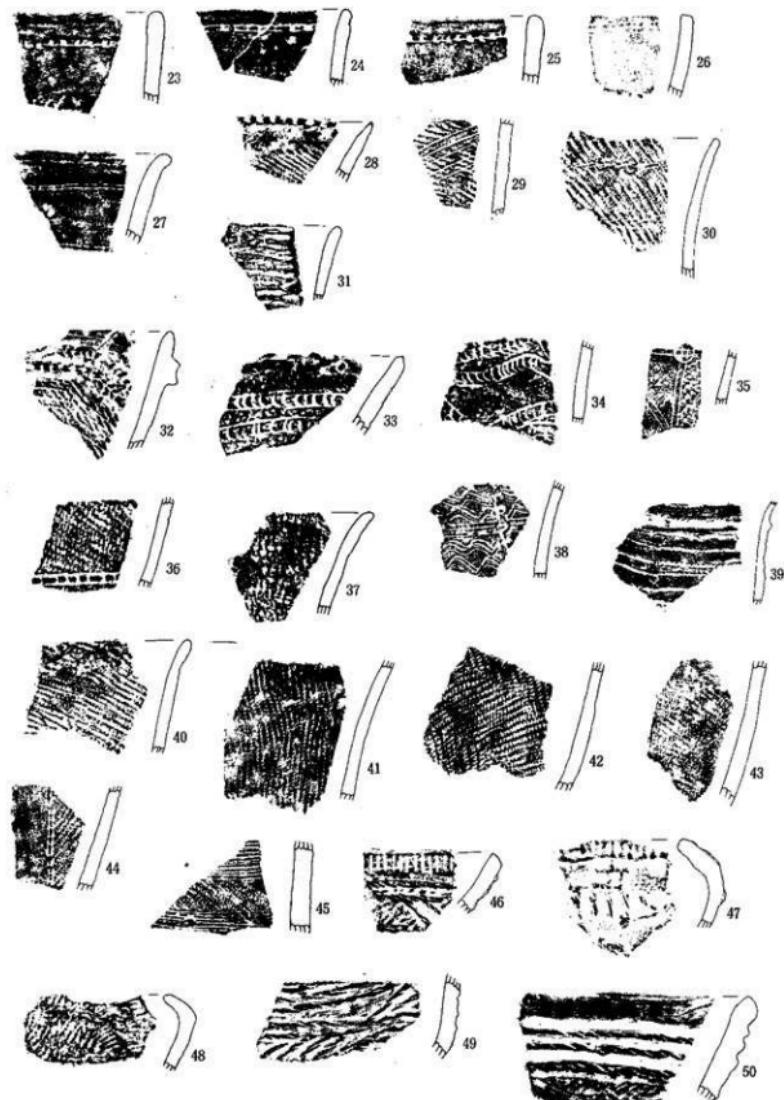
第3図 発掘区南壁セクション図 (1/60)

iii 出土した遺物

出土遺物は、遺物包含層が比較的厚く、縄文時代前期後葉の諸穢式の土器を主として、縄文時代早期の押型文土器（第4図1～4）、石鎌・石匙・磨製石斧（第6図）が出土し、平安時代の土師・内黒土器（第7図）などがある。



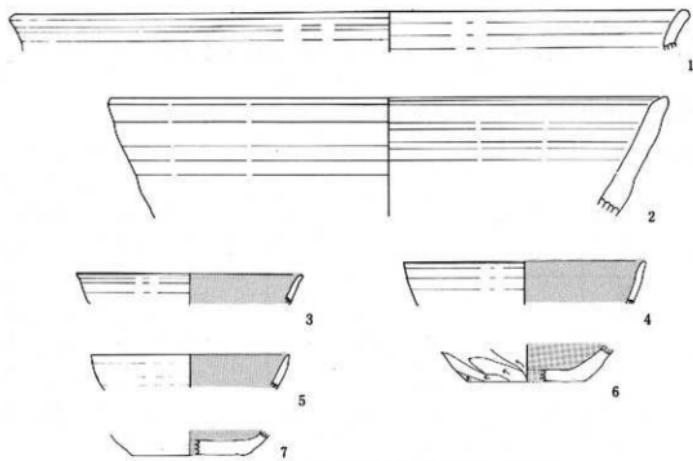
第4図 遺構外出土土器実測図(1) (1/3)



第5図 遺構外出土土器実測図(2) (1/3)



第6図 造構外出土石器実測図 (1/3)

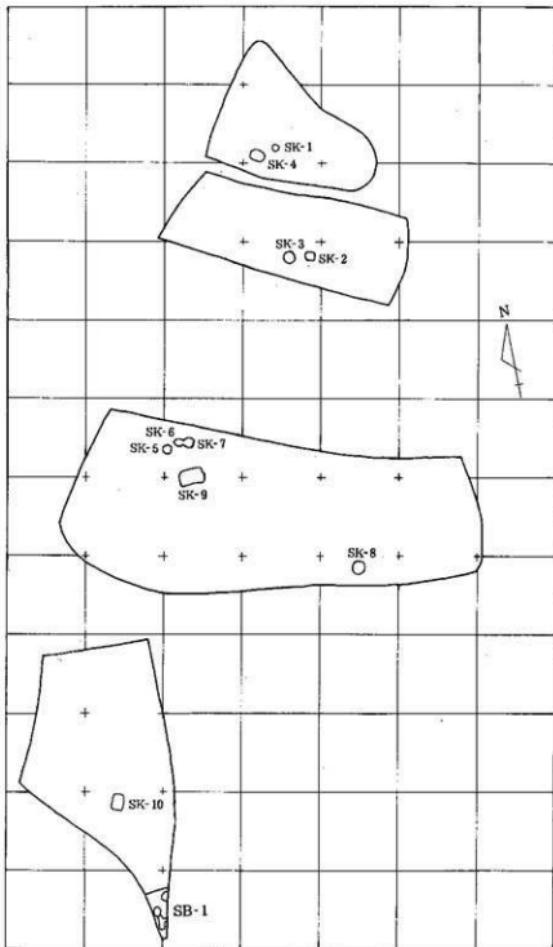


第7図 遺構外出土土器実測図（平安時代）(1/3)

第V章 ハッ牛北遺跡

i 遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山北割字ハッ牛地内に所在し、標高約760mを測る。地形は、緩やかに南に傾斜する尾根上の南西斜面に位置する。ハッ牛遺跡の北側に隣接し、同じ尾根上にある。調査年度が異なるため別の遺跡となっているが、連続した同一の遺跡である。



第1図 ハッ牛北遺跡遺構分布図

ii 検出された遺構

検出された遺構は、平安時代の住居址1軒、土壙は10基、この中で1号土壙に集石があり、8号土壙は井戸状の遺構であった。

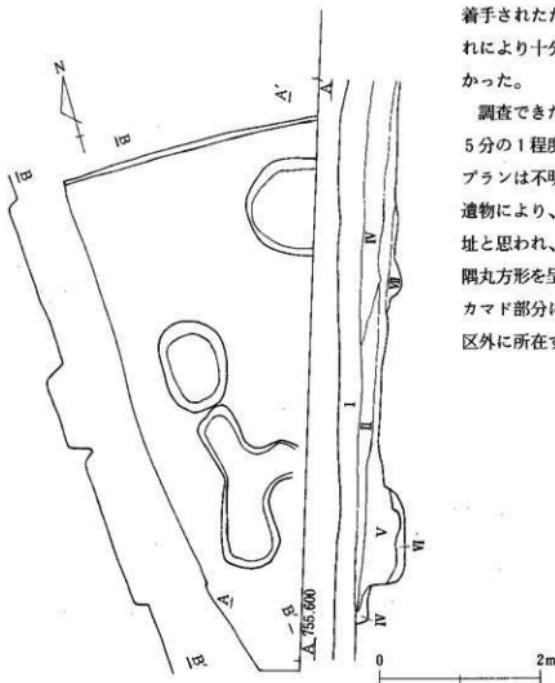
(1) 堅穴住居址

1号住居址（SB-1）第2図

本遺構は南端（グリッドE-1）に位置し、本追跡調査の前年度に圃場整備のため先に水路工事を

着手されたため、住居址はこれにより十分な調査はできなかつた。

調査できたのは全体のほぼ5分の1程度であった。平面プランは不明であるが、出土遺物により、平安時代の住居址と思われ、1辺5m前後の隅丸方形を呈すると思われる。カマド部分については、調査区外に所在する。



第2図 1号住居址及びセクション図(1/60)

土壙説明

- | | |
|------|------------------------------|
| I層 | 耕作土（黒褐色土層）、しまりなく、粘性ややあり |
| II層 | 暗黄褐色土層、しまりややあり、粘性ややあり（不透水層） |
| III層 | 黒褐色土層、"、"、"（"） |
| IV層 | "、"、"、"（ロームブロックを含む） |
| V層 | "、"、"、"（ローム粒を含む） |
| VI層 | "、"、"、"（炭化物を含む） |
| VII層 | 黄黒褐色土層、しまりなし、粘性なし（焼土、炭化物を含む） |

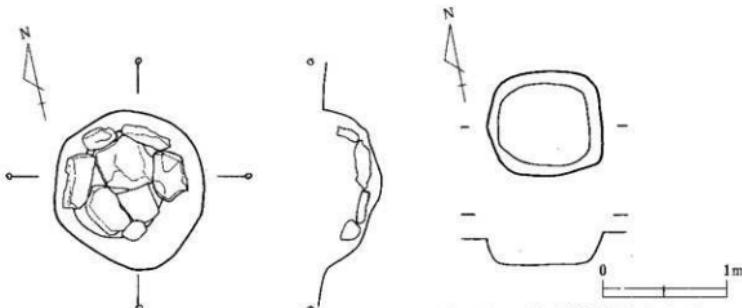
(2) 土 壤

1号土壤 (SK-1) 第3図

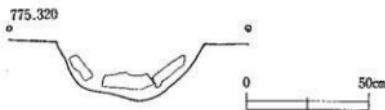
位置—グリッドD-11。形状—楕円形、長径66cm・短径62cm・深さ24cmを測る。石の大きさは拳、人頭人のものである。

2号土壤 (SK-2) 第4図

位置—グリッドD-9。形状—楕円形、長径94cm・短径86cm・深さ22cmを測る。



第4図 2号土壤実測図 (1/40)



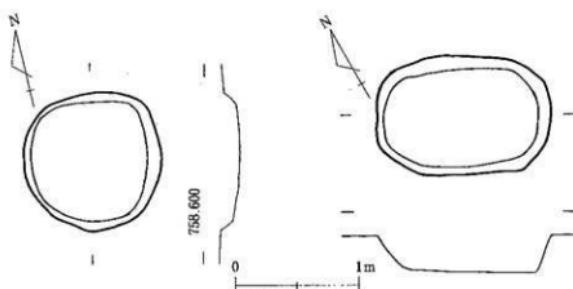
第3図 1号土壤実測図 (1/20)

3号土壤 (SK-3) 第5図

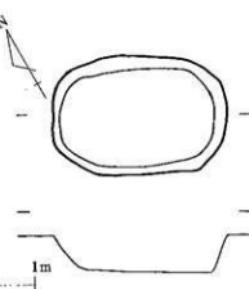
位置—グリッドD-9。形状—円形、直径1m12cm・深さ14cmを測る。

4号土壤 (SK-4) 第6図

位置—グリッドD-11。形状—楕円形、長径1m42cm・短径24cm・深さ24cmを測る。



第5図 3号土壤実測図 (1/40)



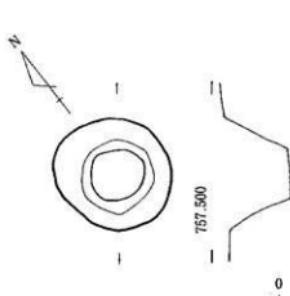
第6図 4号土壤実測図 (1/40)

5号土壤 (SK-5) 第7図

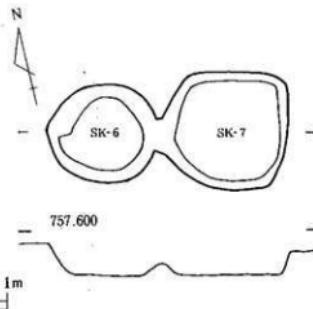
位置—グリッドC-7。形状—楕円形、長径1m・短径90cm・深さ52cmを測る。

6・7号土壤 (SK-6・SK-7) 第8図

位置—グリッドC-7。両土壤は結合していた。6号土壤の形状—円形、直径92cm・深さ24cm。7号土壤の形状—楕円形、長径1m4cm・短径96cm・深さ30cmを測る。



第7図 5号土壤実測図 (1/40)



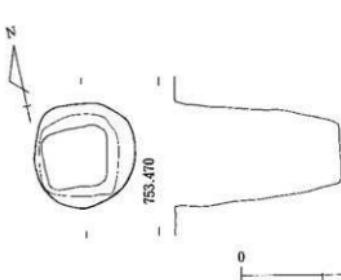
第8図 6号・7号土壤実測図 (1/40)

8号土壤 (SK-8) 第9図

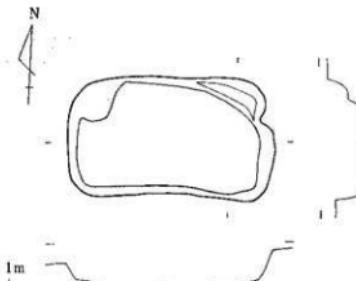
位置—グリッドE-5。形状—楕円形、長径1m30cm・短径1m24cm・深さ2m20cm。これは、井戸状の遺構と推測される。

9号土壤 (SK-9) 第10図

位置—グリッドC-9、C-7にまたがる。形状—隅丸方形、長径2m54cm・短径1m44cm・深さ38cmを測る。



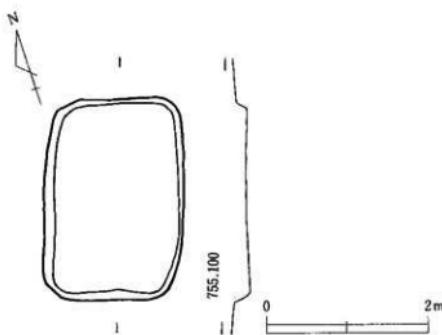
第9図 8号土壤実測図 (1/60)



第10図 9号土壤実測図 (1/60)

10号土壤 (SK-10) 第11図

位置—グリッドB-2。形状—隅丸方形、長径1m72cm・短径1m72cm・深さ8cmを測る。



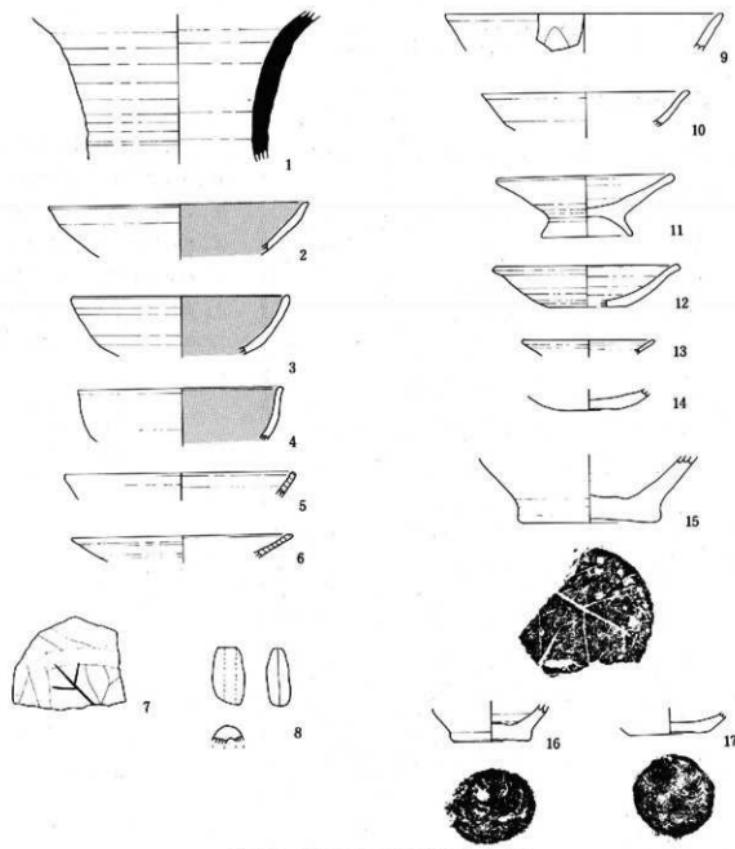
第11図 10号土壤実測図 (1/60)

iii 出土した遺物

出土した遺物は、縄文時代前期の押型文土器（第12図1）、縄文時代後期（第12図2）、縄文時代晚期（第12図3）、平安時代の土師器（第13図9～14）、内黒土器（第13図2・3・4）、須恵器（第13図1）、灰釉陶器（第13図5・6）、土錘（第13図8）などが出土した。



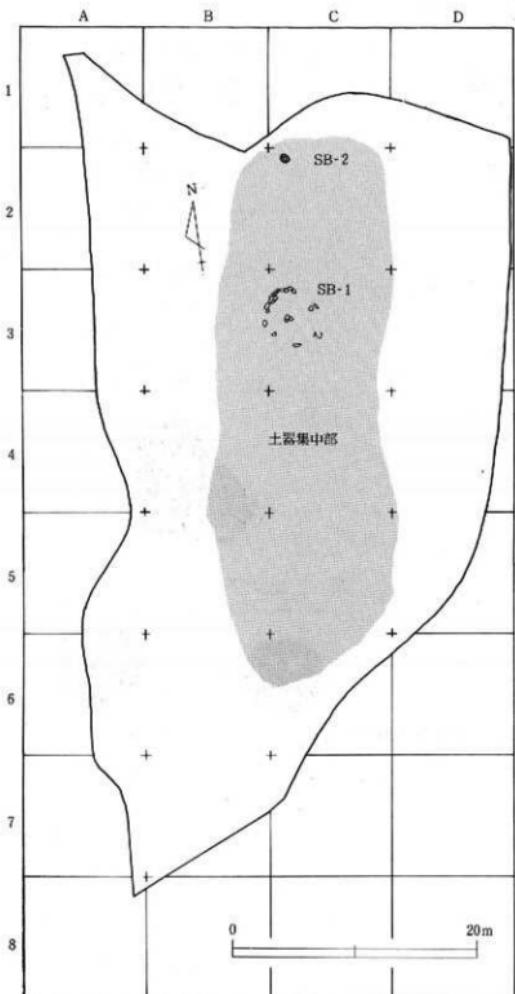
第12図 遺構外出土土器実測図 (1/3)



第13図 遺構外出土遺物実測図 (1/3)

第VI章 下風呂遺跡

i 遺跡の環境



本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山東割字下風呂地内に所在し、標高700mを測る。地形は、南に傾斜するやせ尾根の東斜面の沢に近接する所に位置する。高根中学校前の道路南下の二つの尾根に挟まれた窪地である。

第1図 下風呂遺跡遺構分布図(1/400)

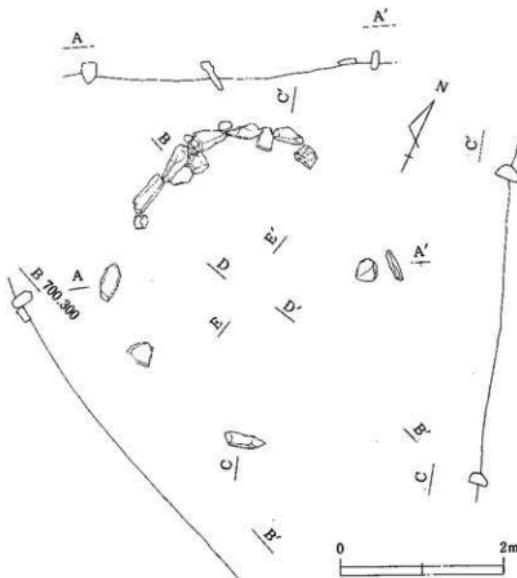
ii 検出された遺構

検出された遺構は、縄文時代後期の住居址 2軒のみで、炉により確認された。

(1) 壁穴住居址

1号住居址 第2図

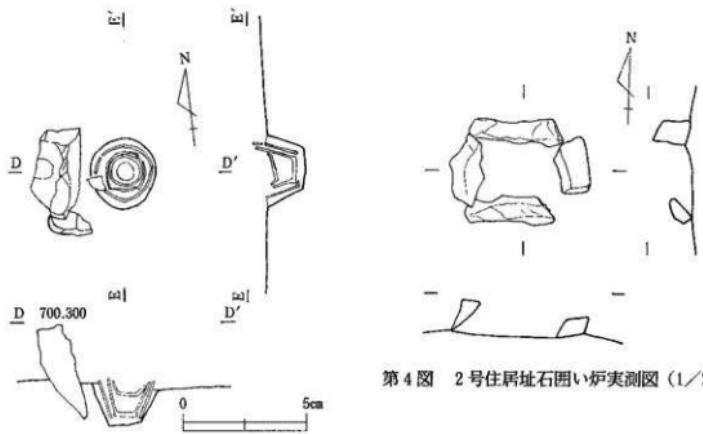
2号住居址の北（グリッド C-3）に位置する。2号住居址と同様に掘り下げて、最下層面に至ったが、柱穴は確認できなかった。楕円形の石匂いの住居址で、長径 3m96cm・短径 3m68cm を測る。住居址はほぼ中央に石匂い埋甕炉が出土した。形状は円形、直径 30cm・深さ 16cm を測り、三つ重ねになつて三個の土器が埋め込まれていた。縄文時代中期後葉と推測され、当町最初の出土事例である。



第2図 1号住居址実測図 (1/60)

2号住居址

本遺跡の北側（グリッド C-2）に位置する表土をはがしながら遺物を回収し、遺物包含層（黒色土）を掘り下げて行くと、石匂い炉が検出されたため住居址と確認した。精査を行ったが柱穴は確認できなかった。石匂い炉は、東西 55cm・南北 40cm を測る。調査中において、炉として判定できなかつたため、炉内覆土を全部除去したため、炉内の状況は不明であるが、炉自体の構築はしっかりつくられていた。

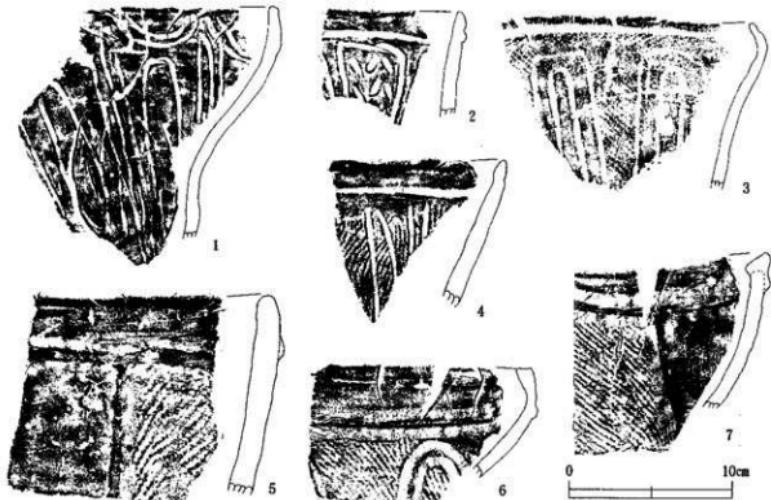


第3図 1号住居址石囲い埋甕炉実測図(1/20)

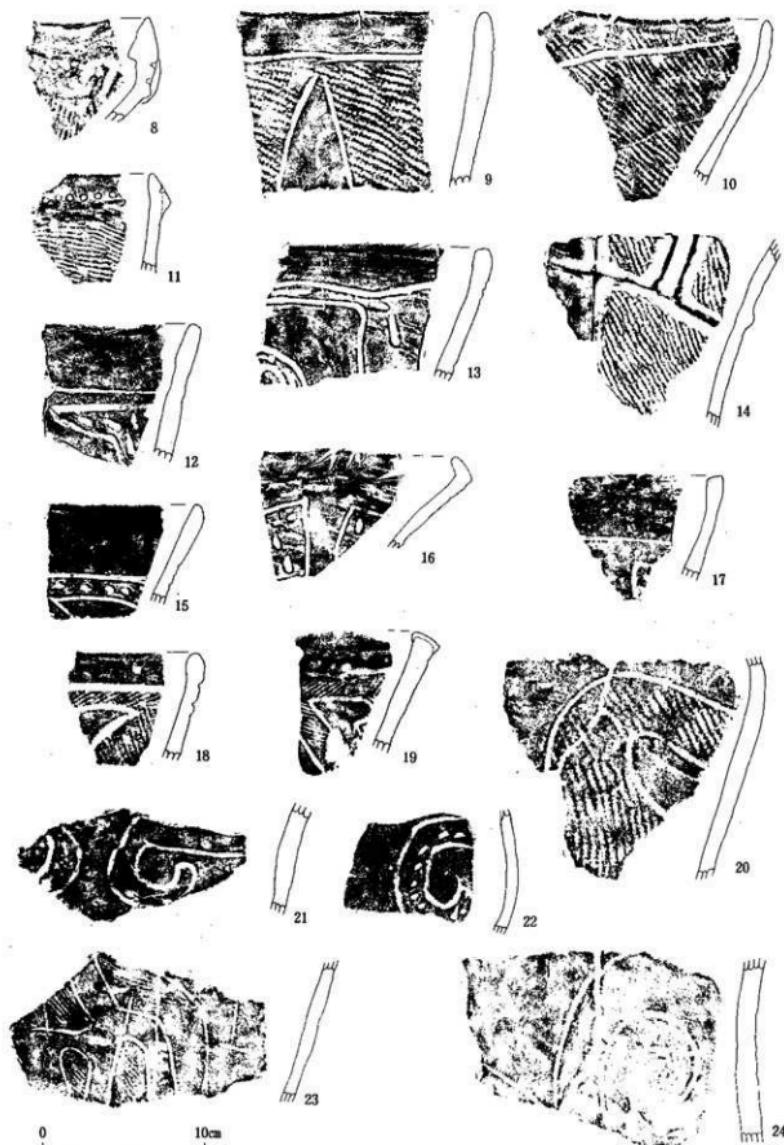
第4図 2号住居址石囲い炉実測図(1/20)

iii 出土した遺物

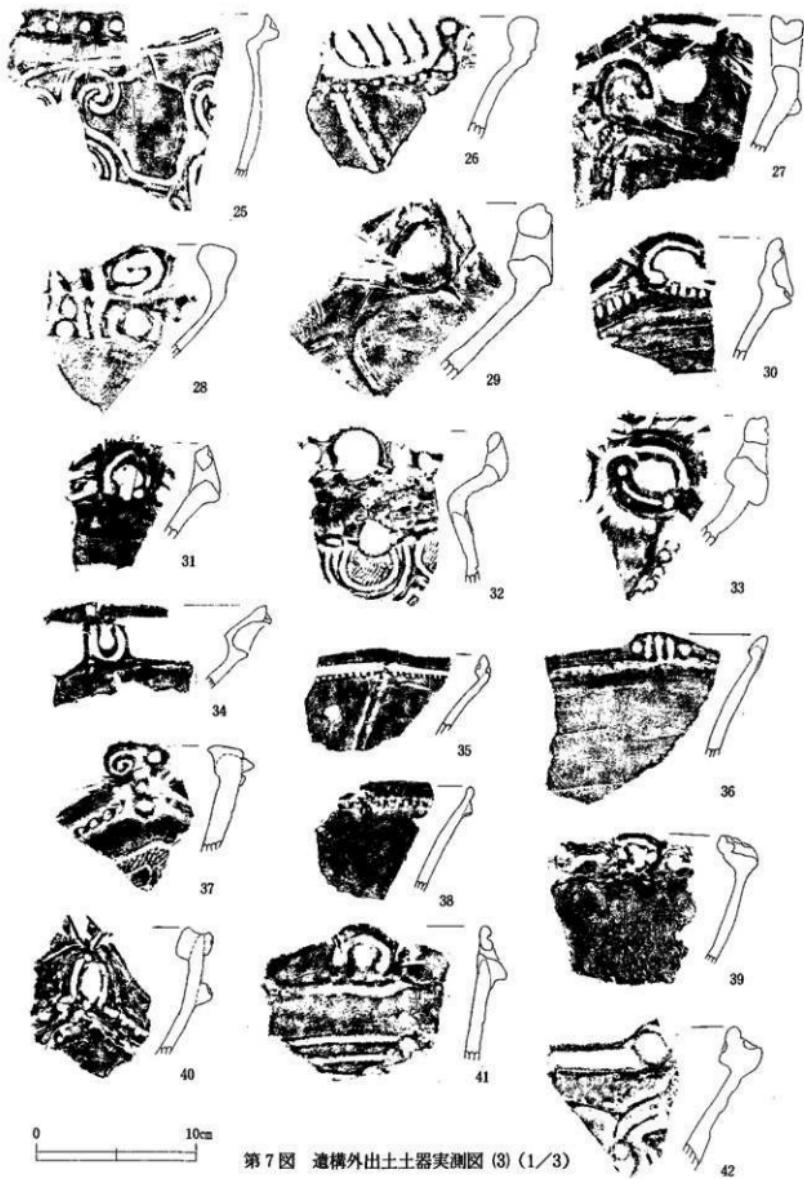
出土遺物は、遺物包含層が比較的厚く、縄文時代中期最終末から後期中葉にかけての土器（第5図～10図）、網代底土器（第11図）土偶（破片、第12図）、石鎌・石斧（第13図）、石棒（図版2）などが多く出土した。平安時代の土師、須恵器など数点、また銭（1枚）が出土した。



第5図 遺構外出土土器実測図(1)(1/3)



第6図 造構外出土土器実測図(2)(1/3)

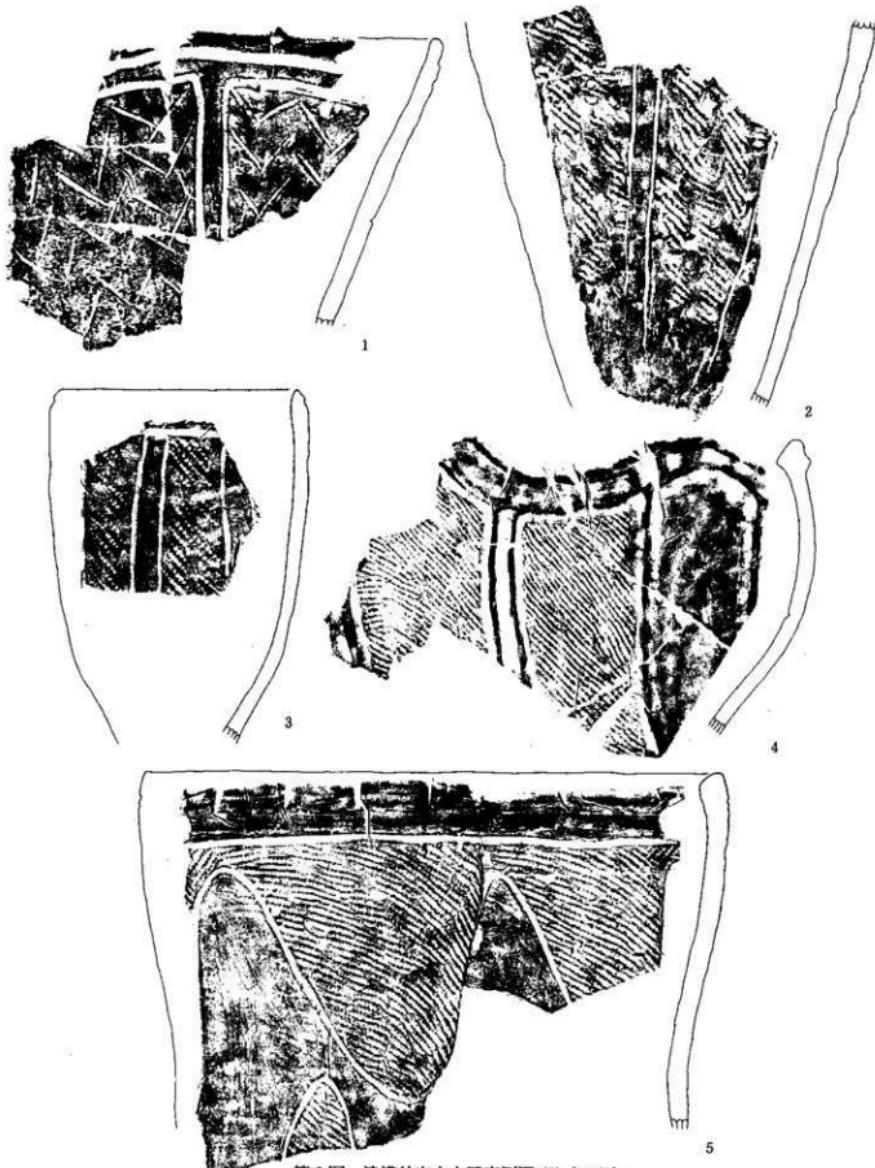


第7図 遺構外出土土器実測図(3)(1/3)

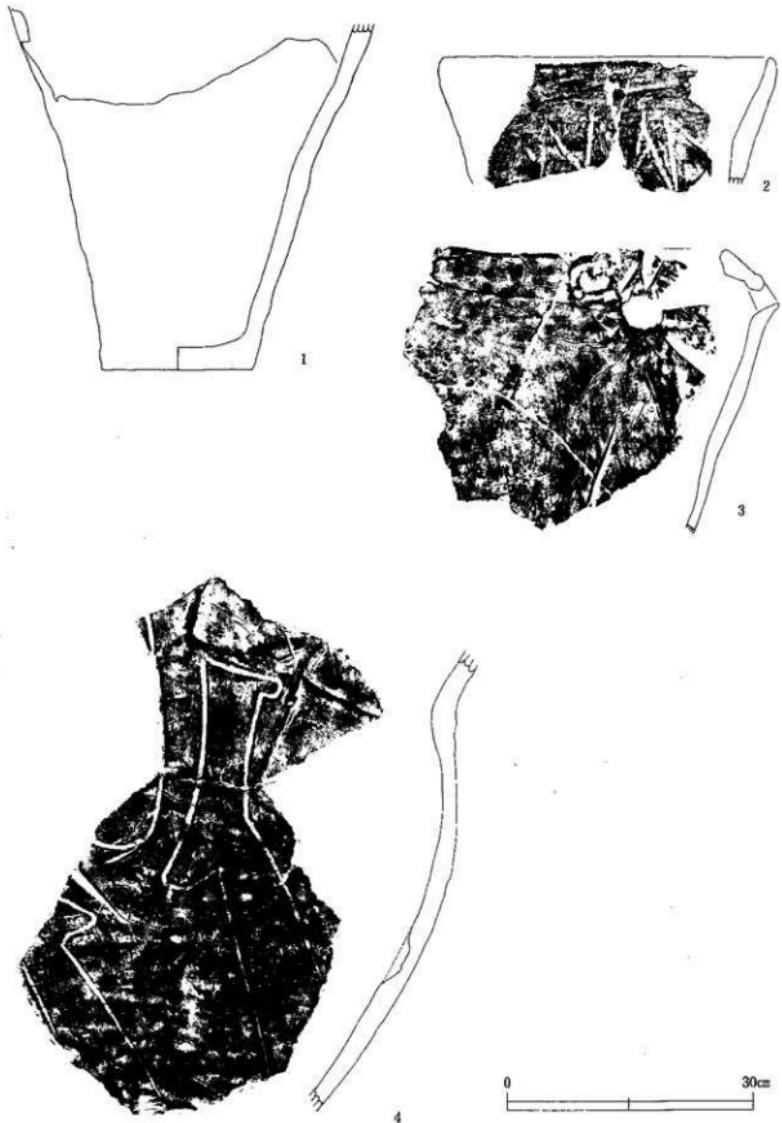
0 10cm



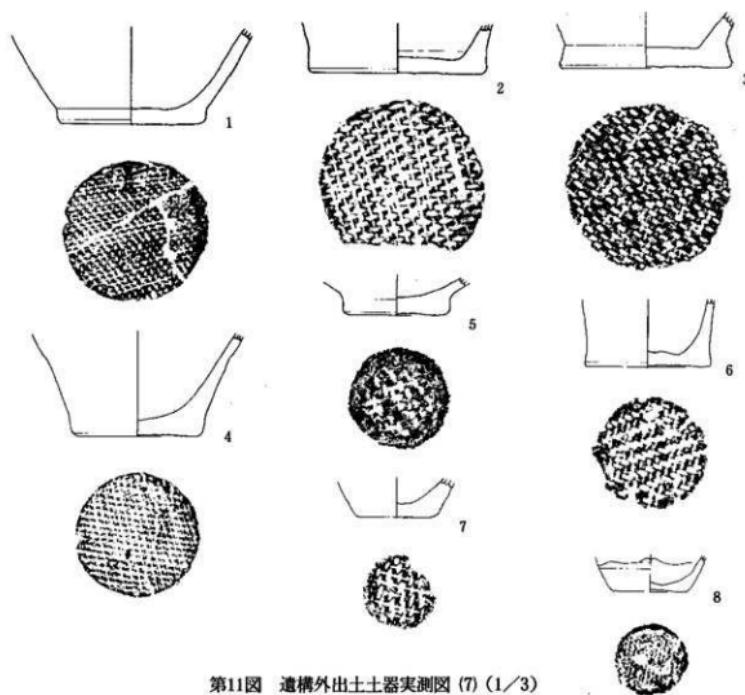
第8図 遺構外出土土器実測図(4)(1/3)



第9図 造構外出土土器実測図(5)(1/6)



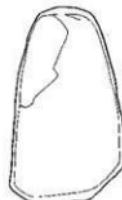
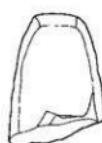
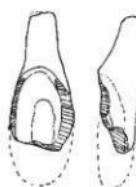
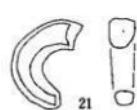
第10図 遺構外出土土器実測図 (6) (1/6)



第11図 遺構外出土土器実測図(7)(1/3)



第12図 遺構外出土土器実測図(1/3)



24

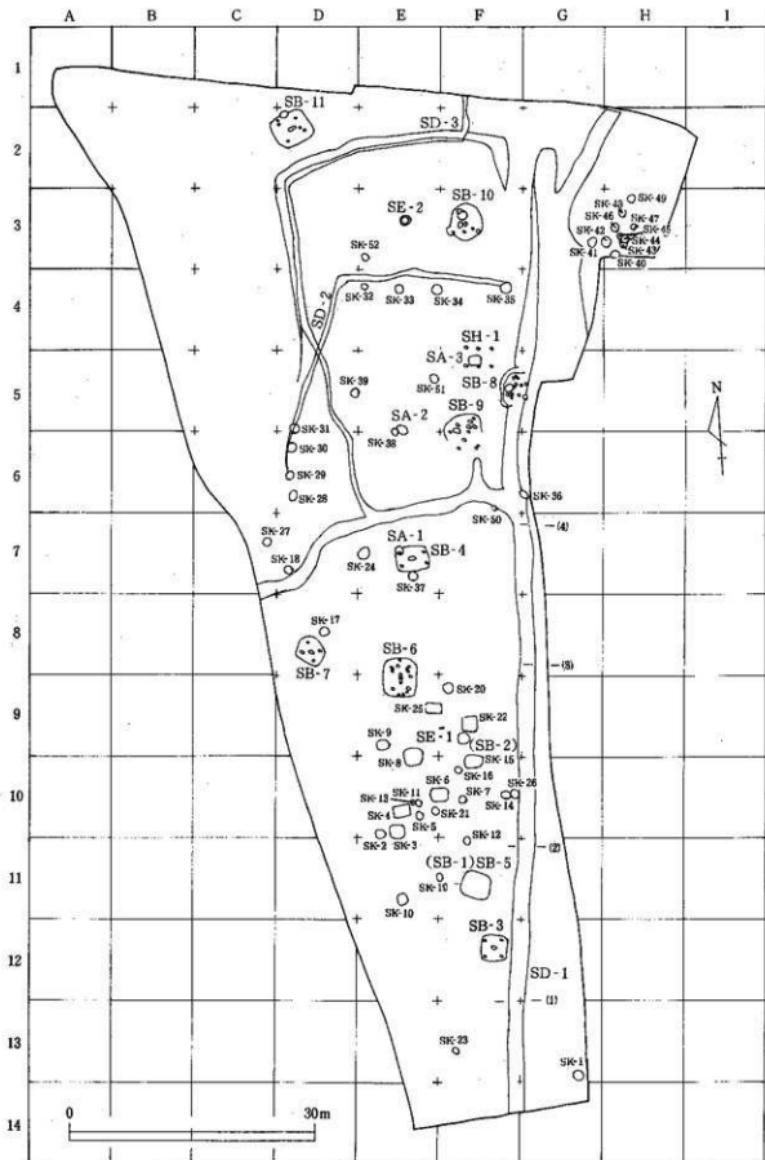


25

0

5cm

第13図 遺構外出土遺物実測図 (1/2)



第1図 米田遺跡遺構分布図 (1 / 600)

第VII章 米田遺跡

i 遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山北割字米田地内に所在し、標高775mを測る。地形はゆるやかに南傾斜する尾根上に位置する。平成5年調査の米田遺跡の南に接する。縄文時代から近世に渡る遺跡である。

ii 検出された遺構

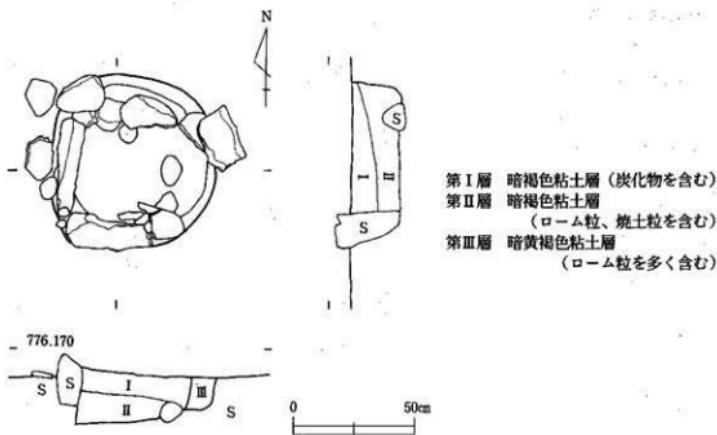
検出された遺構は、縄文時代前期の住居址10軒（その内炉1基）、縄文中期の住居址1軒、縄文時代の土壙5基、中世以降の土壙45基、近世の井戸2基・溝3条・掘建柱建物址1棟である。

(1) 堅穴住居址

住居址は、南北に延びる比較的やせた尾根上に点在し、縄文時代前期の住居址10軒、縄文時代中期の住居址1軒の計12軒を検出している。縄文時代中期の1号住居址、以下2号～11号までは縄文時代前期の住居址である。以下に、ここに説明する。

1号住居址 (SB-1) 第2図

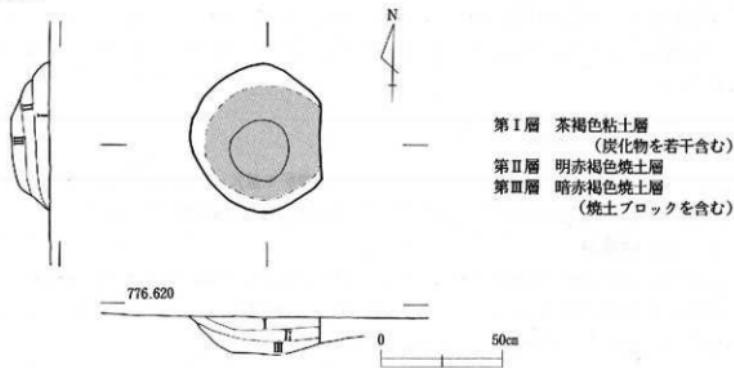
本遺跡の南側（グリッドF-11）に位置する。炉の存在により確認したが、柱穴は存在しないため、屋外炉としての可能性がある。炉は、全長74cm・幅78cm・深さ20cm・炉石15個。



第2図 1号住居址石囲い炉実測図 (1/20)

2号住居址 (SB-2) 第3図

本遺跡のやや中央側 (グリッドF-9) に位置する。焼土の残存によって炉とした。しかし、精査を行ったが柱穴は検出されなかったため、屋外炉の可能性がある。形状は椭円形、長径64cm・短径54cmを測る。



第3図 2号住居址炉実測図 (1/20)

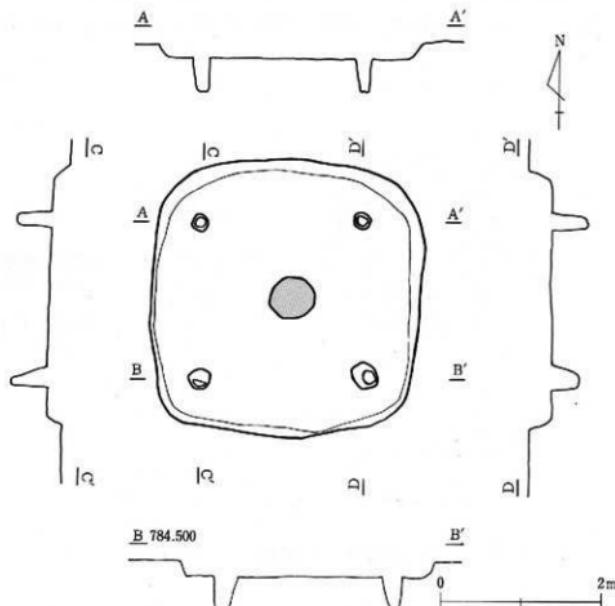
3号住居址 第4図
(SB-3)

本遺跡の南側 (グリッドF-12) に位置する。形状は隅丸方形、長軸3m40cm・短軸3m28cmを測る。

柱穴は4本検出され、いずれも主柱穴である。

床面はローム面を平坦に整形し比較的硬くしまっていた。

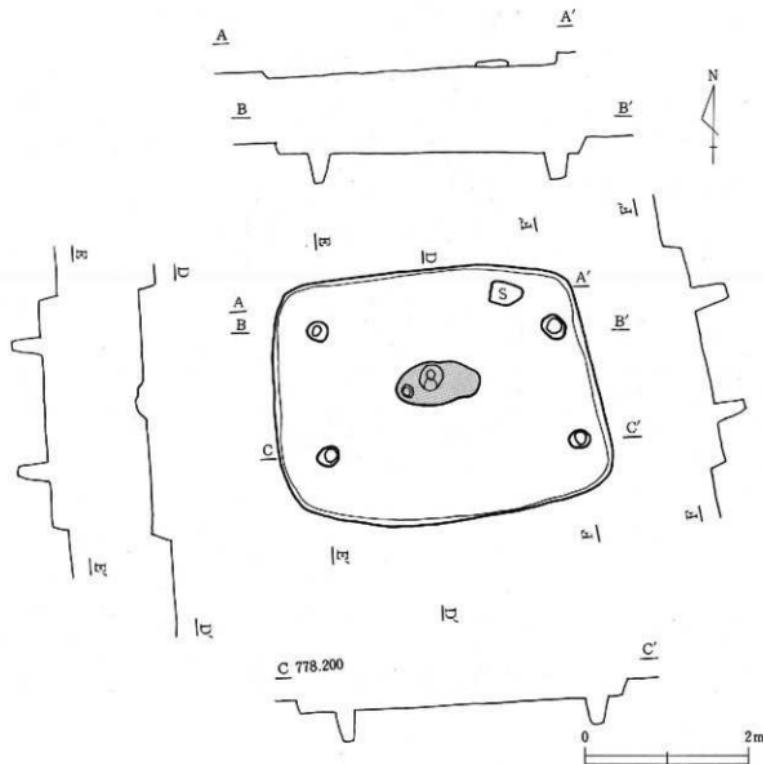
炉は住居内のほぼ中央部にあり、焼土の残存状況は良好であった。



第4図 3号住居址実測図 (1/60)

4号住居址(SB-4)第4図

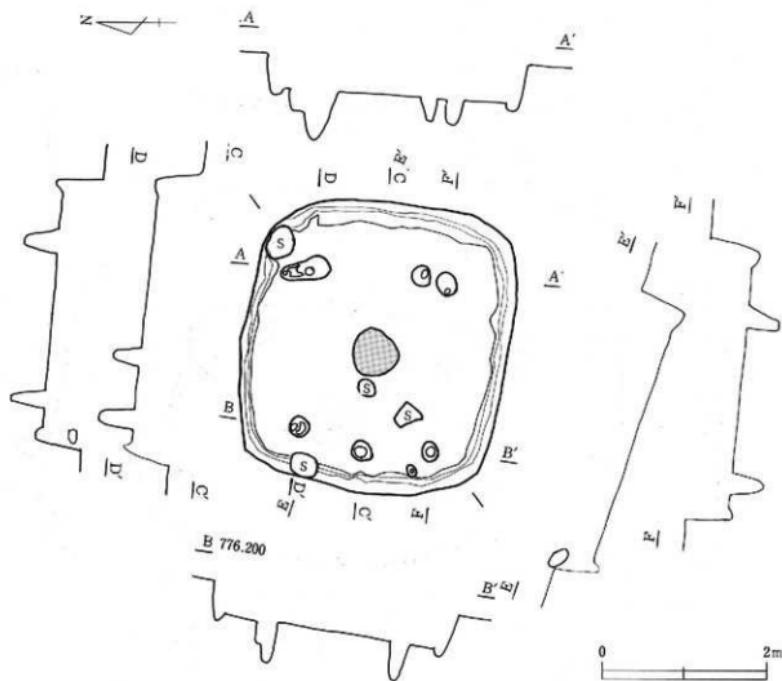
本遺跡の中央部(グリッドE-7)に位置する。形状は隅丸長方形をていし、長軸3m92cm・短軸3m12cm・壁高24cmを測る。4本の柱穴は比較的壁側より検出されている。



第5図 4号住居址実測図(1/60)

5号住居址（SB-5）第6図

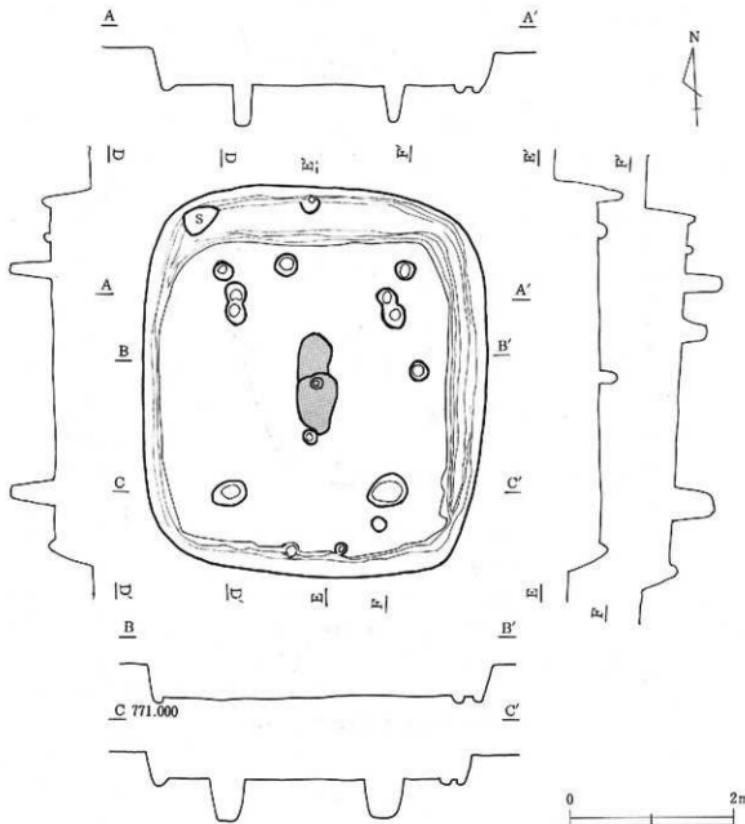
本遺跡の南側（グリッドF-12）に位置する。形状は隅丸方形、長軸4m80cm・短軸4m20cm・壁高57cmを測る。柱穴は7本検出されており、外側の4本が主柱穴であり、周溝は全周する。



第6図 5号住居址実測図（1/60）

6号住居址(SB-6)第7図

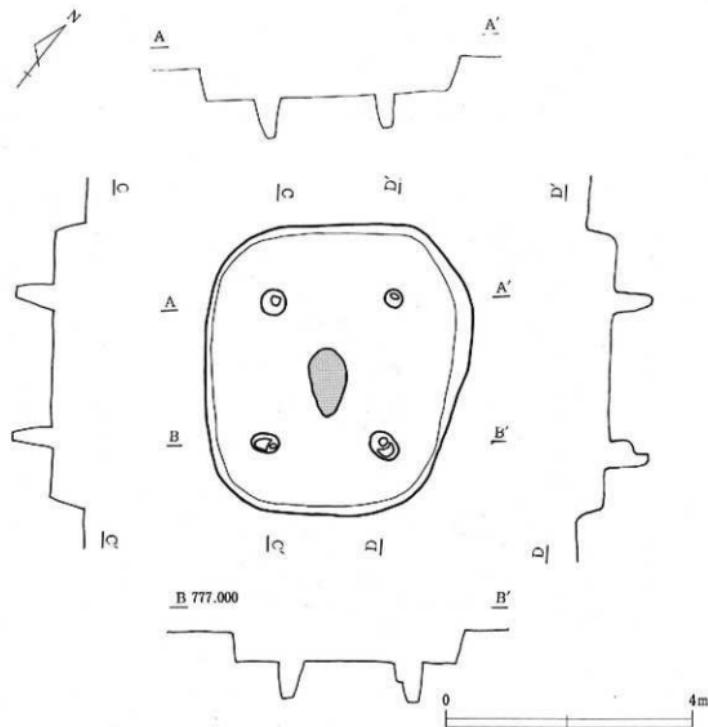
本遺跡の中央部(グリットE-8・9)に位置する。形状は隅丸方形、長軸4m80cm・短軸4m20cm・壁高47cmを測る。柱穴及び周溝により北側に3度の立て替え拡張したことが確認でき、南壁中央付近の小柱穴2本は出入口の柱穴と思われる。



第7図 6号住居址実測図 (1/60)

7号住居址（SB-7）第8図

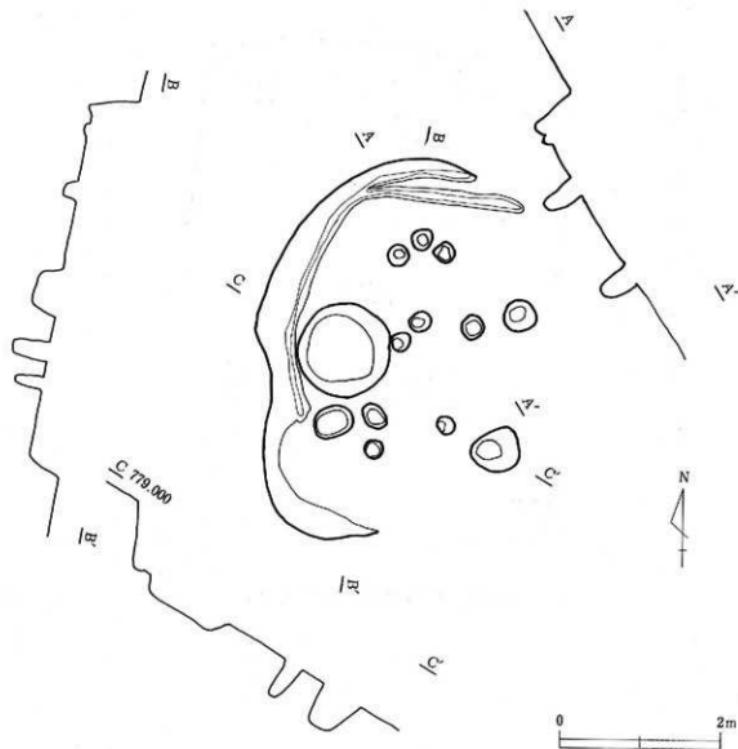
本遺構の西端（グリッドD-8）に位置する。形状は、隅丸方形、長軸3m56cm・短軸3m20cmを測る。4本柱の柱穴及び地焼炉があり、周溝は確認されなかった。



第8図 7号住居址実測図 (1/80)

8号住居址（SB-8）第9図

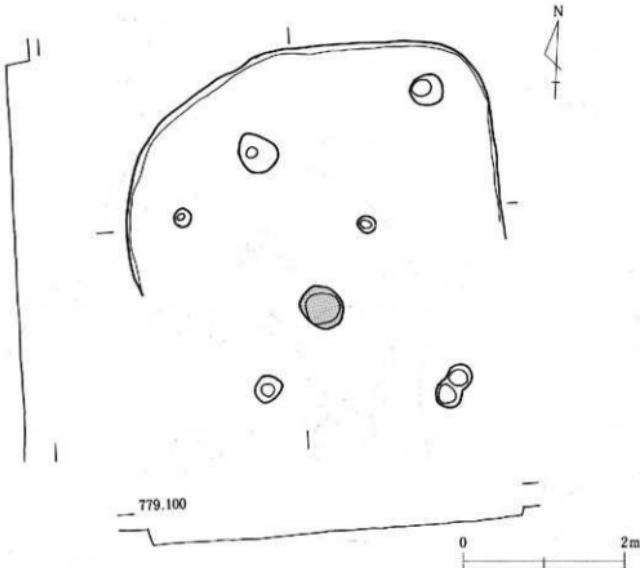
本遺構は東側の南北に延びる比較的幅広の溝（グリッドF-5）に位置する。ほぼ半分が削り取られており、プランは不確定ではあるが、一辺4.8mの隅丸方形を呈すると思われる。西側の壁高72cmを測る。



第9図 8号住居址実測図 (1/60)

9号住居址（S B - 9）第10図

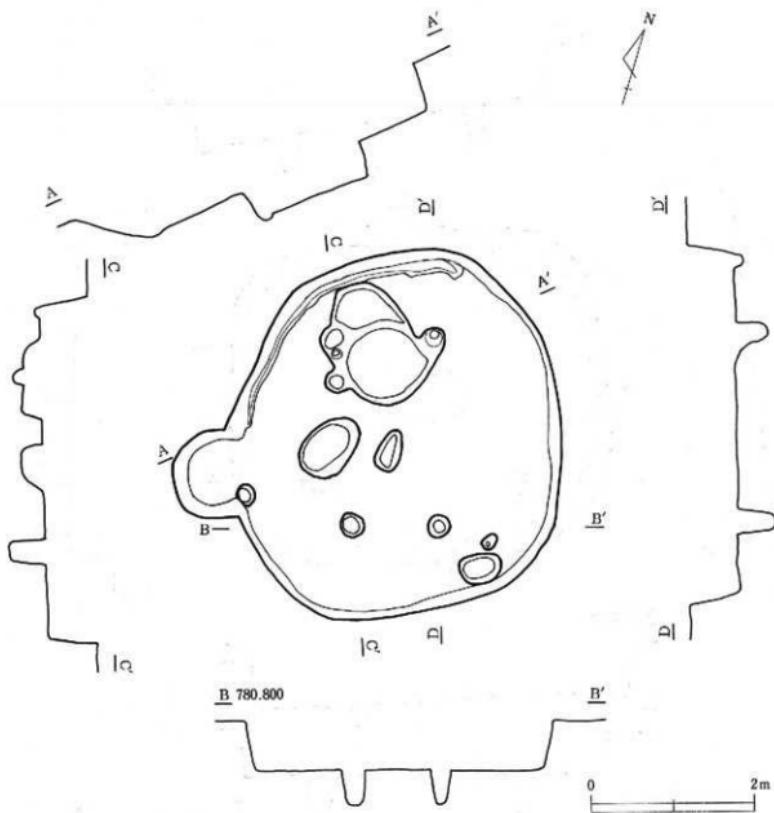
本遺跡の中央部の溝（S D - 2）の北側（グリッド F - 5）に位置する。形状は、住居址の南側が破損していたが、隅丸方形と推測され、1辺 4 m 60cm を測る。掘込みが浅い。地床炉が確認された。



第10図 9号住居址実測図（1/60）

10号住居址（S B-10）第11図

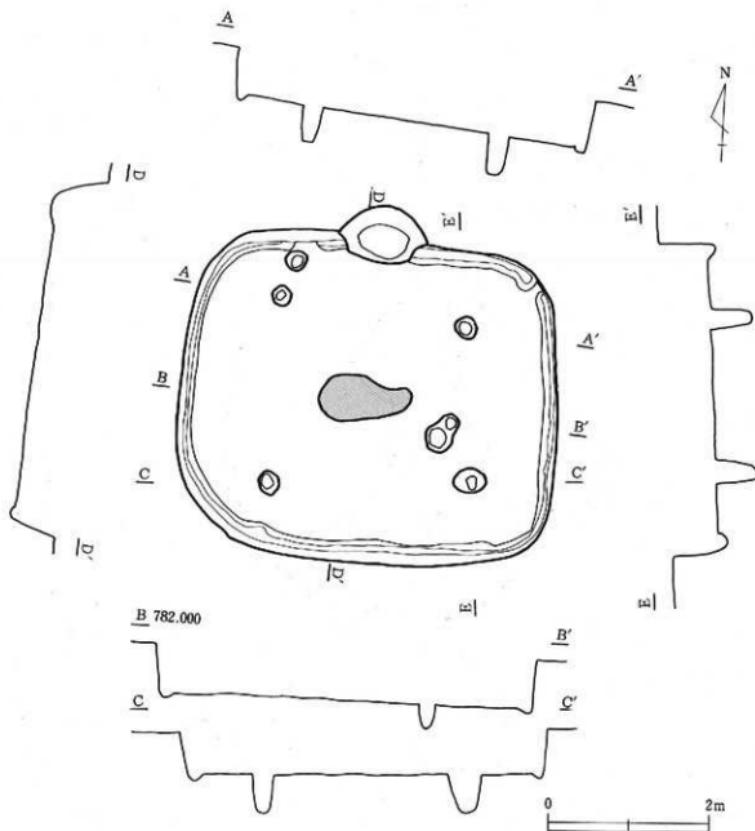
本遺跡の北側（グリッドF-3）に位置する。形状は、楕円形、長軸4m44cm・短軸4m80cm・壁高46cm。住居址の南西の位置の土壤によって壁が切断されていた。住居と土壤の掘り込み面のレベルが同じで、住居の一部と推測される。住居址内に近世の柱穴が確認された。



第11図 10号住居址実測図 (1/60)

11号住居址（SB-11）第12図

本遺跡の北端（グリッドD-2）に位置する。形状は、隅丸方形、長軸4m64cm・短軸4m4cm・壁高42cmを測る。柱穴は6本検出されているが、主柱穴は4本と思われる。北壁中央に北に掘り込みが見られるが掘り込まれた深さの違いにより、時代差が推測される。

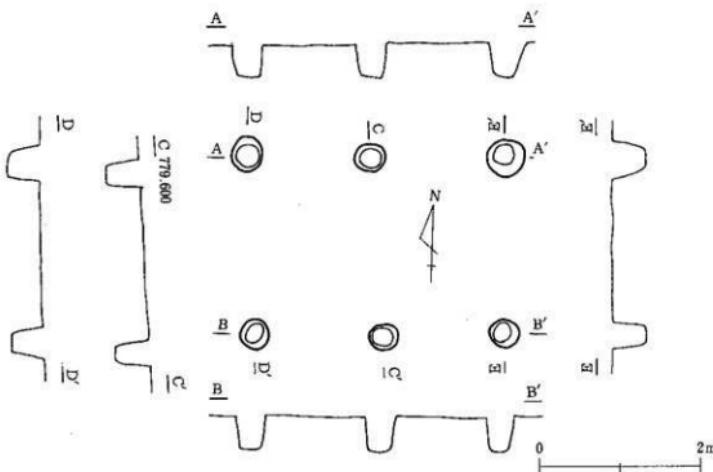


第12図 11号住居址実測図 (1/60)

(2) 掘建柱建物址 (SH-1) 第13図

1号掘建柱建物址

本遺跡の8号住居址の西側（グリッドF-5）に位置する。南北1間（2m64cm）、東西2間（3m40cm）、柱間寸法は梁（1m48cm～1m60cm）、桁（2m20cm）、柱穴は円形で、32cm～44cmを測る。



第13図 1号掘建柱建物址実測図 (1/60)

(3) 土 壤

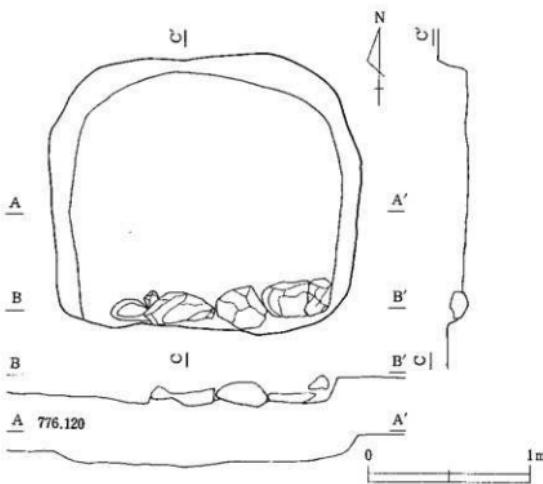
本遺跡内において、52基検出された。①南側の土壤群（SK-1～25）、②北東隅の土壤群（SK-40～49）、③溝（SD-2）沿いの土壤群（SK-35～28）の3群に分割できる。とくに②の土壤群の集約性、③の土壤群の溝は沿う形の配列に特徴がある。集石された土壤についてのみ報告する。

3、4、6、15、22号土壤には、共通する特徴がある。それは、土壤の形状もさることながら、土壤内の1辺あるいは2辺に石積が見られることである。この石積は、ほぼ同位置の平べったい川原石を用いていることであり、遺構の残存状況にもよるが、1段～3段確認することができる。このような状況から、用途としては水利に伴う水溜と思われるが、これに接続する水路が確認されないこと、覆土中より水の流入による土砂の堆積がみられないこと、石積が全周しないことなどにより他の目的のために構築されたものであろう。

遺構内より具体的な年代を示す遺物が出土していないが、石積の状況より中世以降と思われる。

3号土壤 (SK-3) 第14図

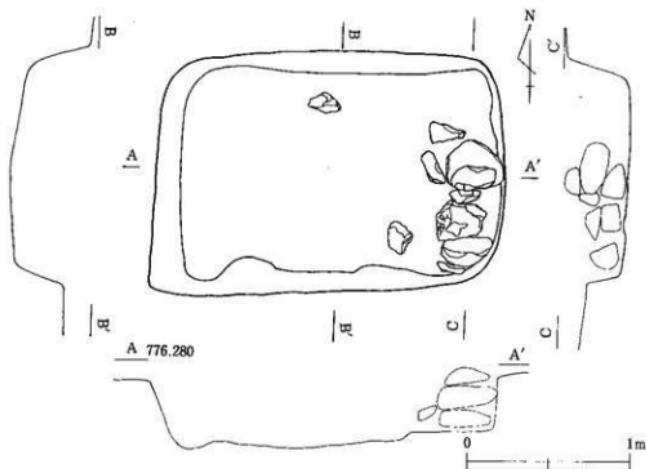
位置—グリッドE-10。形状 長方形、長軸 1m 87cm・短軸 1m 65cm・深さ 18cmを測る。



第14図 3号土壤実測図 (1/30)

4号土壤 (SK-4) 第15図

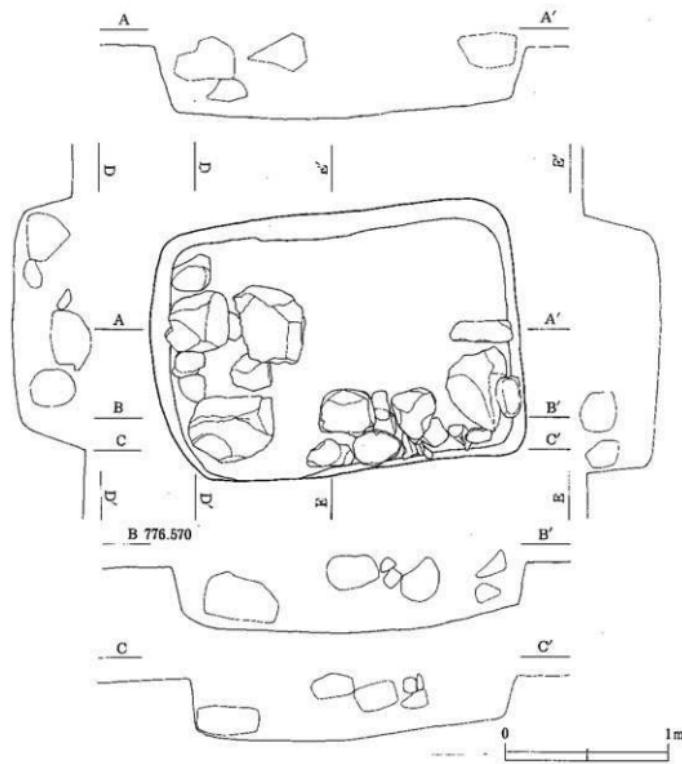
位置—グリッドE-10。形状—楕円形、長径 2m 15cm・短径 1m 49cm・深さ 43cmを測る。



第15図 4号土壤実測図 (1/30)

6号土壤(SK-6)第16図

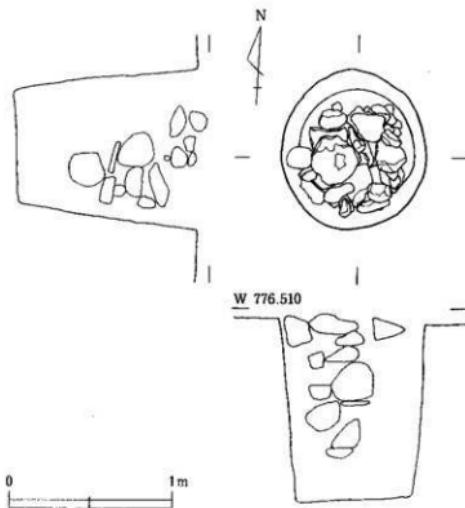
位置—グリッドE-10。形状—隅丸方形、長径2m30cm・深さ1m6cm、深さ43mを測る。



第16図 6号土壤実測図(1/30)

7号土壤 (SK-7) 第17図

位置 グリッドF-10。形状—
円形、直径0.9m・深さ 1m 8cm
を測る。

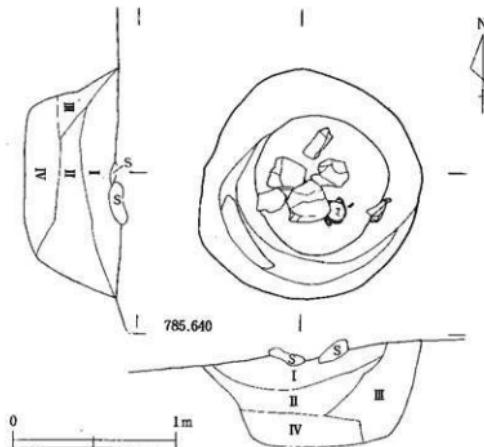


第17図 7号土壤実測図 (1/30)

10号土壤 (SK-10) 第18図

位置—グリッドF-10。形状—
椭円形、長径1.4m・短径1.3m・
深さ0.6mを測る。

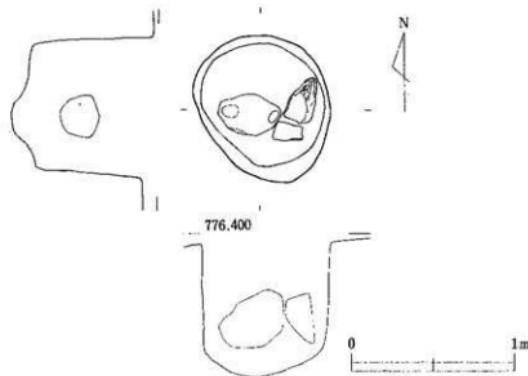
- 第I層 暗褐色粘土層
(粘性なし、しまりあり)
- 第II層 暗黄褐色粘土層
(粘性なし、しまりあり)
- 第III層 黄褐色粘土層
(粘性なし、しまりあり)
- 第IV層 黑褐色粘土層
(粘性なし、しまりあり)



第18図 10号土壤実測図 (1/30)

11号土壤 (SK-11) 第19図

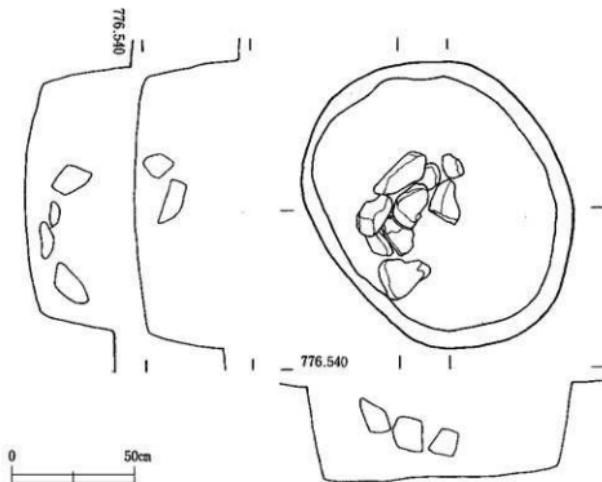
位置—グリッド E-10。形状—梢円形、長径95cm・短径79cm・深さ85cmを測る。



第19図 11号土壤実測図 (1/30)

14号土壤 (SK-14) 第20図

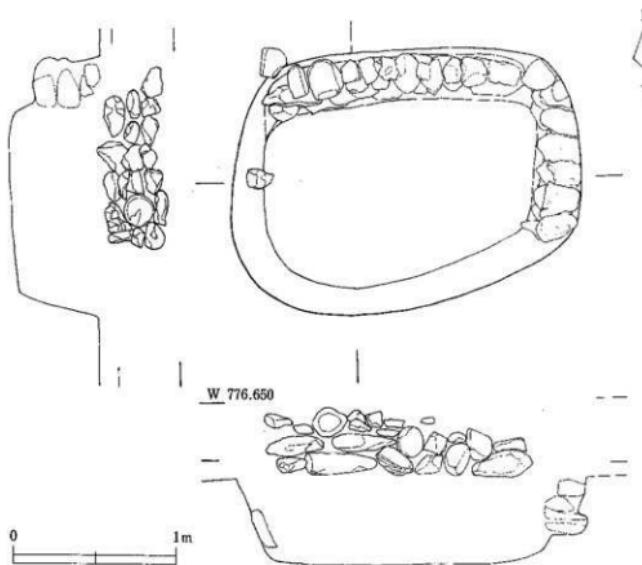
位置—グリッド E-14。形状—梢円形、長形1m23cm・短形1m6cm・深さ39cm。集石あり。



第20図 14号土壤実測図 (1/20)

15号土壤 (SK-15) 第21図

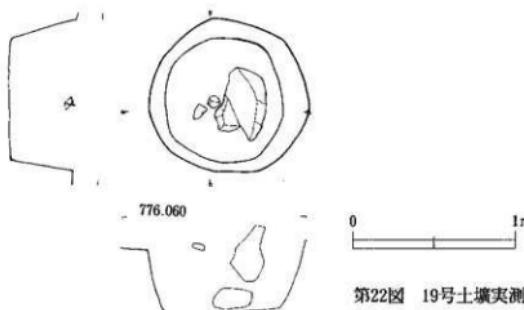
位置 - グリッド F-10。形状 - 楕円形、長径 2 m 13cm・短径 1 m 63cm・深さ 50cm。北壁、東壁に石積が残存していた。周壁の石積は湿気を防止するため、これに屋根をかけ、貯蔵庫につかわれたものと推測される。



第21図 15号土壤実測図 (1/30)

19号土壤 (SK-19) 第22図

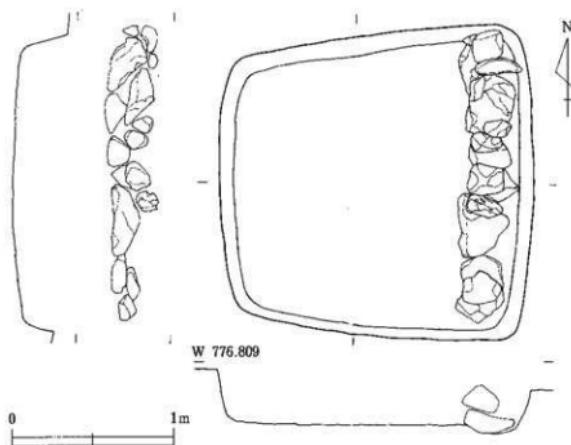
位置 - グリッド F-11。形状 - ほぼ円形、長径 98cm・短径 95cm・深さ 40cm を測る。



第22図 19号土壤実測図 (1/30)

22号土壤 (SK-22) 第23図

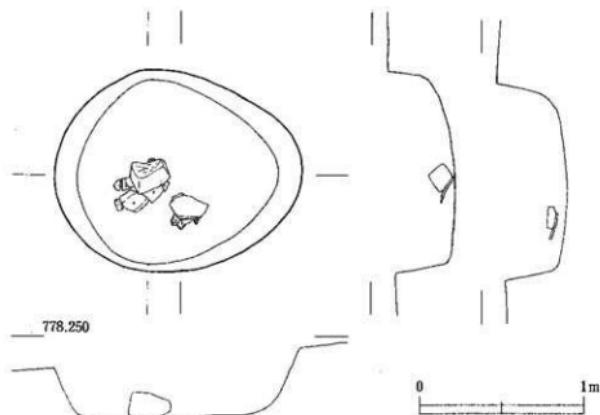
位置 - グリッド F-9。形状 - 圓角方形、長径 1m 93cm・短径 m 84cm・深さ 35cm。15号土壤と同様に、東壁に石積が存在していた。



第23図 22号土壤実測図 (1/30)

24号土壤 (SK-24) 第24図

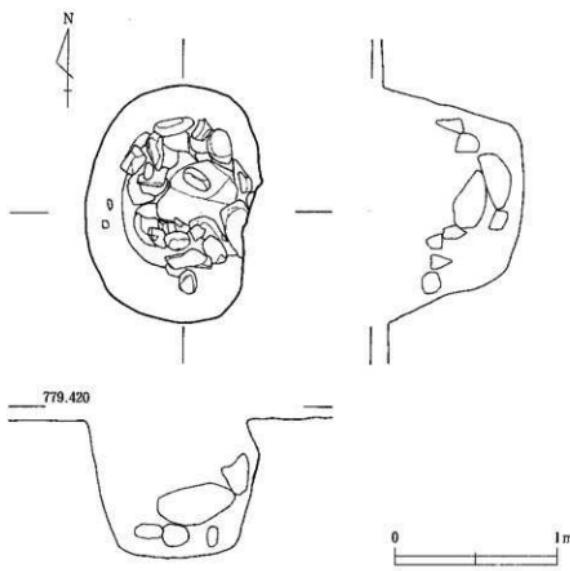
位置 - グリッド E-7。形状 - 楕円形、長径 1m 52cm・短径 1m 26cm・深さ 32cmを測る。



第24図 24号土壤実測図 (1/30)

38号土壤 (SK-38) 第25図

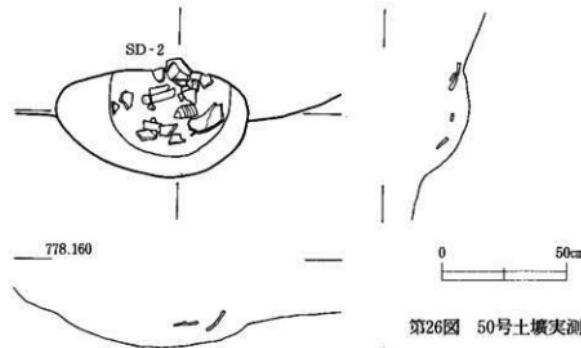
位置—グリッドE-5・6。形状—橢円形、長径97cm・短径70cm・深さ52cmを測る。



第25図 38号土壤実測図 (1/30)

50号土壤 (SK-50) 第26図

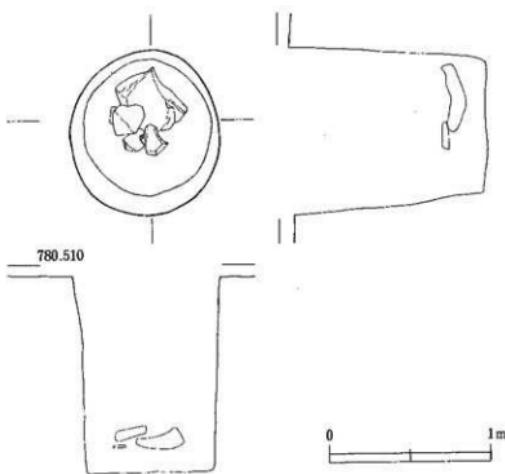
位置—グリッドF-6。形状—溝 (SD-2) に傾斜しながら接し、東側の部分が溝 (SD-2) により破損していた。南北78cm。



第26図 50号土壤実測図 (1/20)

52号土壤 (SK-52) 第27図

位置—グリッド E-3。形状—橢円形、長径 1m 2cm・短径 91cm・深さ 1m 22cm を測る。



第27図 52号土壤実測図 (1/30)

(4) 集石土壤

本遺跡内において、3基検出された。

1号集石土壤 (SA-1) 第28図

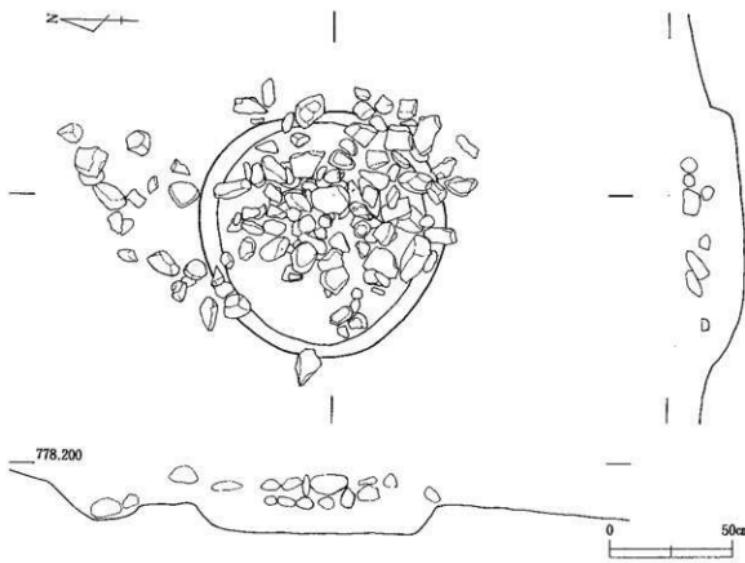
位置—グリッド E-7。形状—円形、直径 1m・深さ 13cm。縄文時代前期中葉。

2号集石土壤 (SA-2) 第29図

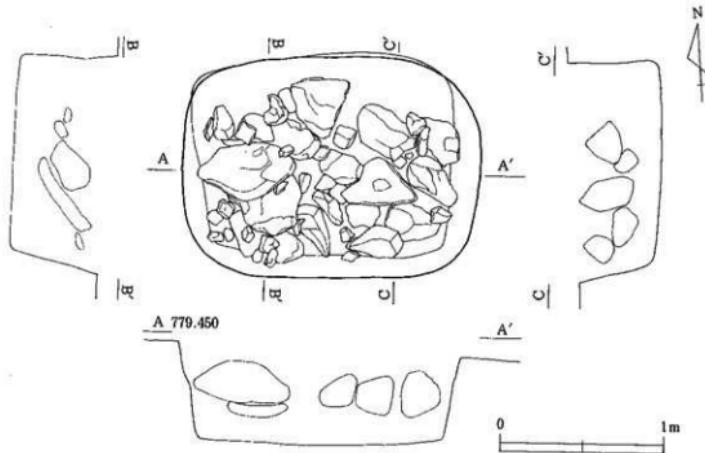
位置—グリッド E-5。形状—直径 1m 80cm の円形内に、円状に配石され、掘込みの浅い土壤である。

3号集石土壤 (SA-3) 第30図

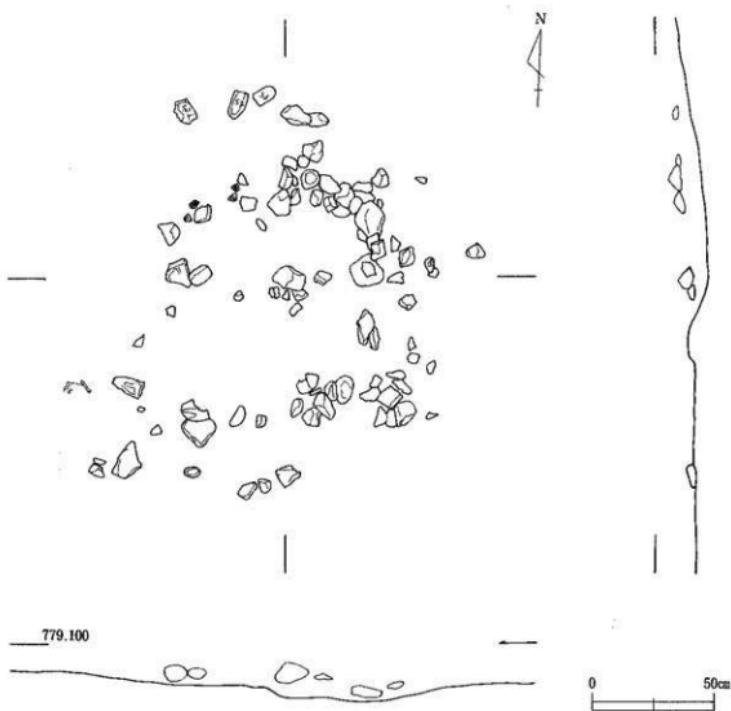
位置—グリッド F-5。形状—隅丸方形、長径 1m 83cm・短径 1m 31cm・深さ 61cm。中世以降の時代。



第28図 1号集石土壤実測図 (1/20)



第29図 2号集石土壤実測図 (1/30)



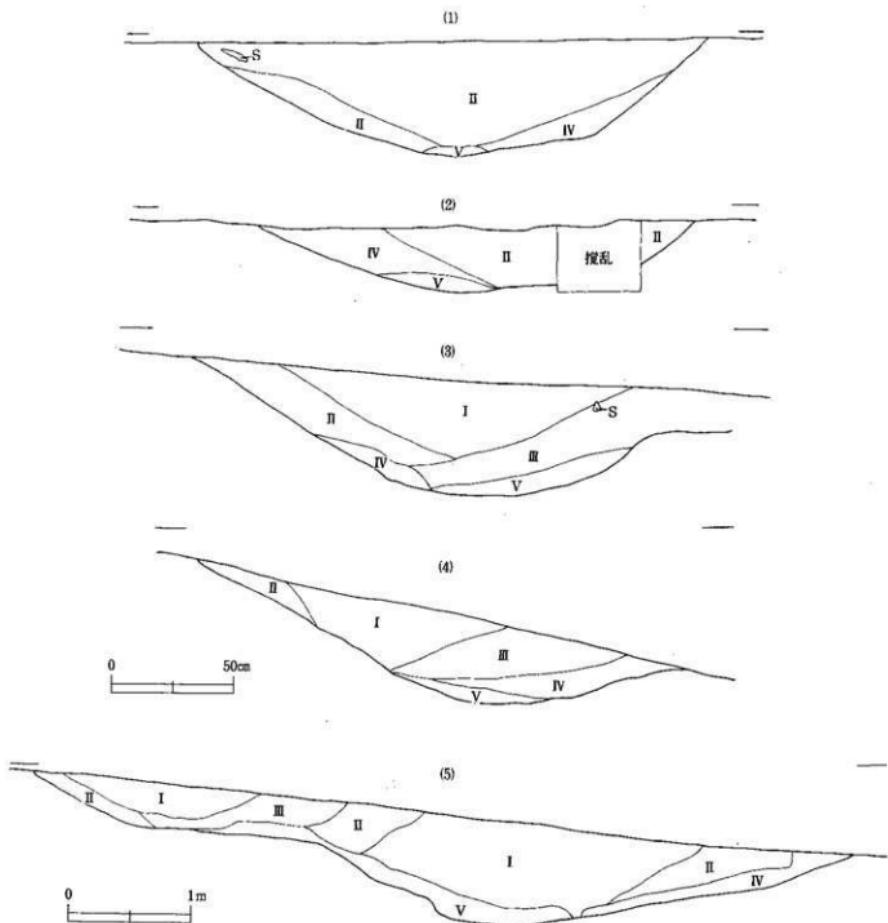
第30図 3号集石土壤実測図 (1/20)

(5) 溝

本遺跡内において、4条の溝（第2図参照）がある。南北に走る溝（SD-1）について、1m50cm～2mの幅を測り、道路に推測される。溝は北進して発掘区外にもどり、消滅していた。しかし、本遺跡は米田北遺跡と接しているため、米田北遺跡へと延びていたと推測される。本遺跡の中央部東西に走る溝（SD-2）、北側にL字形の溝（SD-3・SD-4）が確認された。

本遺跡内において、4条の溝（第2図参照）が検出され、遺跡内東側の南北に走る溝（SD-1）は、幅1.5m～2mを測り、その規模・状況により道路と思われる。中央付近において東西に分岐しているが同様であろう。

SD-2については水路と思われる。SD-3はL字状に比較的広範囲に平らにするために削り取られた部分に周溝状に走っている。この部分は近世以降の住居があった場所であり、掘建柱建物址に伴う柱穴群が存在する。



第31図 溝（SD-1）セクション図 ((1)~(4) 1/20・(5) 1/40)

(6) 井戸
本遺跡内に、2基の井戸がある。

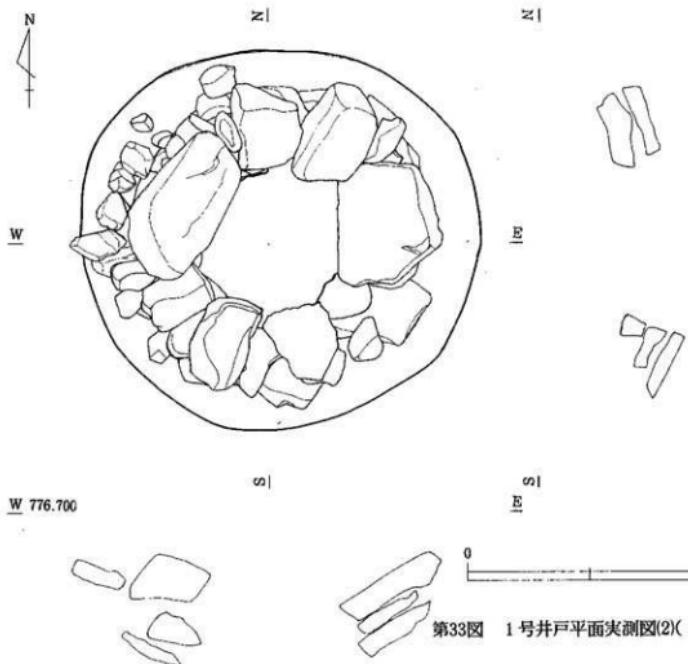
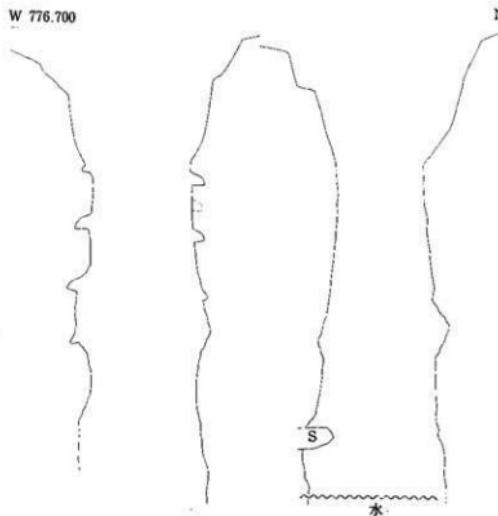
1号井戸 (SE-1)

第32図

位置—グリッドF-9。形状—円形、直徑1m55cm・深さ（水面まで）3m80cm。石組の井戸で、埋め戻されて閉塞されていた。手足を掛ける側穴があった。



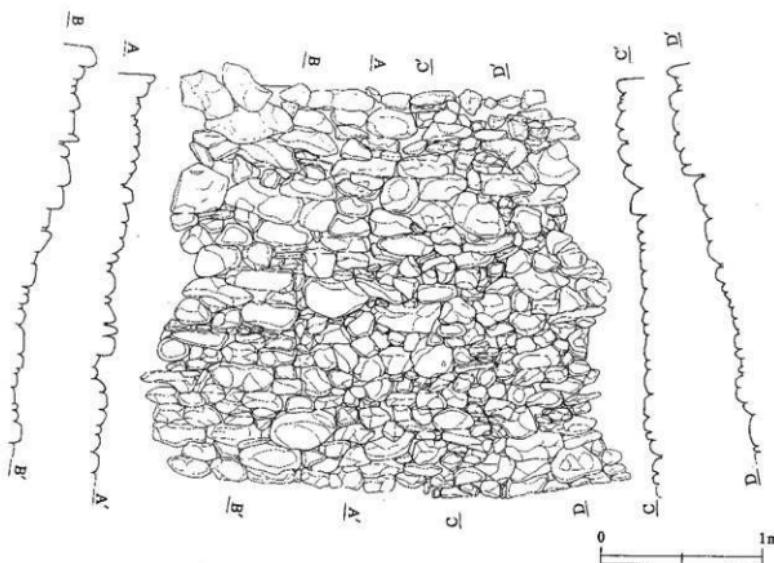
第32図 1号井戸垂直実測図(1)
(1/40)



第33図 1号井戸平面実測図(2) (1/20)

2号井戸 (SE-2) 第34図

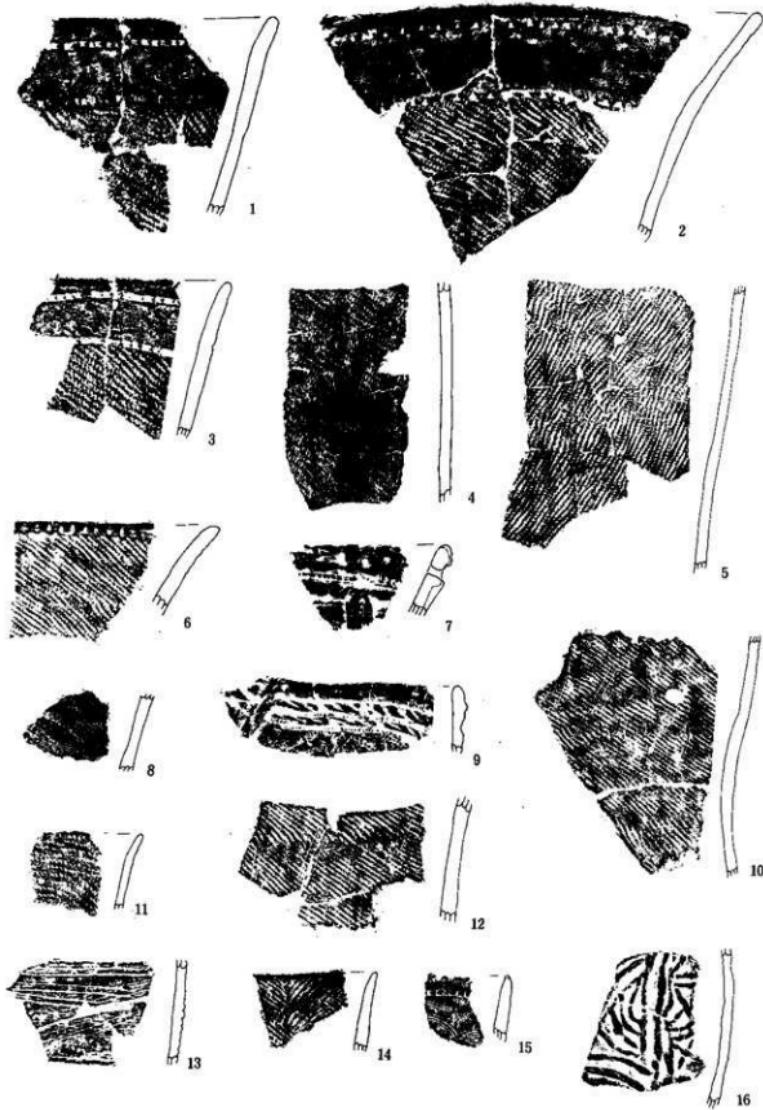
位置—グリッド—E-3。形状—円形、直径0.6m、石積みによる円筒状の井戸枠である。井戸開口部に蓋石として閉塞石があったが、埋め戻されず、井戸の中に水は確認されなかった。



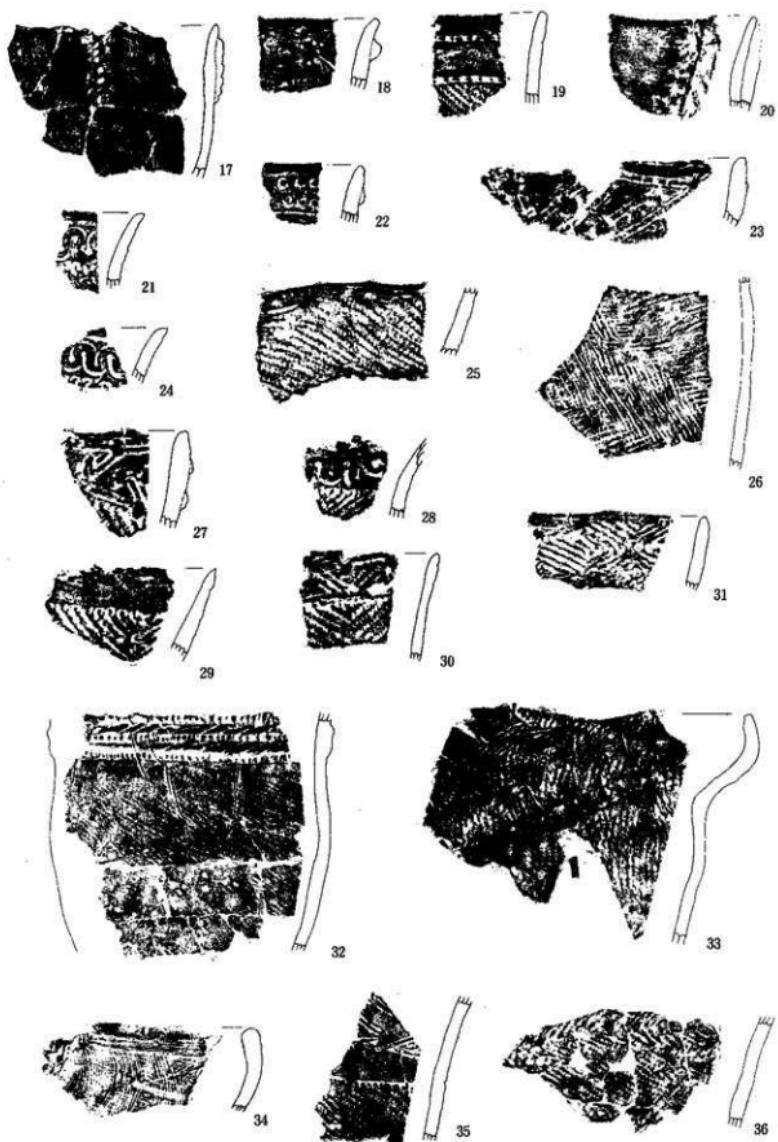
第34図 2号井戸展開・断面実測図 (1/30)

iii 出土した遺物

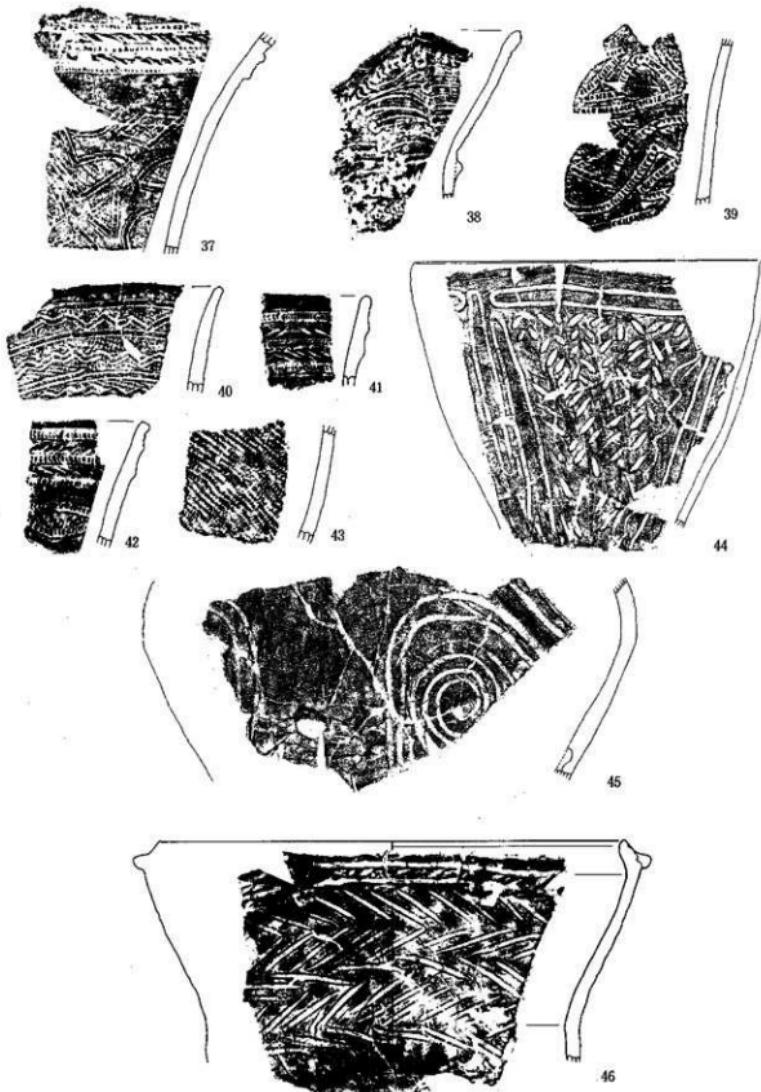
出土遺物は、縄文時代中期の土器（第35、36、37図）、石鎌、石匙、磨製・打製石斧（第38図）等が出土した。中世では内耳土器が、3号住居址・土壤において（第39図1～6）、井戸において（第40図3・4・8・9）、造構外で（第41図1・2・5・6）出土した。近世では陶磁器（第39図2、第40図1・2・5・6、第41図3・4）、（第40図7）がある。



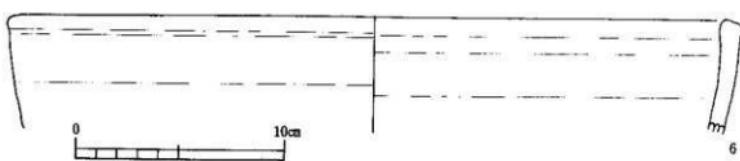
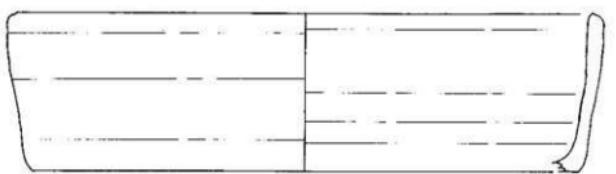
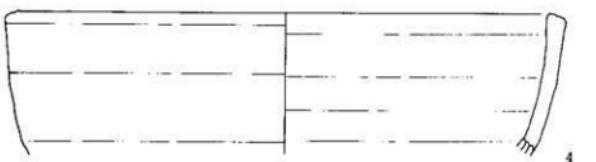
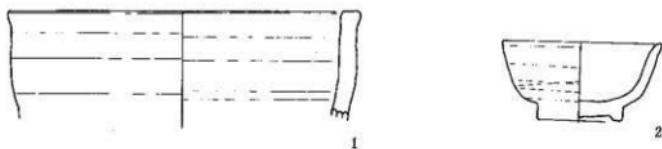
第35図 出土土器実測図 (1) (SB9-1~9、SB8-10~14、SB3-15~16) (1 / 3)



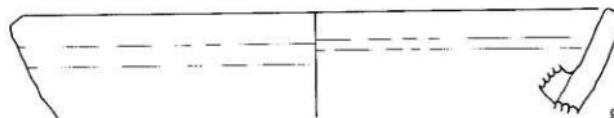
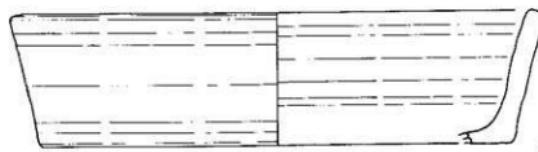
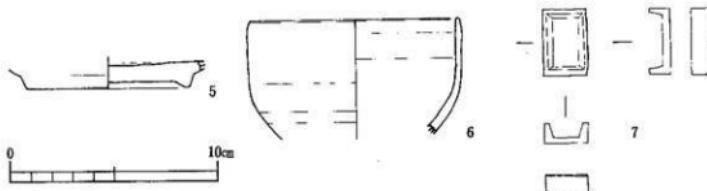
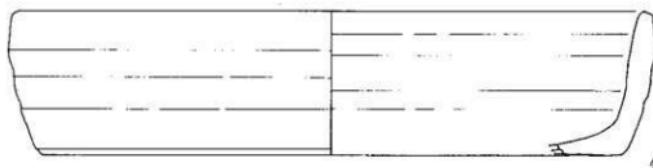
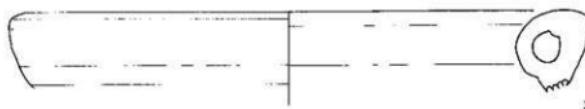
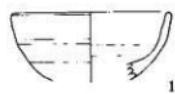
第36図 出土土器実測図（2）(SB3-17、SB4-26、SB6-18+20+22、SB5-19+31、
SB7-21+24+25+28、SB10-23+27+29+30、SK10-36、SK37-33、SK50-32+35) (1/3)



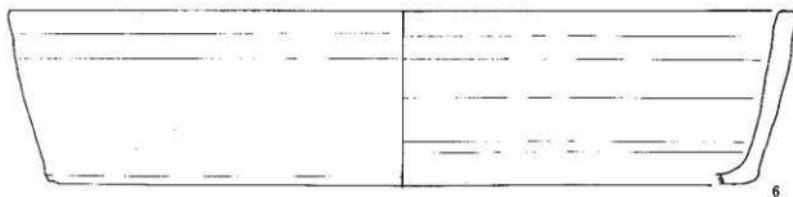
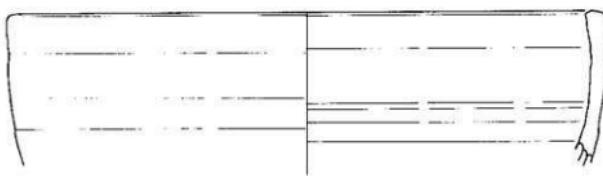
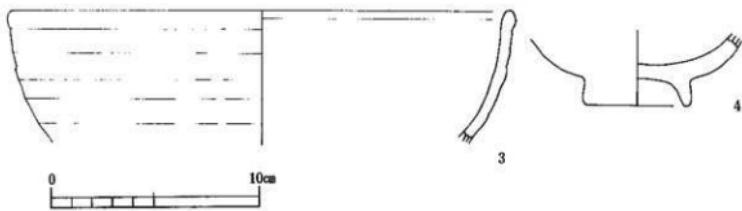
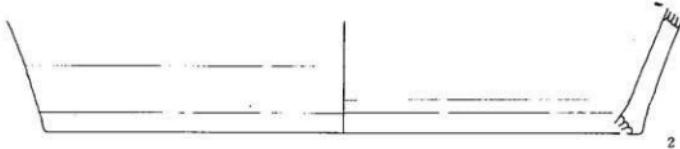
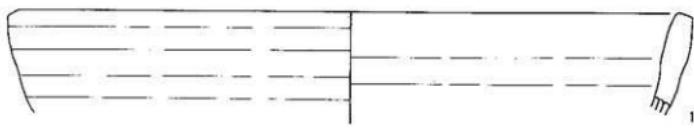
第37図 出土土器実測図(3) (37~43は1/3、44、45、46は1/6)
 (SK1-46、SK50-32・37・38、SB5-45、SB9-44、遺構外-39・40・41・42・43)



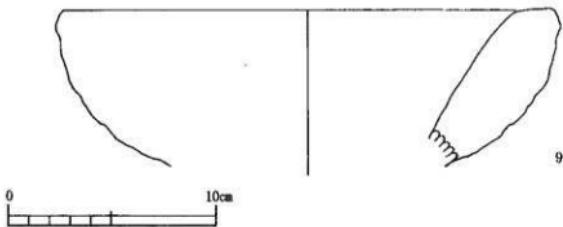
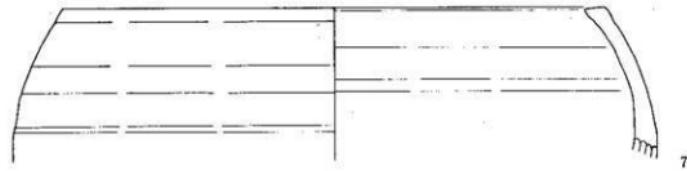
第38図 3号住(1)、11号(2)・15号(3～5)・26号(6)土壤出土土器実測図



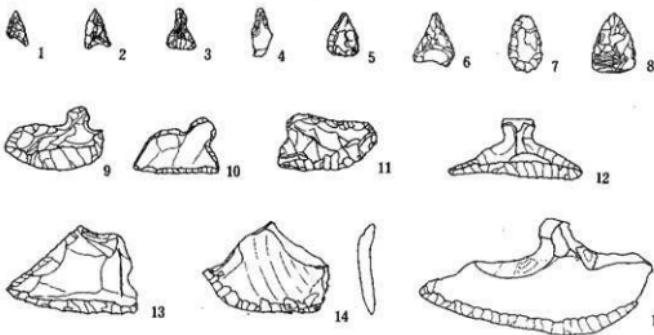
第39図 1号(1~4)、2号(5~9)井戸出土土器実測図



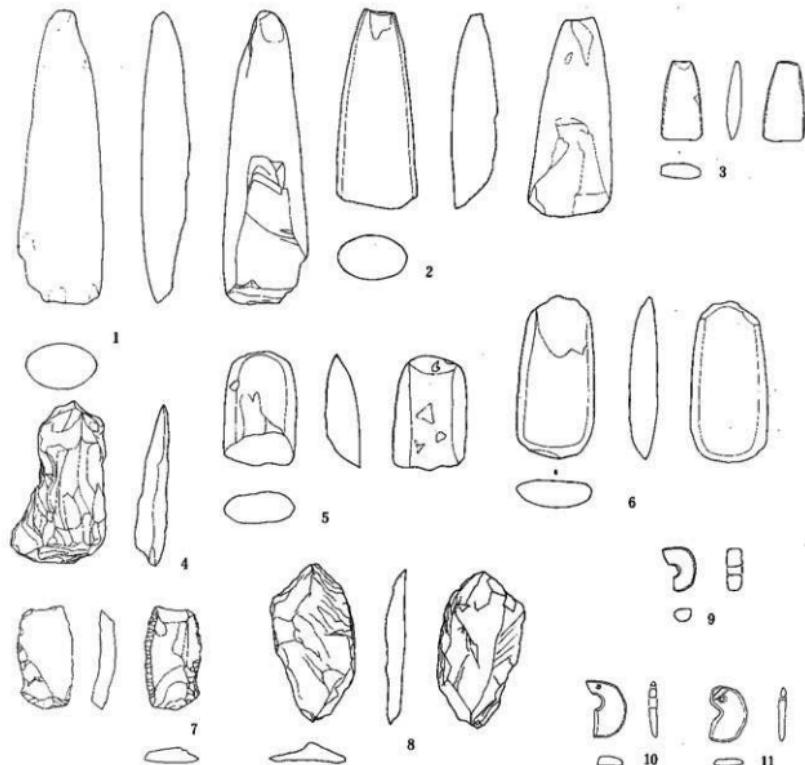
第40図 遺構外出土土器実測図（1）



第41図 造構外出土土器実測図（2）



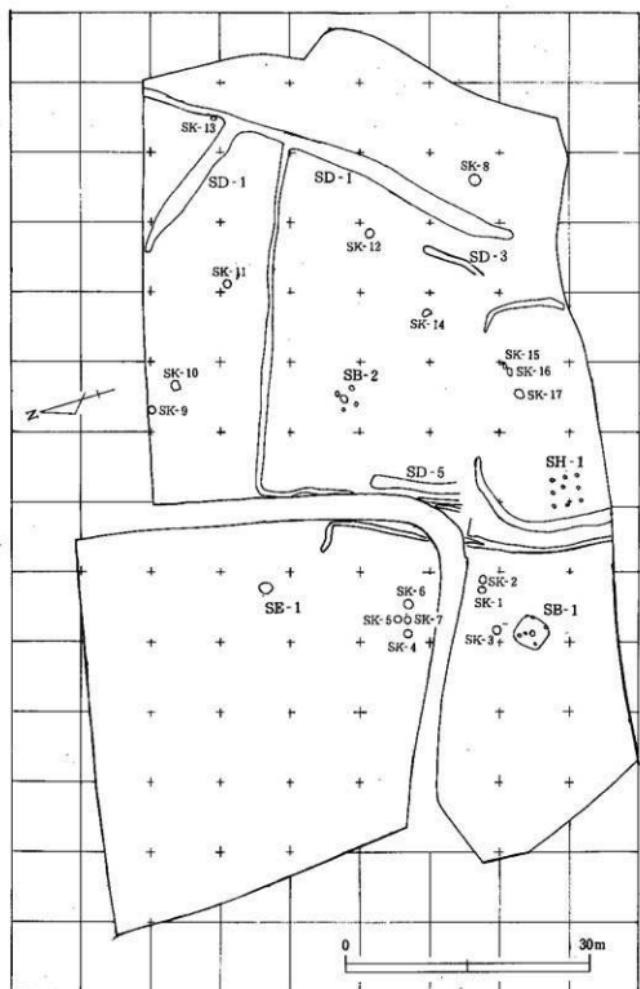
第42図 出土石器、石匙実測図 (1/2)
(SB5-10、SB9-1・13、SB8-9、SB9-6・11、SB10-10、SK2-4・7、SK3-3、遺構外-2・5・8・14・15)



第43図 出土石斧、瑛状耳飾り実測図 (1/3)
(SB4-7、SB8-1、SK1-5、SK13-3、SK37-8、遺構外-2・4・6・9・10・11)

第VII章 米田北遺跡

i 遺跡の環境



本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山北割字米田地内に所在し、標高785mを測る。地形が南傾斜する尾根上に位置する。平成4年度調査の米田遺跡の北側に接して位置する。両遺跡は一体のものである。

第1図 米田北遺跡遺構分布図 (1/600)

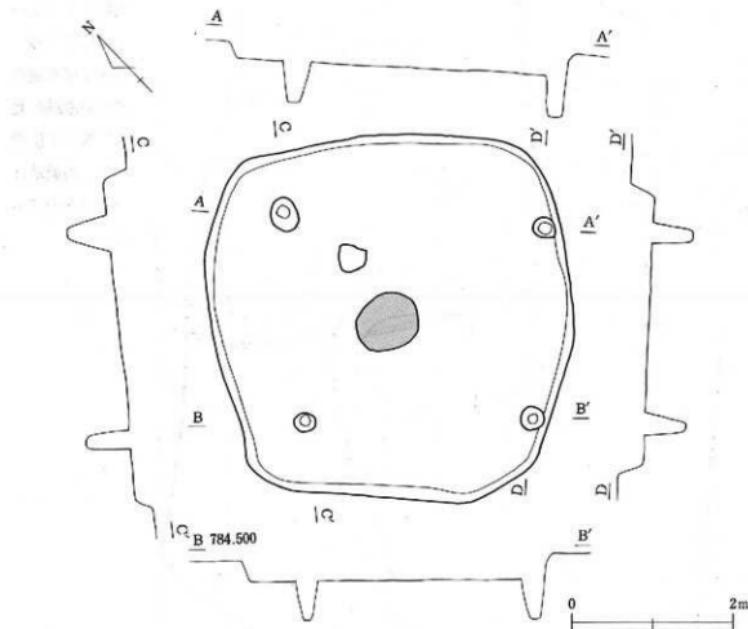
ii 検出された遺構

検出された遺構は、縄文時代前期後葉の住居址1軒、縄文時代中期の住居址1軒、掘建柱建物址、集石土壙1基、土壙墓1基、時期不明の土壙11基、近世の溝10条・井戸1基が検出された。

(1) 積穴住居址

1号住居址 (SB-1) 第2図

本遺跡内の西側(グリッドF-2)に位置する。形状は、4m50cm四方の隅丸方形で、深さ30cmを測る。4本の柱穴があり、炉石がなく、中央部に地床炉が確認された。縄文時代前期後葉と推定される。石器1個(第10図1)が出土した。



第2図 1号住居址実測図 (1/60)

2号住居址（SB-2）第3図

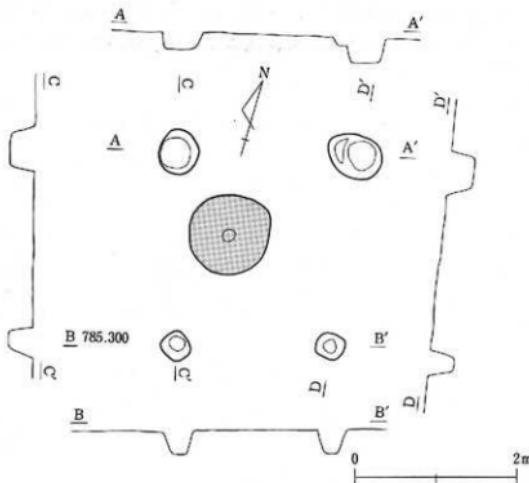
本遺跡内の中央部（グリッドI-5）に位置し、南北1間・東西1間、柱間寸法は梁1m24cm・桁1m90cmと2m30cmを測る。

柱穴は、楕円形で直径32cm

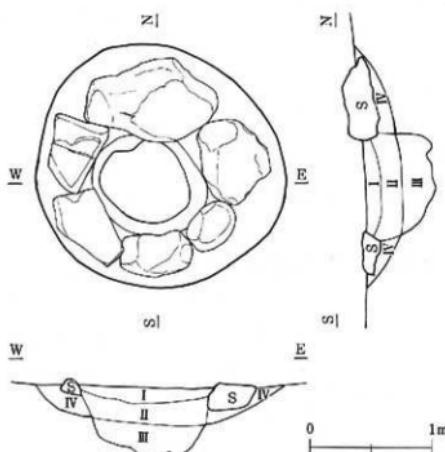
~70cmを測る。住居址中央

に石囲いの炉があり、炉石は横にした状態で出土した。

形状は円形、直径1mを測る。縄文時代中期と推定される。



第3図 2号住居址実測図 (1/60)



第4図 2号住居址炉実測図 (1/40)

土層説明

I層 黒褐色土層、粘性ややあり、

しまり弱

II層 暗褐色土層、粘性あり、しまりややあり（焼土粒子を含む）

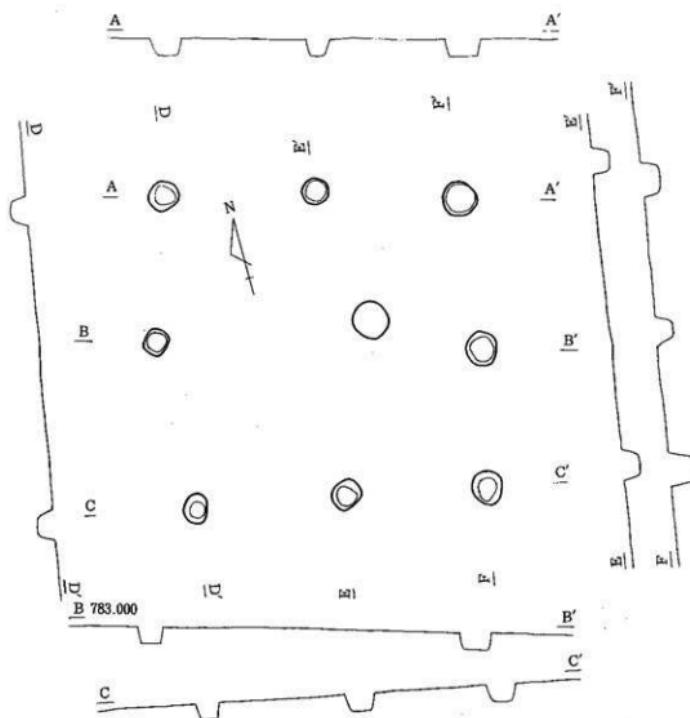
III層 暗褐色土層、粘性しまりややあり（焼土粒子、ロームブロックを含む）

IV層 黄褐色粘質土層、粘性あり、しまりややあり

(2) 掘建柱建物址

1号掘建柱建物址 (SH-1) 第5図

本遺跡内の南側（グリッドH-1・2）に位置し、南北2間（4m～4m28cm）・東西2間（4m～4m40cm）、柱間寸法は梁（1m74cm～1m90cm）・桁（1m70cm～2m10cm）、柱穴はほぼ円形、直径30cm～40cm・深さ20cm～30cmを測る。中央部に座んでいる穴があり、焼土は確認されなかった。



第5図 1号掘建柱建物址実測図 (1/60)

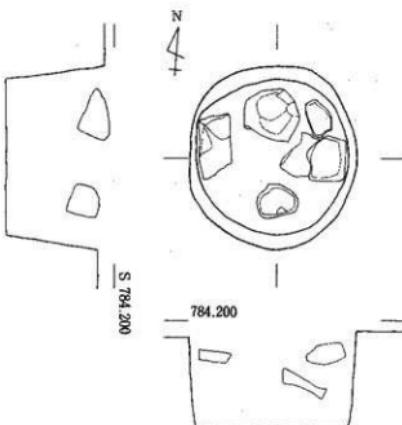
(3) 土 壤

本遺跡内において、土壤は17基検出された。

1号土壤、2号土壤、3号土壤から寛永通宝各5～6枚が出土し土壤墓と推測され、8号土壤は集石土壤であった。他の土壤（第2図参照）は出土遺物がなく、時代不明であった。

1号土壤 (SK-1) 第6図

位置—グリッドE-3。形状—楕円形、長径1m 80cm・短径80cm・深さ50cm。骨片、銭5枚が出土した。土壤墓と推測される。

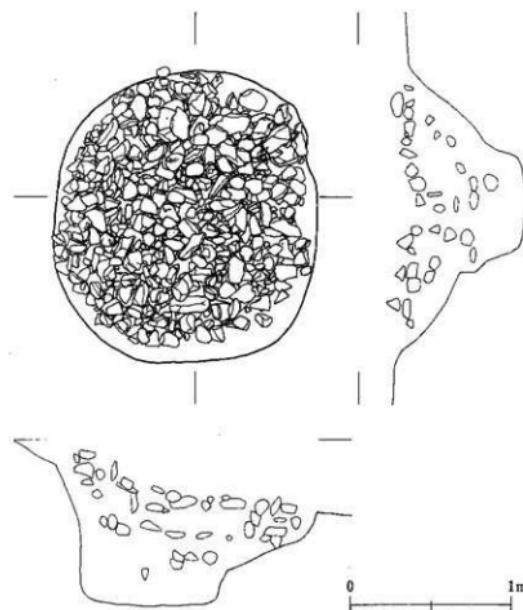


第6図 1号土壤実測図 (1/20)

8号土壤 (SK-8)

第7図

位置—グリッドL-3。形状—楕円形、長径1m 80cm・短径1m 60cm・深さ75cm。握り拳大ほどの石が幾層に積み重ねられた集石土壤である。底部は黒色土であった。時期不明である。仮定するに、幾層の石がろ過装置の役割を意味し、使った水、使い残しの水を捨てた場所と考えられ、水を浄化し元に返して、再び豊かな水に恵まれることを祈る信仰によると見られる。



第7図 8号土壤実測図 (1/30)

(4) 井 戸

1号井戸 (SH-1) 第8図

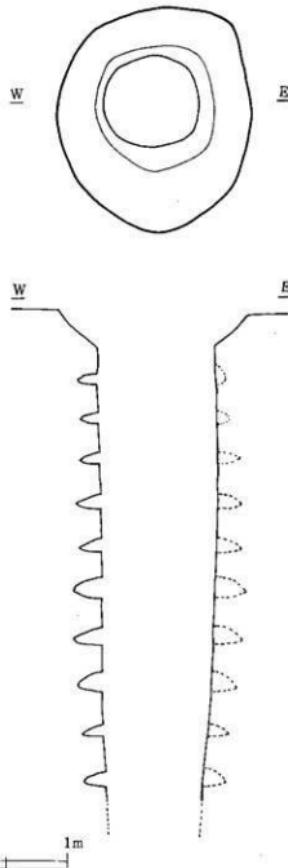
位置—グリッドF-6。形状—楕円形、長径1m84cm・短径1m58cm・深さ(水面まで)4mを測る。手足を踏み入れる側穴が約24cm間隔であった。

(5) 溝

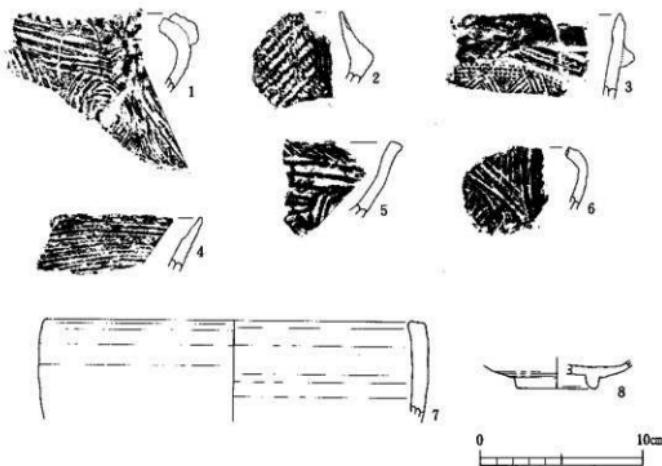
本遺跡内に幾条に縦横に走っている(第1図参照)。水路や道路として用いられ、集落、住居の境界の役割を持っていたと見られる。

三 出土した遺物

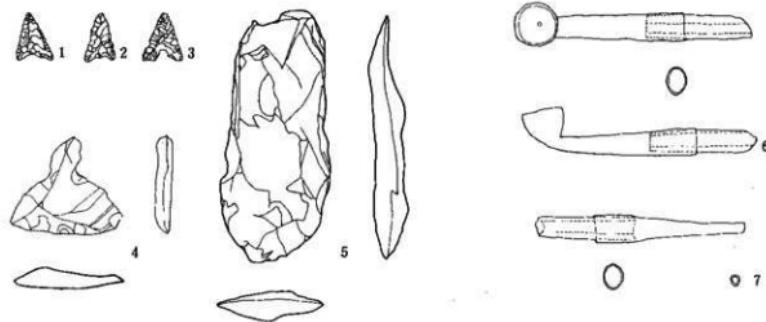
出土した遺物は、1号住居址から石鎌1個(第10図)、1号土壙から5枚・2号土壙から5枚・3号土壙から6枚(第11図)の寛永通宝が出土し、2号土壙からキセル2本(第10図)が出土した。遺構外からは、縄文時代前期後葉の土器、石鎌、石斧、中世の内耳土器、近世の陶磁器(第9図)などが出土した。



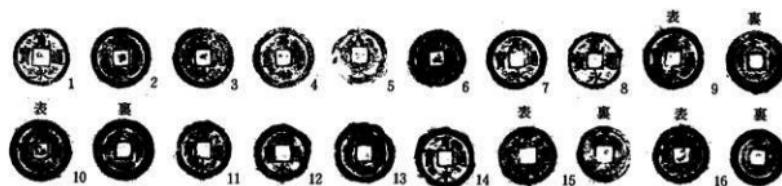
第8図 1号井戸実測図 (1/40)



第9図 造構外出土土器実測図（縄文－1～6、中世－7、近世－8）(1/3)



第10図 1号住・土壤・造構外出土遺物実測図(1/2)
(1号住-1、土壤-6・7、造構外-2～5)



第11図 土 壤 出 土 錢 拓 影(1/2)
(SK1-1～5、SK2-6～10、SK3-11～16)

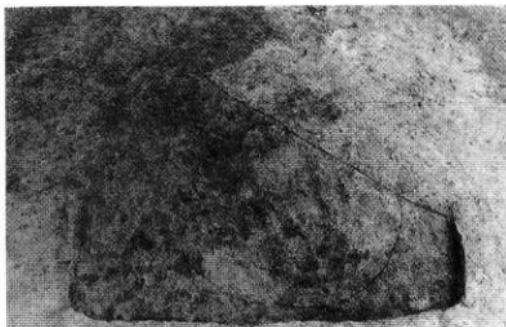
図 版

藤林寺跡 図版 1

遺構全景（南側より）



4号住居址

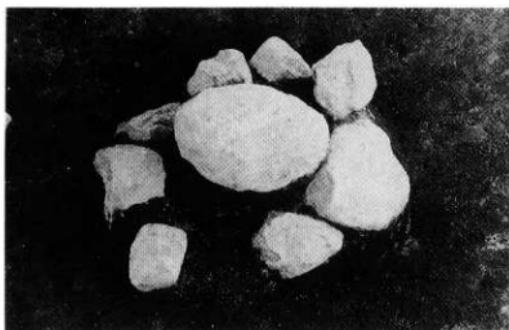


配石遺構

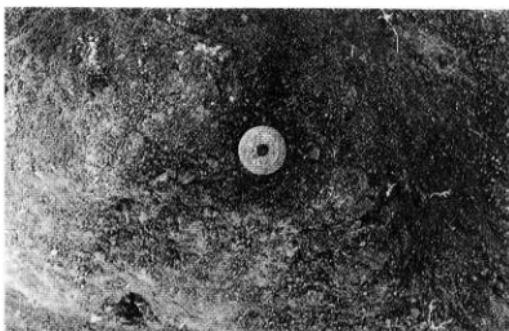


藤林寺跡 図版 2

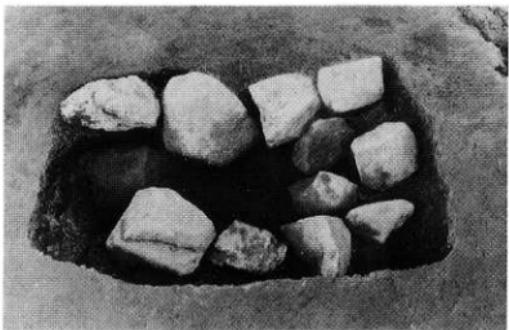
1号土壤



2号土壤（錢出土）

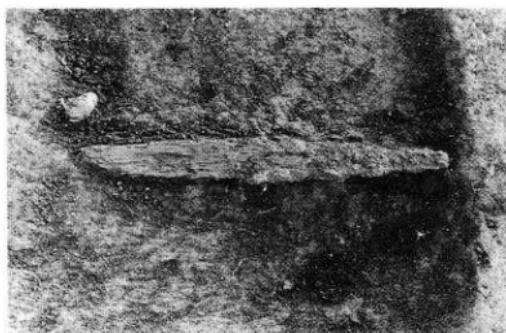


3号土壤



藤林寺跡 図版 3

10号土壤（短刀出土）



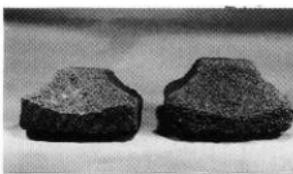
12号土壤



藤林寺跡 図版4



空 風 輪



火 輪

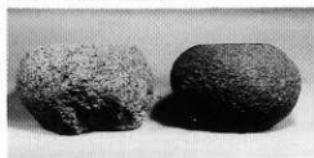


水 輪

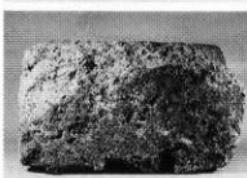


五 輪 塔

藤林寺跡 図版 5



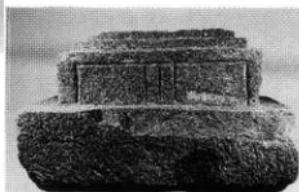
水
輪



五
輪
塔



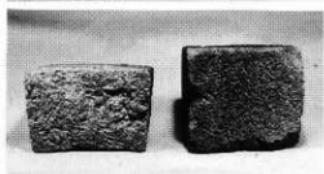
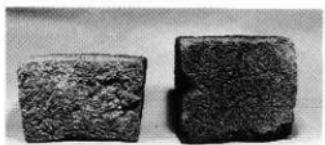
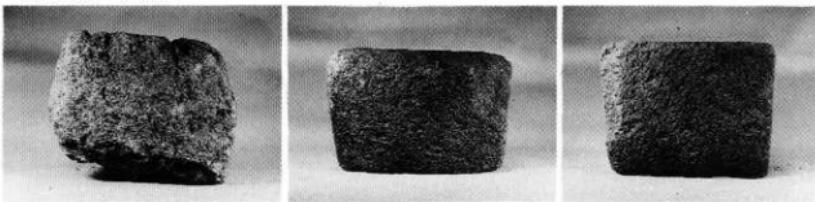
地
輪



石
塔
の
基
壇



藤林寺跡 図版 6



地 輪

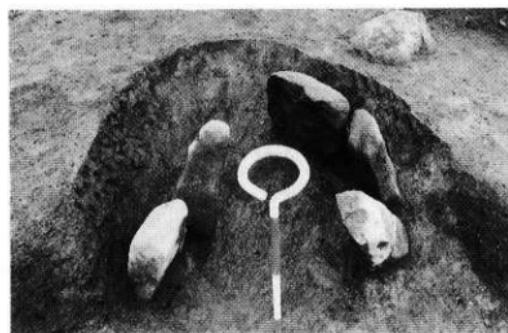


復元した五輪塔

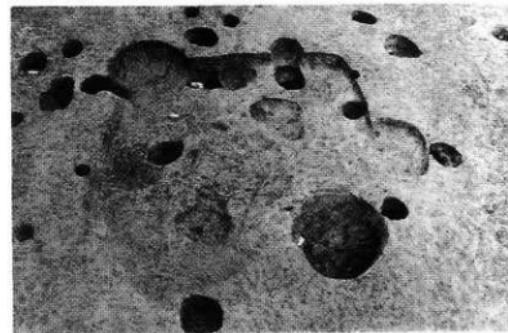
八ツ牛 図版1



1号住居址



1号住居址カマド

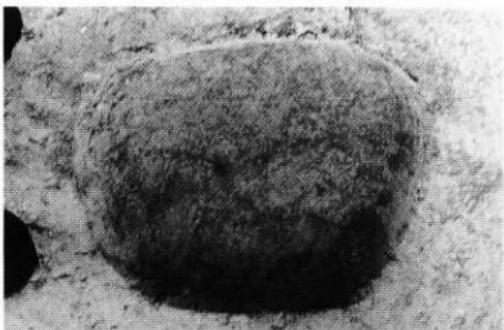


2号住居址

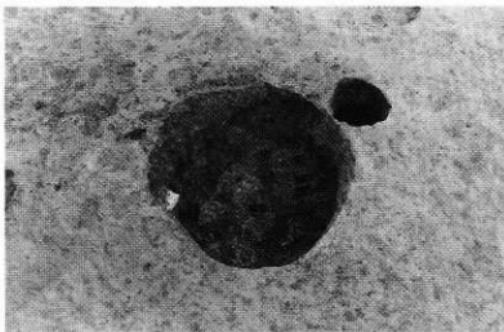
八ツ牛 図版2



掘建柱建物址群（西より）

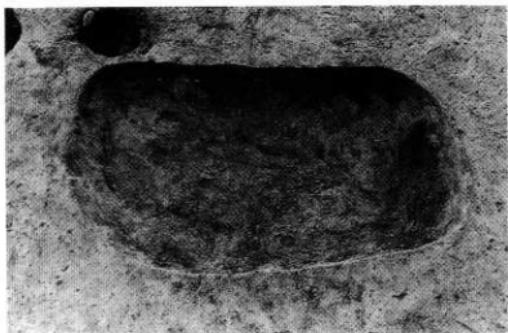


1号土壤

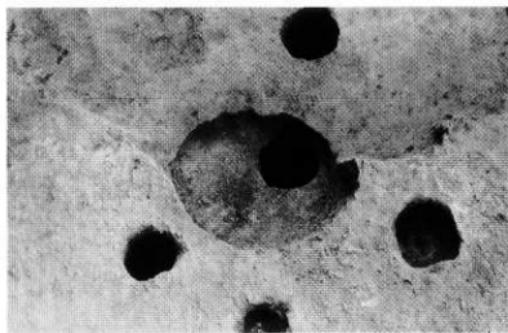


3号土壤

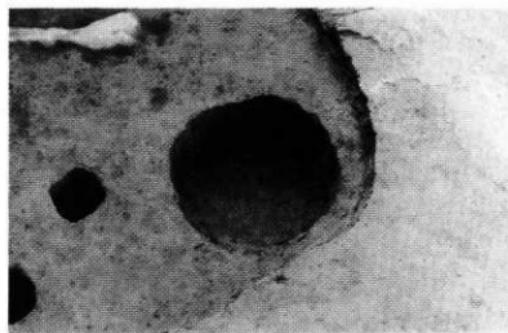
八ッ牛 図版3



4号土壤



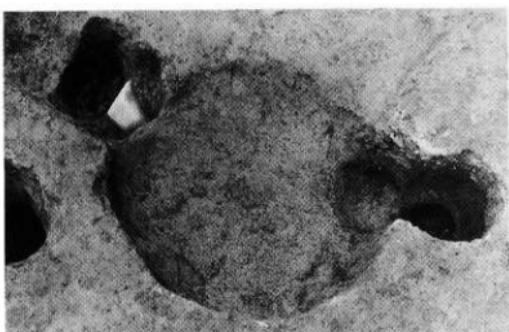
5号土壤



6号土壤

八ッ牛 図版4

7号土壤



8号土壤



9号土壤



持井北 図版1

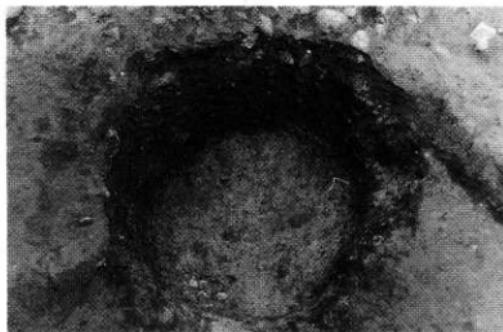
遺跡近景（北側より）



土層断面図

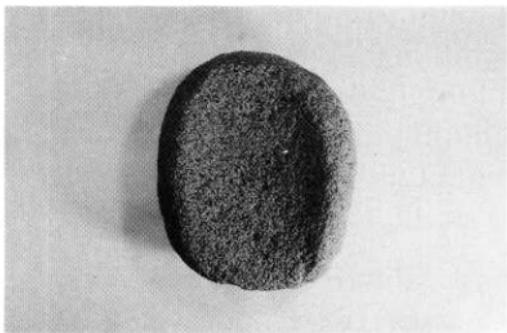


1号土壤

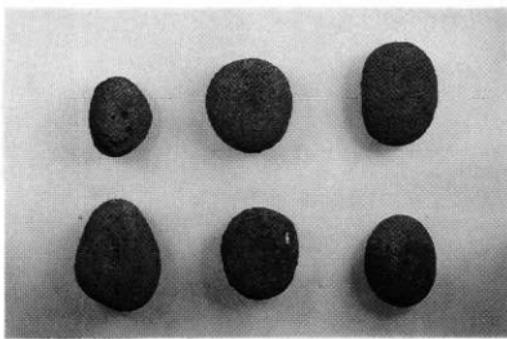


持井北 図版2

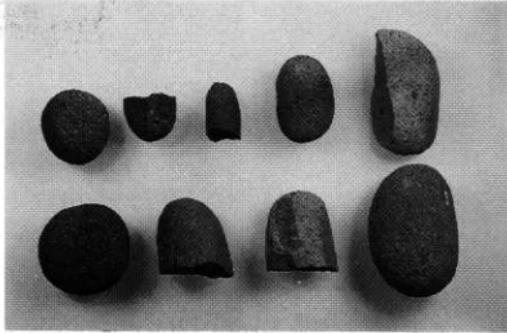
石皿



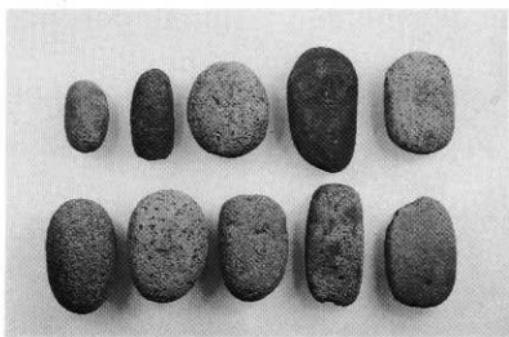
すり石、凹石



すり石、凹石



持井北 図版3



すり石、凹石



石斧

八ッ牛北 図版 1



遺跡全景（南側より）



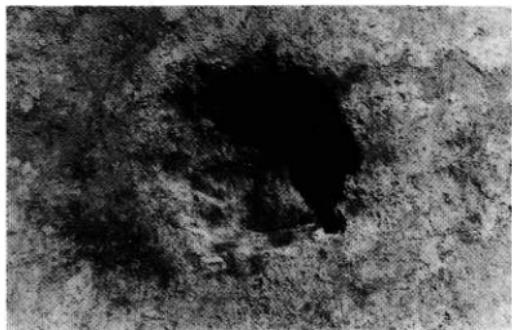
遺跡近景（南側より）



1号土壙

八ッ牛北 図版2

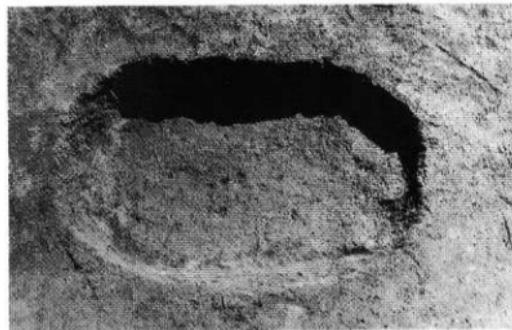
2号土壤



3号土壤



4号土壤

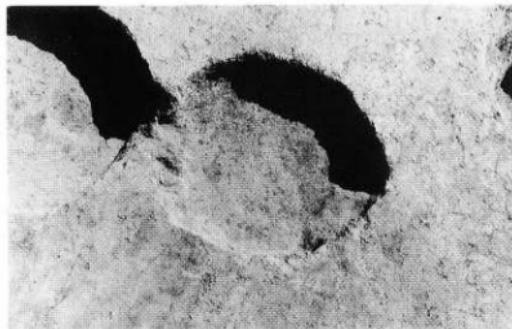


八ッ牛北 圖版 3

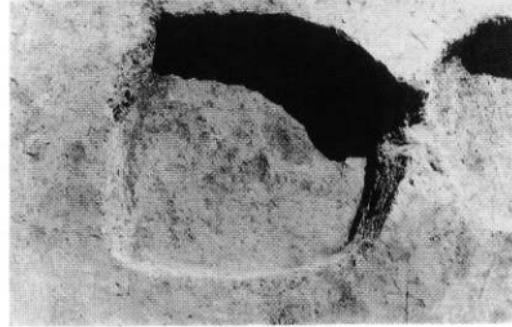
5 号 土 壤



6 号 土 壤



7 号 土 壤



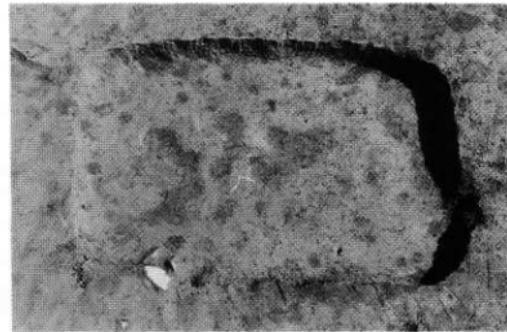
八ツ牛北 図版 4



8 号 土 壤



9 号 土 壤



10 号 土 壤

下風呂 図版1



遺跡近景（北側より）



1号住居址



1号住居址炉

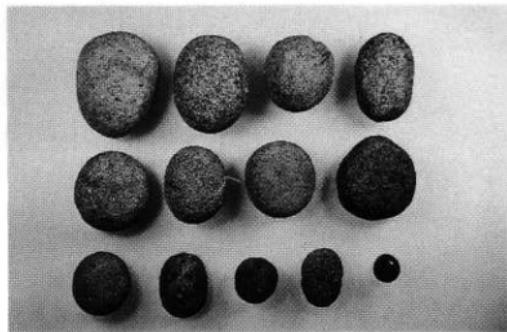
下風呂 図版2



2号住居址炉



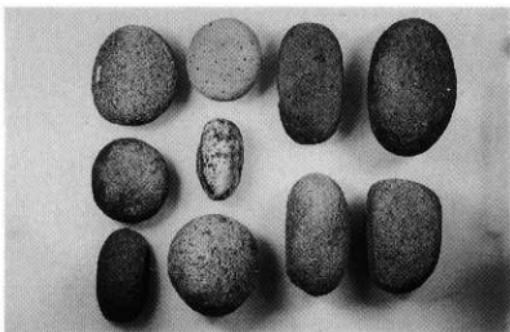
石 棒



すり石、凹石

下風呂 図版3

すり石、凹石



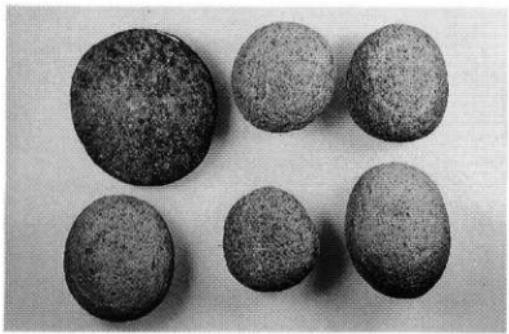
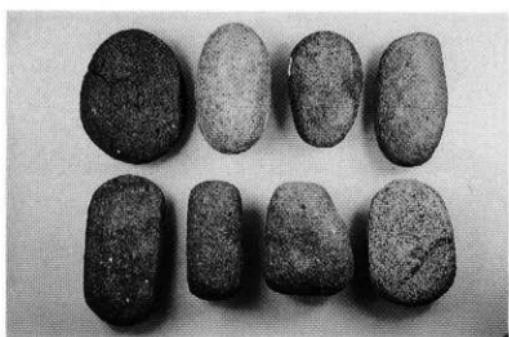
すり石、凹石



すり石、凹石

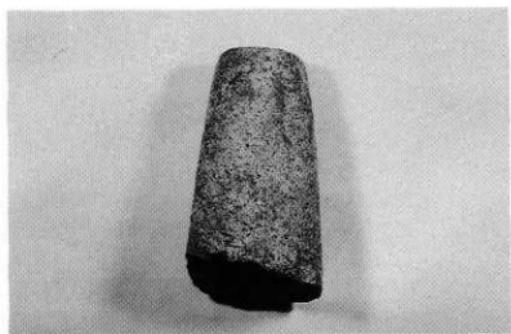


下 風 呂 図版4

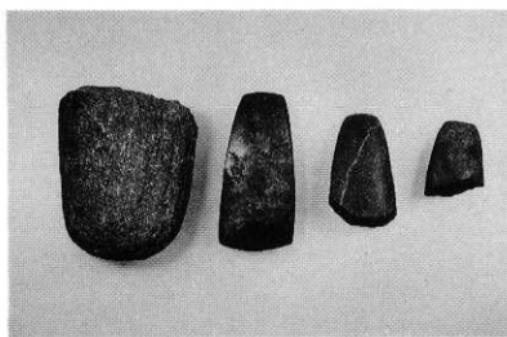


下 風 呂 図版 5

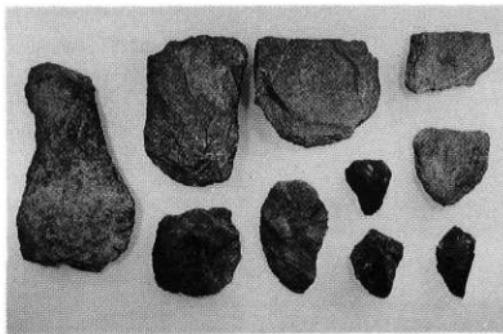
石 棒



磨 製 石 斧



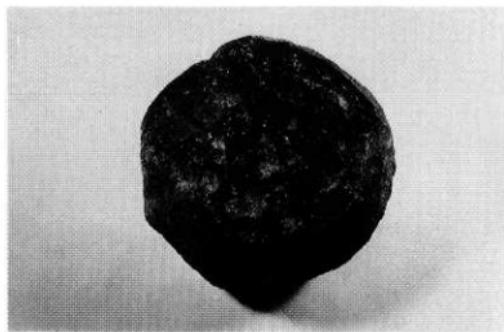
打 製 石 器



下風呂 図版6



蜂巣石



蜂巣石

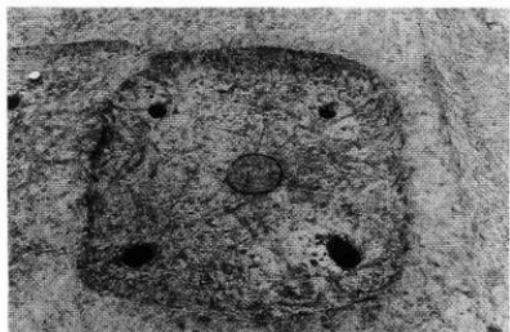
米 田 図版 1



遺跡全景（北側より）

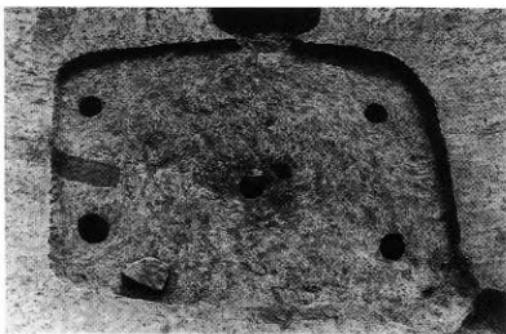


1号住居址炉

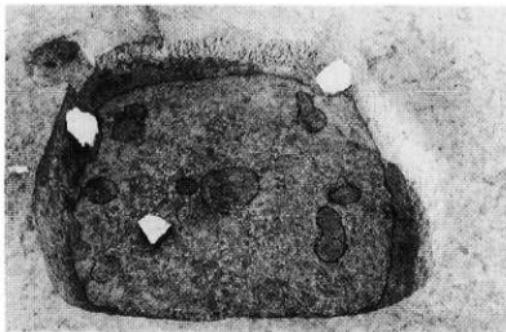


3号住居址

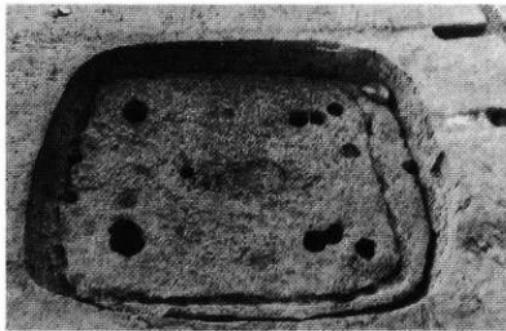
米 田 図版 2



4号住居址



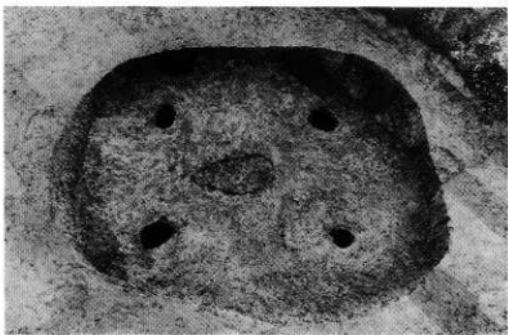
5号住居址



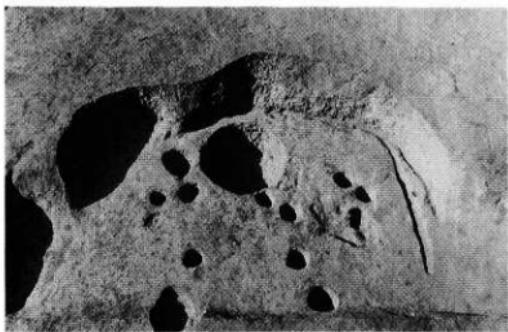
6号住居址

米 田 圖版 3

7 号 住居 址



8 号 住居 址



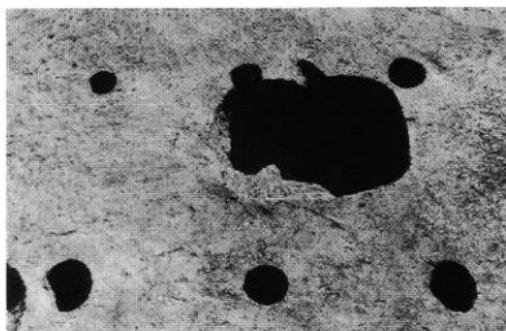
11 号 住居 址



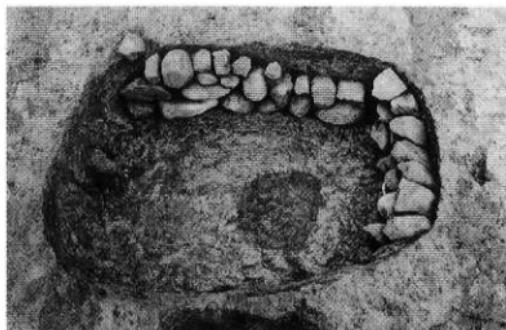
米 田 図版 4



据建柱建物址群



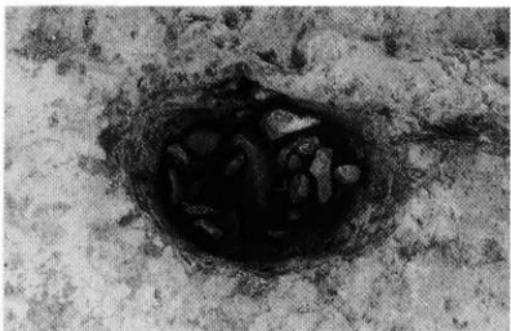
1号据建柱建物址



15号土 壤

米 田 圖版 5

38 号 土 壤



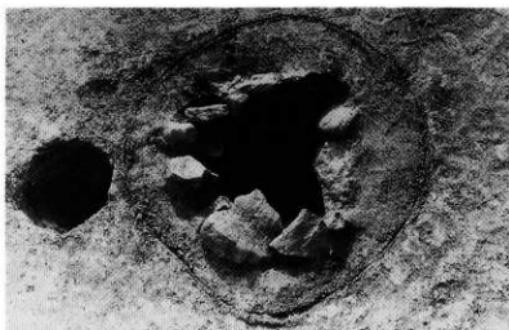
2 号 集石土壤



1 号 井 戸



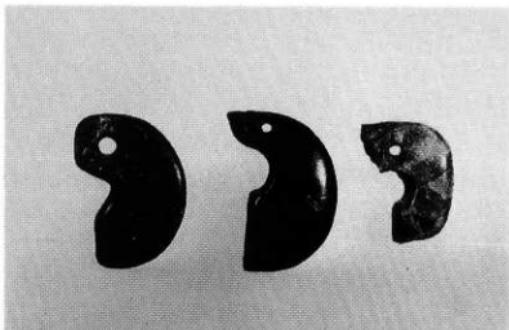
米 田 図版 6



2 号 井 戸



陶 器

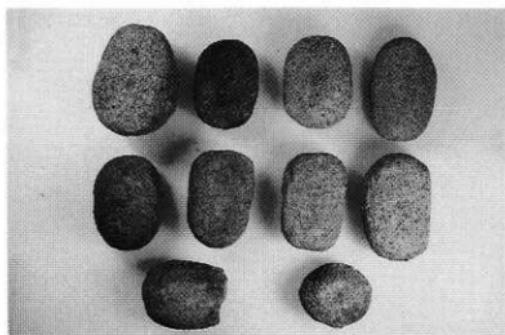


块 状 耳 飾 り

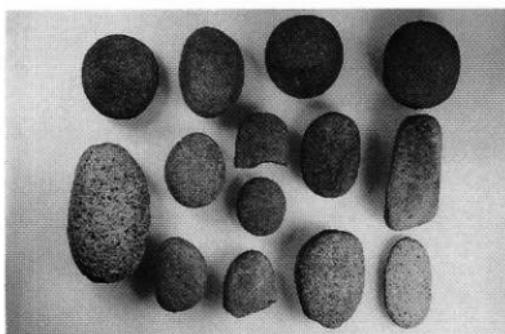
米 田 図版 7



小型定型磨製石斧

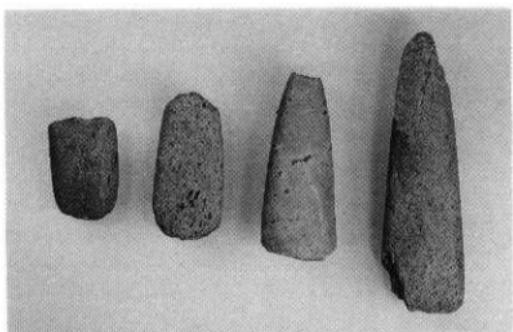


すり石、凹石

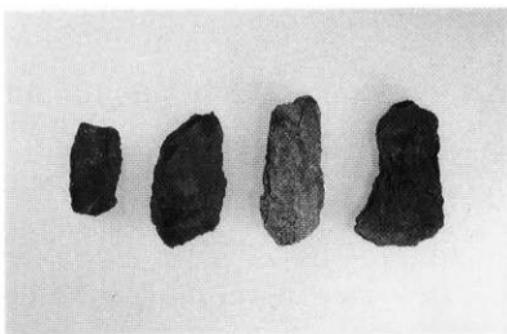


すり石、凹石

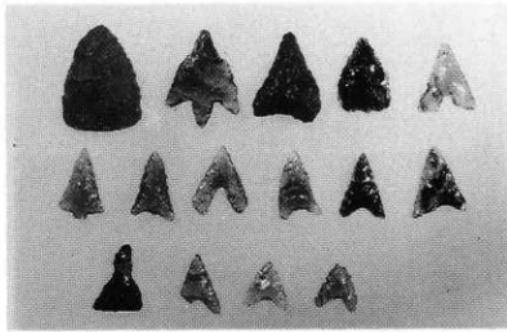
米 田 圖版 8



磨 製 石 斧

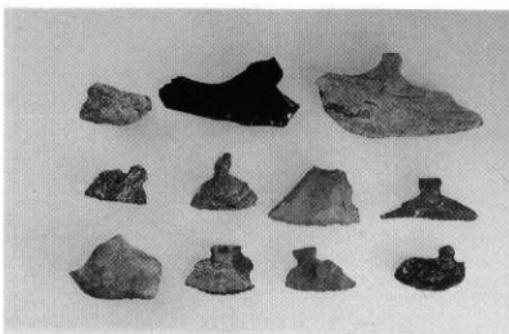


打 製 石 斧



石 鏃

米 田 図版9



石 匙

米田北 図版1

遺跡近景（南側より）



遺跡近景（南西側より）

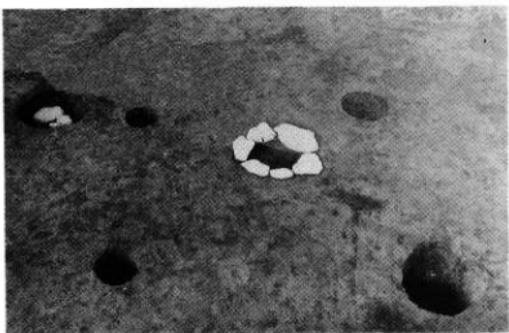


1号住居址

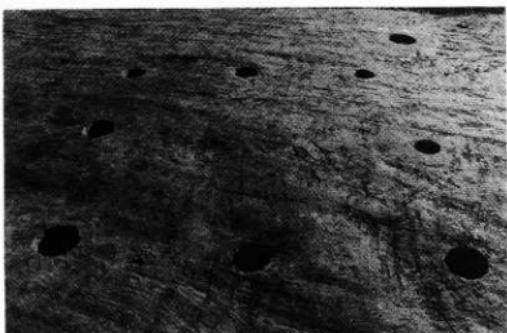


米田北 図版2

2号住居址



1号据建柱建物址



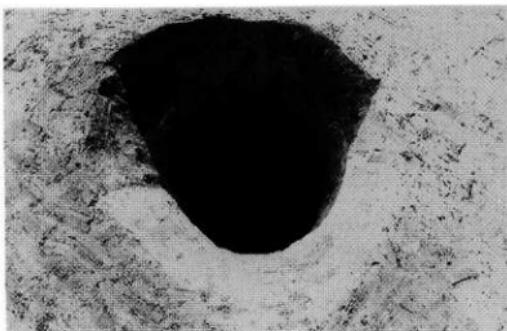
2号土壤



米田北 圖版3



8号土壤



1号井戸



溝

報 告 書 概 要

ふりがな	とうりんじあといせき、やつじいせき、もちいきたいせき、やつじきたいせき、しもふろいせき、よねだいせき、よねだきたいせき、けんえいほじょうせいびじょうにともなうまいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ
書 名	藤林寺跡遺跡、ハッ牛遺跡、持井北遺跡、八ッ牛北遺跡、下風呂遺跡、米田遺跡、米田北遺跡、県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高根町埋蔵文化財
シリーズ番号	第9集
編 者 名	雨宮 正樹
発 行 者	高根町教育委員会
所 在 地	〒408 山梨県北巨摩郡高根町村山北割 3261番地 TEL 0551-47-3111
印 刷 所	アートプリント社 〒407 山梨県韮崎市本町一丁目 17番30号 TEL 0551-22-0840
発行年月日	平成9(西暦1997)年3月31日
ふりがな	とうりんじあといせき
所 収 遺 跡	藤林寺跡遺跡
所 在 地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字当町 3490番地 ほか
位 置	北緯 35° 50' 10" 東経 138° 24' 42"
調査期間	昭和63年9月10日～昭和63年12月25日
調査面積	4,000 m ²
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文中期、平安時代、中世
主な遺構	縄文中期住居址1軒、平安時代住居址3軒、掘建柱建物址1棟、中世土壤13基、集石配石遺構
主な遺物	平安時代土師器、中世五輪塔
特殊遺物	小型石碑、鉄製品(短刀、鎌)、土製纺錘車、北宋錢、近世キセル
ふりがな	やつじいせき
所 収 遺 跡	ハッ牛遺跡
所 在 地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字ハッ牛 3116番地 ほか
位 置	北緯 35° 50' 20" 東経 138° 24' 55"
調査期間	平成元年11月1日～平成元年12月20日
調査面積	2,000 m ²
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	平安時代、中世
主な遺構	平安時代住居址3軒、掘建柱建物址群、時期不明土壤9基
主な遺物	平安時代土師器・内黒土器、灰釉土器、中世羽釜・内耳土器・砌石
ふりがな	もちいきたいせき
所 収 遺 跡	持井北遺跡
所 在 地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字持井 3754番地 ほか
位 置	北緯 35° 50' 25" 東経 138° 24' 45"
調査期間	平成2年9月1日～平成2年9月11日
調査面積	1,000 m ²
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文時代前期
主な遺構	土壤1基
主な遺物	縄文時代前期後葉土器(諸磯式土器)、石鎌、石匙、磨製石斧

ふりがな	やつじきたいせき
所 収 遺 跡	ハッ牛北遺跡
所 在 地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字ハッ牛 2977番地 ほか
位 置	北緯 35° 50' 30" 東経 138° 24' 55"
調査期間	平成 2 年 9 月 12 日～平成 2 年 9 月 30 日
調査面積	1,500 m ²
調査原因	県営は場整備事業
主な時代	平安時代
主な遺構	平安時代住居址 1 軒、土壙 10 基
主な遺物	平安時代土師器・内黒土器、須恵器・灰釉土器
ふりがな	しもふろいせき
所 収 遺 跡	下風呂遺跡
所 在 地	山梨県北巨摩郡高根町村山東割字下風呂 92番地 ほか
位 置	北緯 35° 49' 45" 東経 138° 24' 50"
調査期間	平成 2 年 7 月 20 日～平成 2 年 8 月 31 日
調査面積	1,000 m ²
調査原因	県営は場整備事業
主な時代	縄文時代中期・後期
主な遺構	縄文時代後期住居址 2 軒
主な遺物	縄文時代中期最終末～後期中葉土器、土偶、石鏃、石匙
ふりがな	よねだいせき
所 収 遺 跡	米田遺跡
所 在 地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字米田 4007番地 ほか
位 置	北緯 35° 50' 30" 東経 138° 24' 45"
調査期間	平成 4 年 9 月 1 日～平成 4 年 11 月 20 日
調査面積	5,000 m ²
調査原因	県営は場整備事業
主な時代	縄文時代前期・中期、中世、近世
主な遺構	縄文時代前期住居址 10 軒、縄文時代中期住居址 1 軒、縄文時代土壙 5 基、中世以降土壙 45 基、近世井戸 2 基・溝 2 条、掘建柱建物址 1 棟
主な遺物	縄文時代中期土器、石鏃、石匙、打製・磨製石斧、中世内耳土器、块状耳飾
特殊遺構	集石配石遺構 3 基
ふりがな	よねだきたいせき
所 収 遺 跡	米田北遺跡
所 在 地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字米田 4010番地 ほか
位 置	北緯 35° 50' 40" 東経 138° 24' 45"
調査期間	平成 5 年 8 月 1 日～平成 5 年 12 月 20 日
調査面積	8,000 m ²
調査原因	県営は場整備事業
主な時代	縄文時代前期・中期、中世、近世
主な遺構	縄文時代前期後葉住居址 1 軒、縄文時代中期住居址 1 軒、掘建柱建物址 1 棟、集石土壙 1 基、土壙墓 1 基、時期不明土壙 11 基、近世井戸 1 基・溝 10 条
主な遺物	縄文時代前期後葉土器、石斧、中世内耳土器、近世陶磁器、錢（寛永通宝）、キセル

高根町埋蔵文化財 第9集
平成9年3月19日 印刷
平成9年3月31日 発行

藤林寺跡遺跡
八ッ牛遺跡
持井北遺跡
八ッ牛北遺跡
下風呂遺跡
米田遺跡
米田北遺跡

発行所 高根町教育委員会
印刷所 アートプリント社

